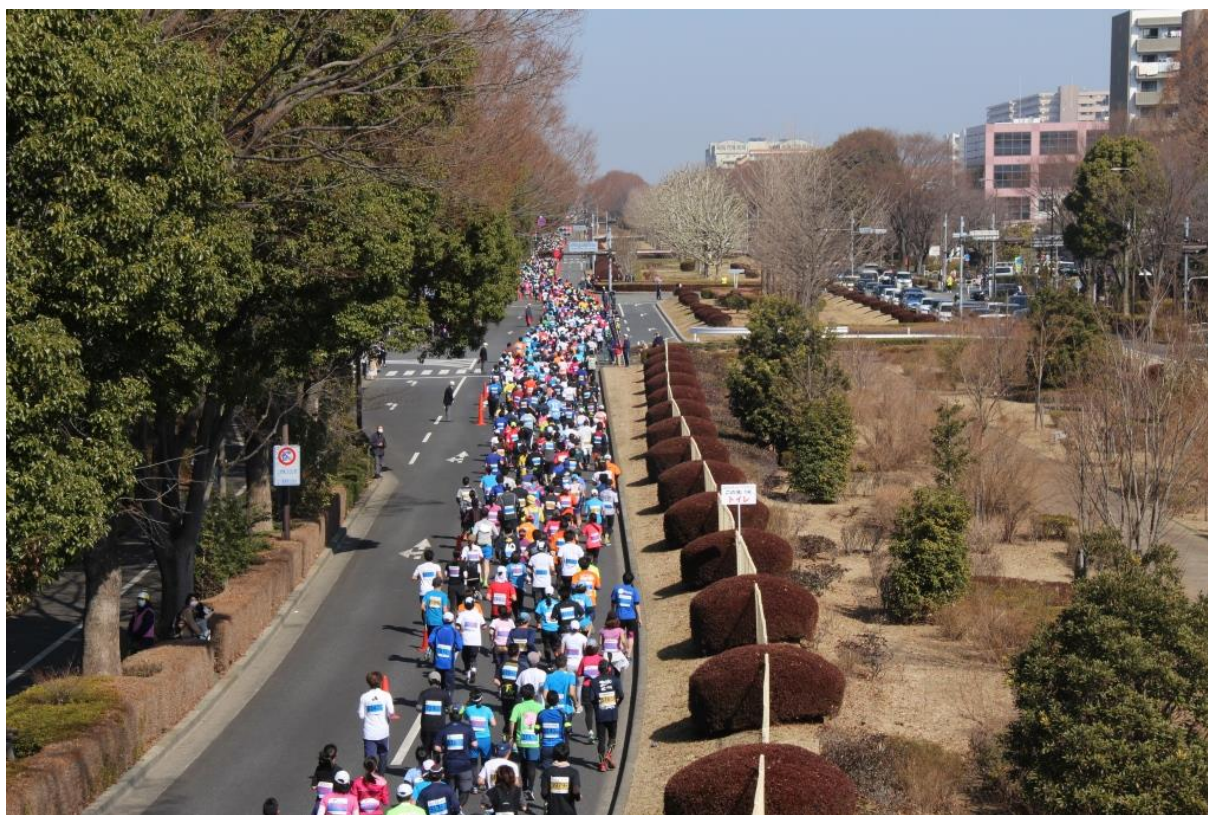


立川市第2次スポーツ推進計画



令和2（2020）年
立川市

目 次

第1章	計画策定の基本的な考え方	1
1	スポーツ推進計画の策定経緯等	1
2	計画の位置付け	2
3	計画の期間	2
4	国及び東京都の動向	3
5	社会状況の変化と課題	5
6	学校体育との連携	6
第2章	スポーツ推進計画の成果と課題	7
1	基本方針1 市民のライフステージに応じたスポーツの推進	7
2	基本方針2 交流と連携による地域スポーツの推進	9
3	基本方針3 スポーツ環境の充実	11
第3章	計画の体系	15
第4章	計画の取組事項	16
1	基本方針1 市民のライフステージに応じたスポーツの推進	16
(1)	子どものスポーツの推進	16
(2)	成人や子育て世代のスポーツの推進	18
(3)	高齢者のスポーツの推進	19
(4)	障害者のスポーツの推進	20
2	基本方針2 交流と連携による地域スポーツの推進	21
(1)	地域スポーツクラブの支援	21
(2)	地域スポーツ団体との連携によるスポーツ振興・競技力向上の推進	22
(3)	地域におけるスポーツの推進	23
(4)	ニュースポーツによるスポーツの推進	24
(5)	立川シティハーフマラソンの推進	25
(6)	プロスポーツチーム等との連携によるスポーツの推進	25
3	基本方針3 スポーツ環境の充実	26
(1)	既存スポーツ施設等の整備・充実	26
(2)	学校施設の有効活用	28
(3)	指導者の育成・確保	28
(4)	情報の提供	29
(5)	健康づくり事業の推進	29
(6)	オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とするスポーツの推進	30
第5章	計画の推進	33
1	計画の市民等への周知と協働による推進	33
2	計画の進行管理	33
3	教育委員会や関係部署との連携・協力	33
4	立川市スポーツ推進審議会への進捗報告・意見聴取	33

資料編	34
1 用語解説	35
2 策定組織の開催経過	38
3 立川市民のスポーツに関する意識調査結果	39
4 スポーツ施設の利用状況（体育館・屋外）	65
5 スポーツ施設の利用状況（小・中学校）	68
6 スポーツ事業の実績	71
7 立川市スポーツ推進審議会条例	74
8 立川市スポーツ推進審議会委員名簿	75
9 立川市スポーツ推進委員協議会組織図	76
10 立川市スポーツ推進委員規則	77
11 立川市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱	78

「スポーツ」とは

スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）の前文では、「スポーツ」は次のように定義されています。

心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、
自律心その他の精神の涵養等のために
個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動

人はスポーツをすることによって、楽しさや喜びなどを覚えたりするほか、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進などさまざまな効果が期待できます。

そのため、本計画においても、スポーツとは、ルールに基づいて勝敗や記録を競うものだけではなく、余暇時間や仕事時間等を問わず健康を目的とする身体活動、さらには遊びや楽しみを目的とした身体活動（相応のエネルギー消費を伴うもの）まで、そのすべてを幅広く含むものとしています。

また、スポーツには、自ら行う「する」スポーツ、スポーツ観戦などの「みる」スポーツ、ボランティアとしてスポーツ大会の運営に関わるなどの「ささえる」スポーツの側面があります。

第1章

計画策定の基本的な考え方

1 スポーツ推進計画の策定経緯等

平成7(1995)年6月に立川市スポーツ振興審議会から21世紀を見据えた本市のスポーツ振興方針における答申をいただき、これを踏まえ、平成9(1997)年2月に庁内策定委員会を設置し、本計画の礎が築されました。

◆ スポーツ振興計画（平成12(2000)年度～平成16(2004)年度）

【計画の趣旨】

「心と体の健康づくり」…生活様式の変化に伴うストレスや運動不足の対応
「生きがいづくり」…能力が十分に発揮でき、自己実現が図れ、心の豊かさにつながる
「コミュニティづくり」…人間的な豊かなふれあいを醸成する

◆ 第2次スポーツ振興計画（平成17(2005)年度～平成21(2009)年度）

【計画の趣旨】

市民一人ひとりが自らの希望に応じたスポーツの機会を享受できる条件を整備するとともに、「だれでも」「いつでも」「どこでも」「いつまでも」生涯スポーツのまちづくりを目標に進める。

◆ 第3次スポーツ振興計画（平成22(2010)年度～平成26(2014)年度）

【計画の趣旨】

平成20(2008)年度の立川市スポーツ振興審議会の答申を尊重するとともに、市民意向調査結果などを参考に、子どもや障害者、高齢者まで、また体力の違いに応じ、すべての人が身近にスポーツに親しむことができるよう、「生涯スポーツのまち」づくりを実現する。

◆ スポーツ推進計画（平成27(2015)年度～平成31(2019)年度）

【計画の趣旨】

市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しむことができるまち立川を基本理念に、「市民のライフステージに応じたスポーツの推進」「交流と連携による地域スポーツの推進」「スポーツ環境の充実」を基本方針に掲げ、各種取組を推進することにより、スポーツ実施率70%の取組目標を実現する。

※ 平成23(2011)年6月に「スポーツ振興法」を全面改定した「スポーツ基本法」が制定されたことを受け、東京都はスポーツ振興計画を見直した際に、「スポーツ推進計画」と名称を変更しました。本市においても、東京都の例に倣い、「スポーツ推進計画」としました。

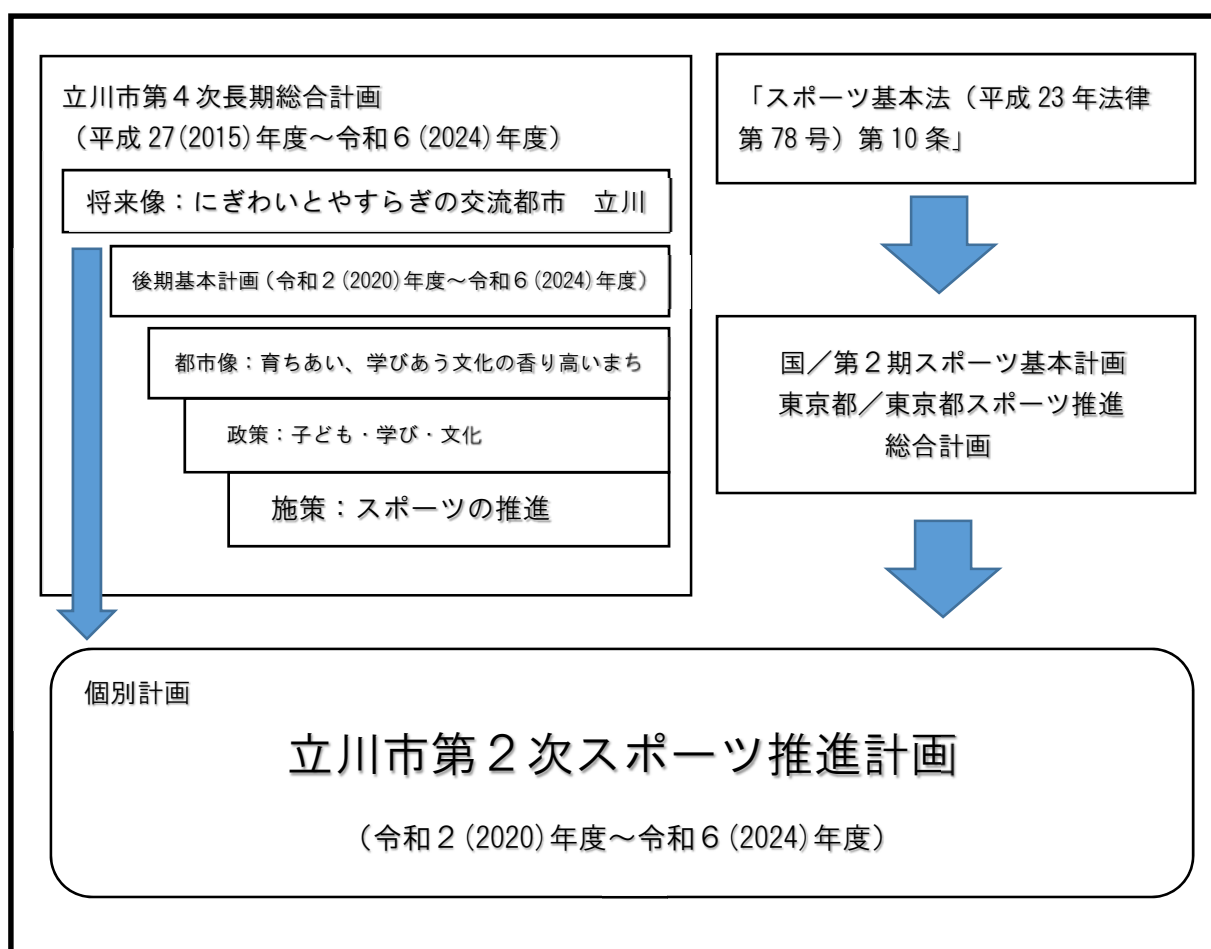
※ スポーツ推進計画の進捗状況などについては、「第2章 スポーツ推進計画の成果と課題」（7頁）に記載しています。

2 計画の位置付け

本市では、平成 27(2015)年 3 月に第 4 次長期総合計画(平成 27(2015)年度～令和 6(2024)年度)を策定し、まちづくりの将来像「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」を実現するため、平成 27(2015)年度から平成 31(2019)年度までの 5 年間を計画期間とする前期基本計画を策定し、スポーツ分野の個別計画としてスポーツ推進計画を策定しました。

前期基本計画が平成 31(2019)年度末で終了することから、令和 2(2020)年度から令和 6(2024)年度を計画期間とする後期基本計画の開始に合わせて、スポーツ推進計画を引き継ぐ計画として、第 2 次スポーツ推進計画を策定しています。

第 2 次スポーツ推進計画は、国の「第 2 期スポーツ基本計画」(平成 29(2017)年 4 月策定)及び東京都の「東京都スポーツ推進総合計画」(平成 30(2018)年 3 月策定)も踏まえ、策定しました。



3 計画の期間

第 4 次長期総合計画後期基本計画の計画期間と整合を図り、令和 2(2020)年度を初年度とする 5 年間を計画期間とします。

4 国及び東京都の動向

(1) 国の動向

・スポーツ立国戦略

文部科学省では、平成 22(2010)年 8 月に「スポーツ立国戦略」を策定し、わが国の「新たなスポーツ文化の確立」を目指し、「人（する人、観る人、支える（育てる）人）の重視」、「連携・協働の推進」を基本的な考え方として、今後おおむね 10 年間で実施すべき 5 つの重点戦略を定め、その体制整備のあり方などを示しています。

【重点戦略】

- ① ライフステージに応じたスポーツ機会の創造
- ② 世界で競い合うトップアスリートの育成・強化
- ③ スポーツ界の連携・協働による「好循環」の創出
- ④ スポーツ界における透明性や公平・公正性の向上
- ⑤ 社会全体でスポーツを支える基盤の整備

・スポーツ基本法

「スポーツ立国戦略」を基に、「スポーツ基本法」が平成 23(2011)年 6 月に制定されました。スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利であることの考えに立った新しい時代におけるスポーツの基本理念を提示し、国、地方公共団体、スポーツ団体をはじめとする関係者の連携と協働によって、その基本理念の実現を図ることを具体的に規定しています。

・スポーツ基本計画

平成 24(2012)年 3 月に「スポーツ基本計画」が策定され、今後 10 年間を見通したスポーツ推進の基本方針と、今後 5 年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策を定め、一体的な推進を図ることとしています。

【今後 5 年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策】

- ① 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実
- ② 若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- ③ 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備
- ④ 国際競争力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備
- ⑤ オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進
- ⑥ ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性、公平・公正性の向上
- ⑦ スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進

・第 2 期スポーツ基本計画

平成 27(2015)年 10 月にスポーツ庁が発足し、これまで複数の省庁で行われていたスポーツ関連業務や権限が一元化されました。また、平成 29(2017)年 4 月に策定された「第 2 期スポーツ基本計画」は、2021 年度までの 5 年間を計画期間とし、スポーツ参画人口を拡大し、他分野との連携・協力により「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことが基本方針とされています。

【第2期スポーツ基本計画の4つの指針】

- ① スポーツで「人生」が変わる！
- ② スポーツで「社会」を変える！
- ③ スポーツで「世界」とつながる！
- ④ スポーツで「未来」を創る！

【数値目標】

スポーツ実施率 65%（週1回以上スポーツを実施する成人の割合）

（2）東京都の動向

・東京都スポーツ推進計画

スポーツ基本法の制定を受け、「東京都スポーツ振興基本計画」（平成20(2008)年7月）を見直し、平成25(2013)年3月に「東京都スポーツ推進計画」が平成32(2020)年度までの新たな指針として策定されました。

【基本理念】

スポーツの力をすべての人に

【目標】

スポーツ実施率 70%（週1回以上スポーツを実施する成人の割合）

【戦略】

- ① スポーツに触れて楽しむ機会の創出
- ② スポーツをしたくなるまちづくり
- ③ ライフステージに応じたスポーツ活動の支援
- ④ 世界を目指すアスリートの育成国際交流、観光、都市づくり政策等との連動

・東京都障害者スポーツ振興計画

全国初となる行政計画「東京都障害者スポーツ振興計画」を平成24(2012)年3月に策定し、「東京都スポーツ推進計画」と相互に連動させて、障害の有無に関わらず、誰でも身近な地域でスポーツを楽しめる環境の整備を重点的に進めることとしています。

・東京都スポーツ推進総合計画

平成30(2018)年3月には、上記の2つの計画が統合された「東京都スポーツ推進総合計画」が策定されました。統合の理由としては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会及びラグビーワールドカップ2019の開催決定や、都民の障害者スポーツへの関心の高まりなど、東京都のスポーツを取り巻く環境の変化に対応し、新たな施策を効果的に展開するとともに、スポーツ振興全般について、障害のある人に配慮した視点を持って施策を普遍的に展開していくためとされています。

【基本理念】

スポーツの力で東京の未来を創る

【数値目標】

都民のスポーツ実施率 70%（週1回以上スポーツを実施する成人の割合）

【計画期間】

平成30(2018)年度から令和6(2024)年度まで

【主な内容】

「スポーツ都市東京」の実現に向け、3つの政策目標を設定

政策目標1 スポーツを通じた健康長寿の達成

政策目標2 スポーツを通じた共生社会の実現

政策目標3 スポーツを通じた地域・経済の活性化

5 社会状況の変化と課題

(1) 超高齢社会※の到来

増え続けてきた我が国の人口は、平成 20(2008)年の 1 億 2,808 万人をピークに減少に転じています。

一方、本市の総人口の見通しとしては、令和 7(2025)年の 184,839 人をピークに減少し、令和 22(2040)年には 177,646 人とピークから 7,193 人減少すると見込まれています。

年齢階層別に見ると、14 歳以下の人口は平成 30(2018)年の 22,479 人をピークに、15 歳～64 歳の人口は令和 6(2024)年の 116,875 人をピークに、それぞれその後一貫して減少すると見込まれています。65 歳以上の人口は一貫して増加し、とりわけ 75 歳以上の人口が令和 22(2040)年にかけて大きく増加していくと見込まれています。特に、高齢化率は令和 2(2020)年で 24.5%となっており、既に超高齢社会が到来しています。

このような中、高齢者の健康増進や地域の生きがいづくりの観点からも高齢者スポーツ推進の重要性が高まっています。

高齢者が健康で生きがいに満ちた生活を送るためには、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間である「健康寿命※」を延ばしていくことが重要です。健康寿命を延ばし、平均寿命との差をできるだけ短くしていくためには、スポーツが果たす役割は益々大きくなってきています。

<本市の高齢化率(65 歳以上の人口の割合)の推移>

(%)

	平成 27 (2015)年	平成 28 (2016)年	平成 29 (2017)年	平成 30 (2018)年	平成 31 (2019)年	令和 2 (2020)年	令和 3 (2021)年	令和 4 (2022)年
65 歳以上	23.0	23.5	23.8	24.0	24.2	24.5	24.5	24.6

出典：実績値(令和 2(2020)年まで)……立川市「住民基本台帳」

推計値(令和 3(2021)年～令和 4(2022)年)……「立川市第 4 次長期総合計画後期基本計画策定のための将来人口推計調査(2018 年 10 月推計)」

(2) 子どもの体力の低下

スポーツ庁が実施している「全国体力・運動能力、運動習慣等調査(全国体力テスト)」の令和元(2019)年度の結果では、子ども(小学 5 年生及び中学 2 年生を対象)の体力合計点は、平成 20(2008)年度の調査開始以降の推移を見ると、小・中学生の男女ともに低下し、女子よりも男子が大きく低下しており、特に、小学生男女は過去最低の数値でした。

主な背景としては、授業以外の運動時間の減少や、スクリーンタイム※の増加、肥満である児童・生徒の増加、朝食を食べない児童の増加が指摘されています。

現在の子どもを取り巻く状況としては、外遊びの減少に見られるように、日常生活の中で体を自然に動かす機会が少なくなっています。運動を伴う子どもの(外)遊びは、「身体能力」「知性」「社会性」を育てていく上でとても重要です。遊びでからだを動かしたり、運動したりすることにより、子どものからだ(身体能力)は豊かに発達し、また遊びの中でルールを理解するとともに、状況によりルールを変更する等、子どもの創造力(知性)を育みます。さらに大勢の仲間たちとの交わりから、協調性や思いやりを学びます(社会性)。

子どもの成長に欠かせないこれらの能力をバランスよく育むため、子どもたちの体力向上は喫緊の課題となっています。

※は 35 頁から 37 頁の用語解説で説明しています。

（３）地域コミュニティの活性化

都市化やライフスタイルの多様化などによる地域のつながりの希薄化が、近年大きな社会問題となっています。

一方で、防災面の取組や支援が必要な住民への対応など、地域コミュニティに求められる役割は年々大きくなってきていますが、自治会への加入率の低下や地域活動への参加者の減少が進んでいます。

このため、住民の主体的なスポーツ活動を通じて、地域の子どものスポーツ活動の場の提供や、世代間交流による青少年の健全育成、地域住民の健康維持・増進など、地域コミュニティを活性化する取組が求められています。

（４）障害者スポーツの推進

スポーツ基本法は、障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならないと規定しています（第２条第５項）。

また、本市では、平成 30(2018)年４月から「立川市障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」を施行し、障害の有無に関わらず誰もが暮らしやすいまちをつくるために、保健・医療や教育、文化、スポーツなどの分野において合理的配慮※の提供等を規定し、さまざまな取組を進めているところです。

近年では、障害者のアスリートがパラリンピックや国際大会等で活躍する姿が、テレビや新聞等で取り上げられる機会も多くなり、以前と比べると障害者スポーツの認知度が上がり、関心が高まっています。

その一方で、障害者スポーツを障害者のためのスポーツであると考えている人が少ないことや、障害者がスポーツを楽しめる施設が不足していること、障害者の週１回以上のスポーツ実施率が成人全般の実施率を大きく下回っていること、障害者スポーツそのものの指導者不足、特別支援学校卒業後の地域でのスポーツ参加が困難となっていることが、障害者スポーツを推進していく上での課題となっています。

6 学校体育との連携

本市では、平成 20(2008)年４月施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に基づき、平成 27(2015)年度よりスポーツに関する事務を教育委員会から市長部局に移管しましたが、学校に関するスポーツは引き続き教育委員会が所管しています。

人間が発達・成長し、創造的な活動を行っていくために、体力は必要不可欠なものです。このため、義務教育期に児童・生徒に生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付ける必要があります。

教育委員会では「立川市アクティブプラン to2020」を作成し、児童・生徒が運動に親しみ、健康の保持増進及び体力の向上を目指して取り組んでいます。このため、教育委員会と連携を進め、地域、家庭、学校が連携・協力したスポーツ活動や健康・体力づくりを推進していきます。

第2章

スポーツ推進計画の成果と課題

スポーツ推進計画は、平成 27(2015)年度を初年度とする 5 年間の計画で、本市におけるスポーツ推進の目標達成に向け、3 つの基本方針に基づき 16 の取組項目を掲げ、体系的に取り組んできました。

41 項目にわたる取組事項はおおむね順調に推移していますが、一部には課題もでています。これらの成果や課題の概略を 3 つの基本方針ごとに整理すると、以下のとおりです。

基本方針 1 市民のライフステージに応じたスポーツの推進

[主な取組]

＜子どものスポーツの推進＞

- ・ 泉・柴崎両市民体育館で水泳、体操、各種ダンス等の教室を開催し、子どもたちがスポーツの楽しさを体感し、継続してスポーツを楽しめる機会をつくりました。
- ・ 小中学生を対象に、地区体育会では「なわとび検定会」、立川市体育協会（以下「体育協会」）では小学生クラブ交流大会やソフトテニス教室、普段スポーツをしない子どもも参加できるジュニア体力競技力向上事業をそれぞれ実施しました。
- ・ 平成 28(2016)年度から小学生姿勢教室を実施し、親子で良い姿勢の大切さや、良い姿勢を保つための体操などを学び、年々参加者が増加しています。



小学生姿勢教室の様子

＜成人や子育て世代のスポーツの推進＞

- ・ 屋外で硬式テニス教室を平成 28(2016)年度まで実施し、29(2017)年度からは指定管理者が市民体育館内でテニス教室を開催しています。
- ・ 幅広い年齢層でスポーツを楽しんでもらえる「市民あるけあるけ運動」や「体力年齢測定会」、「ラジオ体操・みんなの体操会」、「ラジオ体操講習会」を実施しました。



体力年齢測定会の様子

＜高齢者のスポーツの推進＞

- ・ 毎年 5 月に「市民高齢者 2 万歩ハイク」を実施しています。また、「市民あるけあるけ運動」は年 2 回実施していましたが、平成 29(2017)年度以降は、地区体育会等であるけあるけ運動の実施等が定着してきていることから、年 1 回の実施に変更しました。
- ・ 「筋力アップ貯筋体操教室（平成 30(2018)年度からは「体力アップ体操教室」に変更）」を年 2 回



体力アップ体操教室の様子

（7月と11月）実施し、一定の参加者があり市民に浸透しています。

＜障害者のスポーツの推進＞

- ・ 泉市民体育館においてハンディ水泳教室を実施し、また、泉・柴崎両市民体育館においてボッチャ※、バドミントン、ヨガなどの障害のある人もない人も共に参加できるチャレンジスポーツ教室を開催することで、身近な場所で継続してスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めました。また、来館が困難な障害者が参加できるよう、障害者施設への訪問教室を開催しました。
- ・ 緑化まつりやたちかわ楽市での5人制サッカー※体験会の実施や、障害者スポーツの用具の展示を行い、障害者スポーツの理解・啓発事業を実施しました。
- ・ ボッチャボール4セットやランプ等を購入し、市立小中学校や地区体育会、関係団体・機関に貸し出しを行い、障害者スポーツの普及に努めました。また、スポーツ推進委員協議会では、毎年、障害者スポーツの研修を兼ねてボッチャ体験会を実施し、障害種別を問わず障害のある方が参加しています。



楽市での障害者スポーツ体験会の様子



チャレンジスポーツ教室の様子

【成果と課題】

＜子どものスポーツの推進＞

- ・ 積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が起きており、普段スポーツをしない子どもが身近な場所で気軽にスポーツに取り組めるよう、地区体育会等と連携して、地域での子どものスポーツ活動の推進が課題となっています。

＜成人や子育て世代のスポーツの推進＞

- ・ ヨガ・エアロビクス・水泳などの屋内スポーツ教室は泉・柴崎両市民体育館で実施し、年々参加者が増加しています。また、平日の夜間にヨガ教室を開催するなど、利用者のニーズに応じた教室を開催しました。一方で、スポーツ実施率が低い20代から40代をターゲットにしたスポーツの推進が課題となっています。

＜高齢者のスポーツの推進＞

- ・ 超高齢社会を迎え、健康寿命の延伸が大きな命題となる中で、高齢者が各種教室に参加することにより体力の保持・増進や健康づくりにつながりました。一方で、関連な高齢者から、負荷の強い運動が難しい高齢者まで、それぞれの体力に合った継続して参加できる種目の検討が課題となっています。

＜障害者のスポーツの推進＞

- ・ パラリンピック開催を契機として、地域で障害者スポーツの裾野を広げ、障害のある人もない人も共に参加できる環境づくりを進めてきました。ボッチャや5人制サッカーなど地域での大会や体験会を通じて、身近な場所で障害者スポーツに接する機会が

増え、障害に対する理解促進につながりました。一方で、障害者スポーツを行う団体等が活動する場所の確保が課題となっています。

基本方針2 交流と連携による地域スポーツの推進

【主な取組】

＜地域スポーツクラブ※の支援＞

- ・東京都から地域スポーツクラブの認証を受けている市内の12地区体育会に地域スポーツ教室を委託し、身近な学校施設等を活用して、誰もがスポーツに親しみ、気軽に取り組むことができるよう「なわとび検定会」や「ソフトバレーボール」などを実施しました。



ソフトバレーボールの様子

＜地域スポーツ団体との連携によるスポーツ振興・競技力向上の推進＞

- ・体育協会と連携し立川市民体育大会を実施しました。立川市民体育大会は各地区において代表選手の選考を兼ねて、地区の町民運動会や各種スポーツ大会を開催し、地区対抗の競技会や中央大会への出場選手を発掘し、市民の競技力の向上を図っています。
- ・平成29(2017)年度より新規事業として、地域でスポーツを楽しむ市民の競技力向上を目的として、市民体育館においてトップアスリート※が指導するアスリートスポーツ教室を開催しています。



立川市民体育大会（駅伝）の様子

＜地域におけるスポーツの推進＞

- ・子ども会や青少年健全育成地区委員会などの地域団体が実施するスポーツ・レクリエーション事業に対し、備品・物品の貸し出しを行いました。
- ・地区健康フェアや地域のイベントなどで、ラジオ体操指導員の資格を有する方が普及啓発活動を行う際に報酬を支払う制度を設けました。

＜ニュースポーツによるスポーツの推進＞

- ・「ソフトバレーボール大会」は平成29(2017)年度の12回目をもって終了しましたが、地区体育会にもこのスポーツが浸透し、地域でもソフトバレーボール大会が開催され、地域に定着しています。
- ・平成30(2018)年度からスポーツ推進委員協議会の活動として、ソフトバレーボール大会に変わる新たなニュースポーツを検討しており、スポーツ推進委員協議会や地区体育会の協力を得て体験会を実施し、「ゴールドドッジ※」をニュースポーツとして市民に紹介する準備を進めています。



ゴールドドッジ体験会の様子

＜立川シティハーフマラソンの推進＞

- ・立川シティハーフマラソンのエントリー数は、この数年 11,000 人前後で推移しています。「する」スポーツだけでなく、学生トップランナーが参加する日本学生ハーフマラソン選手権大会を併催することもあり、国営昭和記念公園入園者数も多く、「みる」スポーツにも大いに貢献しています。また、多くの企業から協賛をいただいていることや、市内の関係団体や企業、学校、自治会、そして一般ボランティアなどによる「ささえる」スポーツの場にもなっています。当日、会場では様々な企業・団体の協力により活気のあるイベントとなっています。



立川シティハーフマラソンの様子

＜プロスポーツチーム※等との連携によるスポーツの推進＞

- ・平成 29(2017)年度にアルバルク東京※、TACHIKAWA DICE EXE（立川ダイス）※と、スポーツによる地域活性化に関する連携を推進するとともに、地域社会の発展及び振興を図ることを目的に相互協力協定を締結しました。
- ・「東京ヴェルディ」（J2リーグ）の主催試合に子どもたちを観戦招待する「立川サンクスマッチ」を継続して毎年実施し、平成 31(2019)年度からは「ホームタウンデー」として実施されています。



B. LEAGUE CHAMPIONSHIP 2018-19 アルバルク東京

優勝報告会（令和元年5月18日）の様子

【成果と課題】

＜地域スポーツクラブの支援＞

- ・地区体育会では、地域の特性に合わせた事業を実施し、子どもから高齢者まで生涯スポーツの推進に取り組んでいます。組織の活性化と役員などの担い手・世代交代が課題となっています。

＜地域スポーツ団体との連携によるスポーツ振興・競技力向上の推進＞

- ・立川市民体育大会は参加者数が多く、地域でのスポーツイベントの中核として継続していますが、近年では地域コミュニティに参加していない市民が増え、地域のネットワークを活用して新たな参加者を増やしていくことや、スタッフの人材確保が課題となっています。

＜地域におけるスポーツの推進＞

- ・「ラジオ体操・みんなの体操指導者講習会」を修了した方が、ラジオ体操の普及啓発活動をする場合に報酬を支払う制度を設けましたが、利用促進が課題となっています。

＜ニュースポーツによるスポーツの推進＞

- ・より幅広い層に親しまれる新たなニュースポーツとして、「ゴールドッチ」を推進していきませんが、広く市民に浸透し定着させていくことが課題となっています。

＜立川シティハーフマラソンの推進＞

- ・立川シティハーフマラソンは、市内の事業所や学校、市民等によるボランティア協力により各部署が運営されています。また、庁内各課に依頼し、主要部署の担当やボランティアの取りまとめをしてもらうことで、市職員の連携や連帯が生まれています。一方で、安定した大会運営とするため、地域団体等とさらなる連携強化とボランティアの育成、魅力的な参加賞の検討、財政基盤の充実などが課題となっています。

＜プロスポーツチーム等との連携によるスポーツの推進＞

- ・市とプロスポーツチームとの連携協定の締結により、市内の小中学校でのバスケットボールクリニックやチアダンスが実施され、トップレベルの選手等による指導に触れることができたほか、市の各種イベントに選手等が出演することにより、プロスポーツチーム等の認知度の向上につながりました。一方で、庁内各課が独自に対応しているため、庁内での情報共有が不足していたり、市からの具体的な連携事項の提示などさらなる連携強化が課題となっています。

基本方針3 スポーツ環境の充実

【主な取組】

＜既存スポーツ施設等の整備・充実＞

- ・平成 27(2015)年度に泉町庭球場を全天候型(砂入り人工芝)コートに改修したほか、平成 28(2016)年度までに立川公園陸上競技場の改修に向けた実施設計を行いました。
- ・立川公園野球場の便所改修工事を平成 29(2017)～30(2018)年度に実施し、男女兼用トイレを男女別にするとともに、誰でもトイレやバリアフリー設備を設置し、女性をはじめ誰もが使いやすい施設環境づくりを進めました。合わせて、見影橋公園野球場の便所改修工事を平成 30(2018)年度に実施し、誰でもトイレやバリアフリー設備を設置し、誰もが使いやすい施設環境づくりを進めました。
- ・砂川中央地区多目的運動広場において、毎週水曜日の午後を「遊びの広場」として子どもたちが自由に利用できるように開放しました。



改修後の泉町庭球場



改修後の立川公園野球場のトイレ



改修後の見影橋公園野球場のトイレ

＜学校施設の有効活用＞

- ・ 小学校の校庭や体育館を「遊び場」として開放し、合わせてスポーツ団体に小中学校の校庭や体育館を学校教育に支障のない範囲で開放しました。計画期間中は、小中学校の大規模・中規模改修が順次実施されていて、体育館や校庭を使用できない期間が発生しました。
- ・ 老朽化により倒壊の恐れがある校庭の夜間照明塔について、平成 28(2016) 年度から平成 31(2019) 年度にかけて計画的な建て替えを行いました。



建て替え後の立川第六中学校の夜間照明塔

＜指導者の育成・確保＞

- ・ 体育協会と連携し、平成 31(2019) 年度から実施している「運動指導者育成プログラム」講座を支援し、地域スポーツの推進を担う指導者育成に取り組みました。
- ・ スポーツ推進委員の資質向上を図るため、内部研修を実施したほか、東京都スポーツ推進委員協議会による広域地区別研修会（第 8 ブロック）や課題別研修会、初級障害者スポーツ指導員養成講習会、実務研修などに参加しました。
- ・ 高齢福祉課や健康推進課、スポーツ振興課の 3 課が協力して、「ラジオ体操・みんなの体操会」及び「ラジオ体操・みんなの体操指導者講習会」を、平成 27(2015) 年度の特別巡回をきっかけに、新規事業として平成 28(2016) 年度から実施しています。また、地域でのスポーツイベントにおいて正しいラジオ体操の普及を行うラジオ体操指導員の資格取得に取り組みました。



広域地区別研修会（第 8 ブロック）の様子



運動指導者育成プログラム講座の様子

＜情報の提供＞

- ・広報たちかわや市ホームページ、市民体育館指定管理者のホームページを活用して、市民体育大会の各種目の開催や各種スポーツイベント・教室の開催情報を市民に提供しました。また、きらりたちかわ等、庁内の他課で発行する情報誌にスポーツ教室等の開催予定を掲載したほか、市内の施設にチラシを配布し市民などへの周知に努めました。

＜健康づくり事業の推進＞

- ・泉・柴崎両市民体育館で水中ウォーキングやみんなでストレッチ、アクアビクスなどの健康づくりのための教室を引き続き実施しました。また、健康推進課では立川健康ポイント事業やラフ＆タフ体操教室等、生涯学習推進センターでは各種体操教室、福祉総務課では気功やヨガ教室等、庁内各課において健康づくり事業を実施しました。

＜オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とするスポーツの推進＞

- ・令和元(2019)年にベラルーシ共和国新体操ナショナルチームの事前キャンプが行われ、新体操交流会を開催し演技が披露されました。また、本市とゆかりのある、リオデジャネイロオリンピックの近代五種※に出場した選手の応援と交流を続けています。
- ・各学校でオリンピック教育の推進として、オリンピックを招いた交流や講演会、実技指導などを行ったほか、東京女子体育大学に依頼しオリンピックを派遣していただきました。また、パラリンピック教育を推進し、パラリンピアンとの交流や障害者スポーツや車いすの体験等を行いました。
- ・アスリートスポーツ教室や泉市民体育館まつり、ニュースポーツ体験会を開催し、スポーツへの関心を高めるとともに、誰もが気軽にスポーツに取り組める環境を用意し、スポーツ実施率向上の一助となりました。



アスリートスポーツ教室（バドミントン）の様子



泉市民体育館まつりの様子



ベラルーシ共和国 新体操ナショナルチーム 新体操交流会（令和元年8月1日）の様子

[成果と課題]

<既存スポーツ施設等の整備・充実>

- ・ 柴崎・泉両市民体育館に指定管理者制度を導入したことにより利用者数は増加しているものの、体育施設全体の老朽化が進んでおり、安全で安定的な施設管理運営を維持していくためには、施設や設備の計画的な修繕・更新が課題となっています。
- ・ 近年、厳しさを増している猛暑時の熱中症対策の充実が求められています。

<学校施設の有効活用>

- ・ 学校体育施設の利用希望団体が多いことから、空きのない状態が常態化しており、年度途中での新規利用団体の登録が難しく、結果として利用団体が固定化しています。また、小中学校の大規模・中規模改修が順次実施されており、体育館や校庭の使用ができない期間が発生した際の代替施設の調整も困難となっています。

<指導者の育成・確保>

- ・ 専門的な知識及び技術を持つ指導者を確保・育成していくため、体育協会が実施する講座への支援を継続していく必要があります。また、育成された指導者が地域で活躍するしくみづくりを関係機関と協議していく必要があります。

<情報の提供>

- ・ 市ホームページや広報たちかわ等、市が運営する広報媒体を有効に活用して、広く市民へ情報提供することができました。また、新規のイベントや多数の参加者が見込まれるイベントは積極的にプレスリリースしました。今後は、情報提供する対象に応じて広報媒体を検討し、適切な媒体を活用する必要があります。

<健康づくり事業の推進>

- ・ 市民一人ひとりが健康づくりを進めていくためには、日ごろから運動やスポーツを継続的に取り組む習慣と、それを支える市の体制や環境整備が必要です。また、目的や対象が異なるものの、市内の各課で健康づくり事業が行われていることから、関係各課で連携し協力体制を構築していくことが課題となっています。

<オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とするスポーツの推進>

- ・ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機に、オリンピックやパラリンピアンとの交流やスポーツの振興を通して、市域における気運醸成につながりました。また、パラリンピアンへの応援などを通じて障害者理解を深めることができました。今後は、大会まで築いてきたスポーツへの関心の高まりや、障害者スポーツの振興などを大会終了後もいかに持続させ、レガシー[※]として残していくかが課題となっています。

第3章

計画の体系

現在の「スポーツ推進計画」の検証、本市の上位計画である「第4次長期総合計画後期基本計画」及び国・東京都の各計画を踏まえ、今後5年間を見据えた方向性を体系化しました。

<基本理念>

市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、
スポーツに親しむことができるまち立川を実現します。

【基本方針1】市民のライフステージ に応じたスポーツの推進

- ① 子どものスポーツの推進
- ② 成人や子育て世代のスポーツの推進
- ③ 高齢者のスポーツの推進
- ④ 障害者のスポーツの推進

【基本方針2】交流と連携による地域 スポーツの推進

- ① 地域スポーツクラブの支援
- ② 地域スポーツ団体との連携によるスポーツ振興・競技力向上の推進
- ③ 地域におけるスポーツの推進
- ④ ニュースポーツによるスポーツの推進
- ⑤ 立川シティハーフマラソンの推進
- ⑥ プロスポーツチーム等との連携によるスポーツの推進

【基本方針3】スポーツ環境の充実

- ① 既存スポーツ施設等の整備・充実
- ② 学校施設の有効活用
- ③ 指導者の育成・確保
- ④ 情報の提供
- ⑤ 健康づくり事業の推進
- ⑥ オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とするスポーツの推進

<取組目標>

スポーツ実施率を 70.0%

(週1回以上スポーツを実施する成人の割合)

1 基本方針1 市民のライフステージに応じたスポーツの推進

全ての市民が年齢や性別、障害の有無に関わらず、生涯にわたって日常的にスポーツに親しみことができ、体力の維持向上や健やかな心身を育むことができる生涯スポーツのまちづくりを推進します。そのために、市民の体力や年齢、興味、関心の変化などに応じ、子どもから高齢者までライフステージに応じたスポーツ施策を展開します。

(1) 子どものスポーツの推進

子どもの体力は、文部科学省及びスポーツ庁が実施する「全国体力・運動能力、運動習慣等調査（全国体力テスト）」によると、30年前と比較してほとんどのテスト項目において下回っている状況が続いています。この原因として、スポーツや外遊びの場所・時間の減少、急速な情報化による情報機器に接する時間の増加、行動範囲が狭まっていることなどが指摘されています。

また、積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化がおきています。そのため、スポーツをしない子どもが身近な場所で気軽にスポーツに取り組めるよう、地域と連携して、地域での子どものスポーツ活動を推進します。

<具体的な取組（事務事業）>

① 泉市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】

柴崎市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】

継続してスポーツに親しみ、スポーツの楽しさを感じながら体力づくりができる教室を泉・柴崎両市民体育館において開催します。種目は、水泳・体操・ヒップホップダンスなど、子どもや保護者に受け入れられやすく楽しめる種目を行います。

② スポーツ普及奨励活動事業（スポーツ普及事業 他）【担当：スポーツ振興課】

普段スポーツを行っていない子どもたちのきっかけづくりとなる教室やイベント、継続して取り組む子ども向けの競技教室を開催します。陸上、野球、テニス、ソフトテニスなど子どもたちに親しみやすい種目で、初心者から経験者向けの教室まで、楽しみながら参加できるように行います。

子どもたちにスポーツへの関心を高めてもらうため、競技体験会を行います。体育協会が主催する泉市民体育館まつりの会場等を活用し、ボルダリング※やフットサル※などの種目で指導者から指導を受けられる機会を設けます。



ジュニア体力競技力向上事業の様子



泉市民体育館まつりの様子

③ スポーツ普及奨励活動事業（地域スポーツ教室）〔担当：スポーツ振興課〕

身近な地域でスポーツに取り組む機会を持てるよう、地区体育会に委託し、なわとび検定会などを行います。

④ 競技会等の開催・派遣事業（スポーツ推進委員）〔担当：スポーツ振興課〕

競技会等の開催・派遣事業（立川シティハーフマラソン）〔担当：スポーツ振興課〕

競技会等の開催・派遣事業（小学生クラブ交流）〔担当：スポーツ振興課〕

スポーツを楽しむ子どもたちの目標となる、成果を発揮する場としての大会を開催します。なわとびチャンピオン大会や立川シティハーフマラソン3kmレース・親子ペアレース、小学生クラブ交流大会を継続して開催します。



立川シティハーフマラソン3kmレースの様子



立川シティハーフマラソン親子ペアレースの様子

⑤ スポーツ普及奨励活動事業（市民健康づくり教室）〔担当：スポーツ振興課〕

成長期の子どもたちを対象として、小学生姿勢教室を開催します。体を動かす機会が少なく、良い姿勢を保てない子どもたちが増えているため、良い姿勢を保つことの大切さを伝えます。



小学生姿勢教室の様子

＜その他の取組（事務事業以外）＞

① 「立川市アクティブプラン to2020」の推進〔担当：指導課〕

運動に親しみ、健康の保持増進及び体力の向上を目指して取り組む児童・生徒の育成を図るとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を通して、子どもたちがさまざまなスポーツを体験する機会を設けます。

② 東京女子体育大学との連携〔担当：指導課〕

オリンピックの派遣によるスポーツへの興味・関心や、体育授業・部活動等での継続的な支援により、基礎的・基本的な運動能力の向上を図ります。

③ 運動遊びや補助運動などの「一校一取組運動」 [担当：指導課]

東京都統一体力テストの実施結果等を踏まえ、朝や休み時間等の継続的な運動の取組や体力・運動能力に関する具体的な目標及び取組の名称を定め、児童・生徒の実態に応じた各校の特色ある体力向上の取組を支援します。

④ 中学校部活動外部指導員による部活動の技術指導 [担当：指導課]

中学校の部活動に部活動外部指導員を配置し、生徒への技術的な指導・助言等を実施します。

(2) 成人や子育て世代のスポーツの推進

30～40 歳代のスポーツ実施率が低いため、隙間時間の活用や気軽に始められるスポーツ等を推進し、スポーツ実施率の向上を図ります。また、引き続き、泉・柴崎両市民体育館で成人や子育て世代のニーズに合った各種スポーツ教室等を実施します。

<具体的な取組（事務事業）>

① 泉市民体育館管理運営 [担当：スポーツ振興課]

柴崎市民体育館管理運営 [担当：スポーツ振興課]

成人世代や子育て世代のライフスタイルに合わせたスポーツ教室を泉・柴崎両市民体育館において開催します。種目は、ヨガ・エアロビクス・バドミントンなど、多様なニーズに対応できるように、時間設定に配慮した各種教室を開催します。

② スポーツ普及奨励活動事業（ウォーキング事業） [担当：スポーツ振興課]

あらゆる世代が気軽に取り組めるスポーツ活動として、ウォーキングの機会を提供し、スポーツに取り組む市民の増加や体力の増進を図ります。

③ スポーツ普及奨励活動事業（ラジオ体操会） [担当：スポーツ振興課]

幅広い年代のスポーツ実施につながるラジオ体操事業を実施します。



ラジオ体操・みんなの体操会の様子

④ スポーツ普及奨励活動事業（スポーツ普及事業 他） [担当：スポーツ振興課]

体育協会が体育の日に泉市民体育館まつりを開催しており、この機会を活用し、スポーツ未実施者に対してスポーツを始めるきっかけとなる事業を実施します。

⑤ 成人対象事業（地域活性化講座） [担当：生涯学習推進センター]

親子を対象にした講座「ママビクス&ベビーマッサージ」を実施し、マッサージを通じた赤ちゃんとの触れ合いと、母親向けのゆったり体操を行います。

＜その他の取組（事務事業以外）＞

① 子育て世代へのスポーツの参加促進 【担当：スポーツ振興課】

スポーツ施設において、女性や子育て世代などのニーズや意欲にあったスポーツ機会（親子向け教室、託児付き教室等）を提供します。

② スポーツに対する意識改革 【担当：スポーツ振興課】

日常生活において気軽に取り組めることもスポーツであるという意識の普及を目指し、例えばエレベーターやエスカレーターでの移動を階段移動に変えるなどの意識の改革を、多様な媒体などを活用して周知します。

（３）高齢者のスポーツの推進

超高齢社会を迎え、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、「健康寿命を延ばすこと」が必要なことから、スポーツを通じた高齢者の体力づくりや生きがいづくりが求められています。このため、高齢者を対象とした事業については、そのニーズや健康状態に配慮しながら実施します。

また、福祉会館等における健康づくりの場の提供などを通じて、気軽にスポーツに親しむことができる機会を充実します。

＜具体的な取組（事務事業）＞

① 泉市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】

柴崎市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】

市民体育館を管理運営する指定管理者と連携、協力し、いつまでも健康で暮らすために必要な体力を身に付ける筋力トレーニングや体操教室等を実施します。

② スポーツ普及奨励活動事業（ウォーキング事業） 【担当：スポーツ振興課】

高齢者にも気軽に取り組めるスポーツ活動として、「市民高齢者2万歩ハイク」や「市民あるけあるけ運動」といったウォーキング事業を継続します。



市民高齢者2万歩ハイクの様子



市民あるけあるけ運動の様子

③ スポーツ普及奨励活動事業（市民健康づくり教室） 【担当：スポーツ振興課】

「体力アップ体操教室」などの健康づくり事業を継続します。

④ 競技会等の開催・派遣事業（スポーツ推進委員） 【担当：スポーツ振興課】

「体力年齢測定会」を実施し、高齢者や高齢者世代を前にした方に、自己の健康管理や健康の維持・増進の知識を広げることに役立てます。

⑤ 競技会等の開催・派遣事業（スポレクフェスタ）　　【担当：スポーツ振興課】

中高齢者のスポーツ・レクリエーションの場として、スポレクフェスタを開催し、生涯スポーツを推進します。

⑥ 社会参加と生きがいづくり促進　　【担当：福祉総務課】

健康吹矢[※]やゲートボール、ターゲット・バードゴルフ[※]などのスポーツの講座を開催します。また、引き続き老人クラブ活動への補助を実施し、生きがいづくりを進めます。

⑦ 一般介護予防事業　　【担当：高齢福祉課】

年齢や心身の状況等によって分け隔てることなく、市民運営の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進するために、地域体操クラブと健康体操応援リーダー等派遣事業を実施します。

⑧ 高齢者対象事業（寿教室）　　【担当：生涯学習推進センター】

60歳以上の高齢者を対象に、仲間づくりや心身の健康の保持・増進、生きがいの創造を図ることを目的として寿教室を開設し、健康体操やフォークダンス等の講座を実施します。

<その他の取組等（事務事業以外）>

① ウォーキングマップの活用促進　　【担当：スポーツ振興課、健康づくり担当課】

日々の健康づくり、体力増進のため、健康づくりウォーキングマップなどの活用を市民に周知します。

（４）障害者のスポーツの推進

障害者スポーツは東京 2020 パラリンピック競技大会の開催を契機として、障害者スポーツやアスリートの活躍がメディアで取り上げられることが多くなり、認知度が向上しています。

また、身近な場所で体験ができる機会や、泉・柴崎両市民体育館で教室を実施するなど、市民が障害者スポーツに参加できる機会が増えています。引き続き、障害者が参加しやすい施設運営や事業の実施と、障害者スポーツの理解・啓発を進めます。

<具体的な取組（事務事業）>

① 泉市民体育館管理運営　　【担当：スポーツ振興課】

柴崎市民体育館管理運営　　【担当：スポーツ振興課】

障害者が参加できる継続した教室を泉・柴崎両市民体育館で開催します。



チャレンジスポーツ教室（ボッチャ）の様子

- ② **スポーツ普及奨励活動事業（障害者スポーツ事業）** 【担当：スポーツ振興課】
市内各所でのイベント等の機会を利用して、障害者スポーツの紹介や体験会を開催し、障害者スポーツの理解・啓発に努めます。

- ③ **社会体育関係委員会運営（スポーツ推進委員）** 【担当：スポーツ振興課】
スポーツ推進委員協議会では、障害者スポーツについての研修を重ねており、障害者スポーツイベントの運営についてのノウハウを生かし、障害の有無にかかわらず誰もが楽しめるイベントを開催します。

- ④ **障害者スポーツ大会負担金** 【担当：障害福祉課】
障害のある人となない人との交流と相互の理解を深めるために、運動会形式のスポーツ大会を実施する「立川市障害者スポーツ大会実行委員会」に負担金を支出します。障害者スポーツ大会は年1回、10月の第1日曜日に開催します。

<その他の取組等（事務事業以外）>

○特になし

数値目標【市民のライフステージに応じたスポーツの推進】

成果指標	調査手法	現状値 (H30年度)	目標値 (R6年度)
週1回以上スポーツを行っている市民の割合（成人）	市民満足度調査	34.7%	70.0%
週1回以上スポーツを行っている市民の割合（障害者）	立川市障害福祉計画策定等の意識調査	未把握	40.0%

※障害者の週1回以上のスポーツ実施率は現状では未把握のため、国の第2期スポーツ基本計画に掲げている40.0%を目標とします。

2 基本方針2 交流と連携による地域スポーツの推進

スポーツには、地域コミュニティの醸成や地域の活性化といった市民の参加・交流の機会拡充などの効果が期待されています。こうしたスポーツの効果を活用し、スポーツを通して、地域でのふれあいや地域社会への参加が促進され、地域での交流が深まるまちを目指します。

また、立川シティハーフマラソンへの認知度を高めるとともに、市内のプロスポーツチーム等と連携を強化し、地域・経済の活力を高めることにより、本市の魅力づくりにつながる取組を推進します。

（1）地域スポーツクラブの支援

市民が身近な地域で主体的にスポーツに親しむには、地域スポーツクラブの果たす役割は重要となっています。引き続き、地域スポーツクラブの活動の充実・活性化を進めるため支援を継続します。

本市では、平成23(2011)年12月に、市内の12地区体育会が東京都から地域スポーツ

クラブの認証を受け、活動しています。今後は、令和3(2021)年4月から総合型地域スポーツクラブ※の登録・認証制度の運用開始が予定されているため、各地区体育会と登録・認証に向けて、具体的な支援内容等を協議していきます。

<具体的な取組（事務事業）>

① スポーツ普及奨励活動事業（地域スポーツ教室） 【担当：スポーツ振興課】

地域スポーツクラブにスポーツ教室を委託し、地域におけるスポーツ活動の促進や世代間の交流が図られるよう、地域スポーツクラブの活動を支援します。

また、地域スポーツクラブの持続的な発展を図っていくため、質的な充実に向けた施策を検討していきます。



地域スポーツ教室のなわとび検定会の様子

<その他の取組等（事務事業以外）>

○特になし

（２）地域スポーツ団体との連携によるスポーツ振興・競技力向上の推進

体育協会の主管による立川市民体育大会については、各競技団体が様々な競技を展開し、小学生から成人まで多くの参加者があり、順位を競うことにより競技力の向上に役立っています。近年では、地域のつながりが希薄化していることから、参加者やスタッフの確保が課題となっています。

地域でスポーツを楽しむ市民の活動の活性化を進めるため、地域団体の主体的な活動や広域大会への出場を継続して支援します。

また、プロスポーツ団体との連携が進んでいることや、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、トップアスリートに接することができる機会が増加しています。この機会を生かし、市内競技団体と連携して、スポーツに親しむ市民のスポーツ継続へのモチベーションアップ、競技力向上につなげていきます。

<具体的な取組（事務事業）>

① 競技会等の開催・派遣事業（市民体育大会） 【担当：スポーツ振興課】

地域スポーツの中核イベントとして市民体育大会を継続して開催します。広い年齢層から新たな参加者を集められるよう、体育協会と連携して、さまざまな広報媒体の活用について検討します。



立川市民体育大会（閉会式）の様子



立川市民体育大会（駅伝）の様子

② 競技会等の開催・派遣事業（選手派遣） **〔担当：スポーツ振興課〕**

競技スポーツに取り組む市民の目標となる都民体育大会や市町村体育大会など、広域大会への出場を支援します。

③ 体育団体・自主グループ育成（総合団体育成補助金交付事業）

体育団体・自主グループ育成（競技団体補助金）

〔担当：スポーツ振興課〕

地域の競技団体や地区体育会の主体的な団体運営と活性化を進めるため、団体の活動を継続して支援します。

④ スポーツ普及奨励活動事業（スポーツ普及事業 他） **〔担当：スポーツ振興課〕**

市内競技団体と連携し、市民体育館など市内のスポーツ施設利用者を対象にトップアスリートが指導する教室を開催します。



アスリートスポーツ教室（水泳）の様子



アスリートスポーツ教室（バドミントン）の様子

<その他の取組等（事務事業以外）>

○特になし

（３）地域におけるスポーツの推進

現在、地域では地区体育会のほかに、子ども会や青少年健全育成地区委員会、学校などさまざまな団体がスポーツ活動を行っています。このような地域団体が連携して、地域の特色を生かしたスポーツ活動に取り組むことが今後一層期待されます。

引き続き、庁内関係課と連携し、各種団体の地域における事業展開を支援します。

＜具体的な取組（事務事業）＞

① スポーツ普及奨励活動事業（地域スポーツ教室） 【担当：スポーツ振興課】

地区体育会が地域のニーズに即した内容で実施する地域スポーツ教室を引き続き支援します。

＜その他の取組等（事務事業以外）＞

① 地区子ども会連合会が実施するスポーツ大会等の事業（ドッジボール大会、ボウリング大会等）を継続して支援します。（子ども育成課）

（４）ニュースポーツによるスポーツの推進

ニュースポーツとは、近年新たに考案されたり、古くからある競技スポーツを変形するなどしてできた軽スポーツの総称で、子どもから高齢者まで誰でも手軽に楽しめるのが特長です。これまでも本市発祥の「ミニテニス」や「ソフトバレーボール」の普及を、地区体育会やスポーツ推進委員協議会と連携して取り組んできました。

今後は新たなニュースポーツを提案し、年代を問わず誰でも簡単に取り組めるニュースポーツを推進し、スポーツ参画人口を増やしていきます。

＜具体的な取組（事務事業）＞

① 競技会等の開催・派遣事業（スポーツ推進委員） 【担当：スポーツ振興課】

スポーツ推進委員協議会が主体となって取り組んできた、これまで市民に定着した「ミニテニス」「ソフトバレーボール」に代わる「ゴールドッチ」を推進し、体験会から大会へと移行していきます。



ゴールドッチ体験会の様子

② スポーツ普及奨励活動事業（地域スポーツ教室） 【担当：スポーツ振興課】

地域でスポーツに親しむ市民の増加を目標に、地区体育会に地域スポーツ教室を委託しています。今後は「ゴールドッチ」を推進していくため、地区体育会とスポーツ推進委員を中心に、市民に浸透し定着するよう取り組みます。

③ スポーツ普及奨励活動事業（スポーツ普及事業 他） 【担当：スポーツ振興課】

体育協会は「泉市民体育館まつり」で体験コーナーを設け、多様なニュースポーツを紹介しています。この機会を活用し、多くの市民に手軽に取り組めるニュースポーツへのきっかけづくりとします。

＜その他の取組等（事務事業以外）＞

○特になし

（５）立川シティハーフマラソンの推進

子どもから大人まで気軽に参加できる市民マラソンとして、市民のスポーツ振興はもとより、多様な交流や健康づくりとともに、地域の活性化にもつながる立川シティハーフマラソンの充実に向け取り組みます。

＜具体的な取組（事務事業）＞

① 競技会等の開催・派遣事業（立川シティハーフマラソン）

〔担当：スポーツ振興課〕

スポーツの３大要素である「する」「みる」「ささえる」を包括したスポーツ大会であるため、さらなる知名度や認知度の向上を図り、救護、給水などランナーの安全・安心を中心にした大会運営を目指します。

また、大会を通じて地域経済の活性化につながるような取組や、まちの魅力を高める取組も進めていきます。



立川シティハーフマラソンの様子

＜その他の取組等（事務事業以外）＞

- ① 庁内各課に依頼し、大会の主要部署の担当やボランティアの取りまとめ等の協力を得て開催しています。今後も本市の職員一丸となった取組を推進します。

（６）プロスポーツチーム等との連携によるスポーツの推進

プロスポーツチームの試合観戦やトップレベルの選手のプレーを観ることは、市民がスポーツを通じて感動と興奮を感じ、自らスポーツに親しむきっかけになります。

本市では、平成 29(2017)年にアルバルク東京や TACHIKAWA DICE EXE（立川ダイス）と、地域社会の発展及び振興を図ることを目的に相互協力協定を締結し、市内の小中学校でトップレベルの選手の指導に触れる機会が得られるなど、連携と交流を進めました。

また、平成 27(2015)年には、東京女子体育大学・東京女子体育短期大学と文化、教育、学術、スポーツ等の分野において、地域の発展と人材の育成に寄与するため、包括的な連携・協力に関する協定を締結し、教育をはじめとしたさまざまな行政分野で連携・協力が進みました。

今後もプロスポーツチームや大学との連携を進め、市民にプロスポーツチームに関する情報提供やスポーツを通じた大学との新たな連携事業を検討することにより、スポーツへの関心と魅力を高めていくとともに、地域経済の活性化や観光振興、地域への愛着心の向上を図ります。

＜具体的な取組（事務事業）＞

① 観光振興事業（来街者受入環境整備） 【担当：産業観光課】

来街者に本市のプロスポーツチームに関する情報を提供するため、観光案内コーナーなどでプロスポーツチームの情報を提供します。

＜その他の取組（事務事業以外）＞

① 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学との包括的な連携・協力に関する協定に基づく連携事業の推進 【担当：スポーツ振興課】

庁内に連携事業の実績や連携事業の対象分野を周知する機会を増やし、新たな連携事業に取り組むなど、さらなる連携強化を進めていきます。

② 立川プロスポーツ連絡会との連携 【担当：広報課、スポーツ振興課】

立川商工会議所を中心に設立された立川プロスポーツ連絡会に加盟する団体と連携して、連絡会が行うさまざまなイベントに協力するなど、プロスポーツチームを広く市民に周知し、認知度の向上を図ります。

③ プロスポーツチームとの連携に関する情報共有と窓口の一本化 【担当：広報課、スポーツ振興課】

広報課がプロスポーツチームからの申し入れや主管課への引継ぎ、主管課からの希望をプロスポーツチームへ取次ぐ役割を担うことで、連携機会を増やしていくとともに、連携実績を集約し庁内で共有します。

数値目標【交流と連携によるスポーツの推進】

成果指標	調査手法	現状値 (H30 年度)	目標値 (R 6 年度)
地域スポーツ教室参加者数	事業実績報告	7,025 人	11,000 人
立川シティハーフマラソン参加者の総合評価	RUNET の総合評価	67.3 点	75.0 点

3 基本方針3 スポーツ環境の充実

市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも安全にスポーツに親しむことができるまちを目指します。そのために、老朽化した市の体育施設や学校施設を適切に維持管理・改修し、生活に身近な場所でスポーツを楽しめる環境整備に取り組みます。

また、適切な指導・助言を行うことができる専門性の高い人材育成等に取り組むとともに、庁内の関連課と連携して運動やスポーツの習慣づけを行うことで、市民の健康づくりに寄与する施策を推進します。

（１）既存スポーツ施設等の整備・充実

既存施設のさらなる有効活用のため、ソフトとハードの両面から、誰もが利用しやすい

い施設環境整備に取り組みます。また、施設老朽化に対応し、持続可能なスポーツ環境を提供していくため、施設の適切な維持管理に努めるとともに、将来を見据えた屋外体育施設のあり方の検討を進めます。



泉市民体育館



柴崎市民体育館

＜具体的な取組（事務事業）＞

- ① 泉市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】
- 柴崎市民体育館管理運営 【担当：スポーツ振興課】
- 屋外体育施設管理運営 【担当：スポーツ振興課】

老朽化した施設や設備の計画的な修繕、改修工事等を行います。合わせて、バリアフリー化など、老若男女や障害の有無等を問わず、誰もが利用しやすい施設環境整備を進めます。

＜その他の取組等（事務事業以外）＞

- ① 利用者拡大の促進 【担当：スポーツ振興課】

ニュースポーツや障害者スポーツの普及により、今後ますます進むスポーツの多様化に対応するため、新たな利用者や団体が気軽に施設を利用できるよう、施設利用計画の調整や予約管理方法の見直しに取り組みます。

- ② 屋外体育施設のあり方検討 【担当：スポーツ振興課】

これからのスポーツを取り巻く情勢や人口動向、将来にわたる財政状況などに対応し、持続可能なスポーツ環境を提供していくため、「新庁舎周辺土地利用計画」で示された運動施設を含む今後の施設配置や、整備の方向性を示す「屋外体育施設のあり方」を検討します。

- ③ 立川公園陸上競技場の改修工事 【担当：スポーツ振興課】

現在予定している立川公園陸上競技場の改修工事について、今後検討を進める「屋外体育施設のあり方」との関連や費用対効果の観点も踏まえて、適切な改修工事の実施につなげます。

- ④ 練成館の老朽化への対応 【担当：スポーツ振興課】

令和2（2020）年度に定める予定の「練成館のあり方」に基づき、市全体の公共施設再編の動きや他の体育施設の整備・改修等との関連を踏まえながら、引き続き今後の施設老朽化への対応の方向性について検討します。

- ⑤ 熱中症への対応 【担当：スポーツ振興課】

近年、猛暑による熱中症への危険が高まっていることから、屋外体育施設の利用

者や利用団体に対して熱中症への備えを周知するとともに、屋外体育施設の改修時には必要な対策を検討します。

⑥ 屋外体育施設の利用時間の延長の検討 【担当：スポーツ振興課】

利用者や利用団体のニーズ等を踏まえ、必要に応じて屋外体育施設の利用時間の延長を検討します。

(2) 学校施設の有効活用

地域における子どもたちの外遊びの場を確保するため、土曜日と日曜日に小学校の校庭や体育館を遊び場として開放しています。

また、スポーツ団体に小・中学校の校庭や体育館を学校教育に支障のない範囲で開放することで、スポーツ団体の活動拠点として重要な役割を果たしており、今後も継続します。

<具体的な取組（事務事業）>

① 学校開放事業 【担当：スポーツ振興課】

現行の遊び場開放及びスポーツ利用について継続するとともに、現在の利用区分以外の時間帯へも拡大できるよう検討を進めます。

<その他の取組等（事務事業以外）>

① 小中学校校庭等の夜間照明塔の腐食度調査と計画的な撤去・再設置
【担当：スポーツ振興課】

平成 28(2016)年に強風により中学校校庭の夜間照明塔が倒れたことを受け、小中学校等の夜間照明塔 53 基を検査し、腐食が進行しているなど状態が悪化している照明塔の計画的な撤去・再設置を行ってきました。今後は、経過観察にしている照明塔の腐食の進行状況を把握し、計画的な撤去・再設置を進めていきます。

(3) 指導者の育成・確保

専門的な知識と指導技術を持った意欲的なスポーツ指導者を育成するため、現在実施している各種指導者育成に関する事業を確実に実施していくとともに、育成された指導者が地域で活躍することができるしくみを関係機関や団体等と構築していきます。

また、競技スポーツに限らず、健康づくりなどの幅広い年齢層の方が気軽に取り組める運動に対応する指導者の育成・確保も進めていきます。

<具体的な取組（事務事業）>

① スポーツ普及奨励活動事業（ラジオ体操会） 【担当：スポーツ振興課】

ラジオ体操・みんなの体操指導者講習会を継続し、地域でのスポーツイベントで正しいラジオ体操の普及を担うラジオ体操指導員を増やします。

② 体育団体・自主グループ育成（指導者育成補助金） 【担当：スポーツ振興課】

体育協会への補助事業である「運動指導者育成プログラム」講座を継続し、地域スポーツの推進を担う指導者を育成・確保します。



運動指導者育成プログラム講座の様子

<その他の取組等（事務事業以外）>

○特になし

（４）情報の提供

どのような事業も情報が市民に適切に届くことで、利用・活用されます。効率よく広く情報を提供することが重要です。スポーツをしていない人にスポーツをはじめるきっかけづくりも、情報を適時・的確に伝達できることが重要です。情報を伝達したい対象の年齢層や生活環境に合わせて適切に情報を提供していきます。

<具体的な取組（事務事業）>

○事務事業はなし

<その他の取組等（事務事業以外）>

① 広報媒体の検討と活用 【担当：スポーツ振興課】

広報たちかわ、市ホームページ、市 SNS※、市民体育館指定管理者ホームページを有効に活用し情報を提供します。

対象者の生活環境等を考慮し、効果的な広報媒体を検討します。

② 情報の収集・提供 【担当：スポーツ振興課】

市が実施する事業以外にも、市民がスポーツに親しむために有効な情報がある場合には提供していきます。

（５）健康づくり事業の推進

スポーツは競技として勝敗や記録を目的とすることにとどまらず、健康の保持・増進や介護の予防、地域との絆づくりなど、心身の健康づくりと地域の支えあいにも大きな役割を果たします。このため、引き続き各種事業を実施します。

また、スポーツに対する高いニーズを活用し、スポーツイベント・各種教室を通じたコミュニティの活性化に結びつけることにも取り組みます。

さらに、健康づくりに関する事業は、庁内各課で実施しているため、連携体制をつくり、効率的・効果的に事業を実施します。

<具体的な取組（事務事業）>

① 競技会等の開催・派遣事業（スポーツ推進委員） 【担当：スポーツ振興課】

「体力年齢測定会」を実施し、高齢者や高齢者世代を前にした方に、自己の健康管理や健康の維持・増進の知識を広げることに役立てます。

② スポーツ普及奨励活動事業（市民健康づくり事業）　【担当：スポーツ振興課】

「体力アップ体操教室」や「小学生姿勢教室」、「初心者ソフトテニス教室」など普段体を動かす機会が少ない市民を対象に開催し、体を動かすことの大切さを啓発します。



体力アップ体操教室の様子

③ スポーツ普及奨励活動事業（ウォーキング事業）　【担当：スポーツ振興課】

あらゆる世代が気軽に取り組めるスポーツ活動として、ウォーキングの機会を提供し、市民の健康増進の機会を増やします。

④ スポーツ普及奨励活動事業（ラジオ体操会）　【担当：スポーツ振興課】

子どもから高齢者まで、また普段体を動かす機会の少ない市民にも、体を動かすことの楽しさを感じ、健康づくりに役立ててもらうために実施します。

⑤ スポーツ普及奨励活動事業（スポーツ普及事業 他）　【担当：スポーツ振興課】

スポーツに関心がない、スポーツをしていない子どもや大人たちに関心を持ってもらい、体力、健康増進に役立ててもらうために、泉市民体育館まつりのスポーツ体験コーナーのさらなる充実を図ります。

⑥ 地域参加型機能訓練（ラフ＆タフ体操教室）　【担当：健康づくり担当課】

40歳以上64歳以下の市民で健康習慣を身に付けたい方や体力の低下が気になる方に、運動指導者や看護師がストレッチ体操を中心とした運動を指導し、心身機能の維持向上を図ります。

<その他の取組等（事務事業以外）>

○特になし

（6）オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とするスポーツの推進

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、スポーツ参画人口の増加が見込まれています。スポーツを「する」「みる」「ささえる」市民がさらに増えていくよう各種施策を推進します。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、子どもたちに夢と希望を与えるとともに、国際交流の促進や経済面で効果も生み出すといわれています。このような競技大会のレガシーを次世代に引き継いでいけるよう、さらなるスポーツ振興を

進めていきます。

＜具体的な取組（事務事業）＞

① スポーツ普及奨励活動事業（障害者スポーツ事業） 【担当：スポーツ振興課】

令和3（2021）年夏は、東京2020パラリンピック競技大会が開催されるため、障害者スポーツに対する市民の関心の高まりが見込まれることから、泉・柴崎両市民体育館で障害の有無に関わらず誰もが参加できる、障害者スポーツを継続します。

また、市内各所でのイベント等の機会を利用して、障害者スポーツの紹介や体験会を開催し、障害者スポーツの理解・啓発に努めます。

＜その他の取組（事務事業以外）＞

① 大学や地域団体等との連携促進 【担当：オリンピック・パラリンピック準備室】

大会準備の過程で大学や団体、都外の地域、特定の国との関係を強めてきました。この関係を継続し連携を深め、ともにスポーツの振興を進めていきます。

② 近代3種^{*}の普及 【担当：オリンピック・パラリンピック準備室】

本市にゆかりのある選手がオリンピック競技大会の近代五種に出場したことを契機として、公益社団法人日本近代五種協会と連携して近代五種の普及を進め、その入門となる近代3種を市内で開催しています。今後も大会を継続し、競技の普及に努めます。



ジャパン近代3種シリーズ立川大会の様子

③ トップアスリートの派遣等 【担当：スポーツ振興課】

トップアスリートとの関わりを継続し、教室やイベントでの指導やプレーの観戦などの機会を設けます。

④ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への小中学校の観戦

【担当：指導課】

市内の小中学校の全校が東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を観戦するとともに、観戦を契機に運動・スポーツに親しむ意欲をより一層高める教育を推進します。

数値目標【スポーツ環境の充実】

成果指標	調査手法	現状値 (H30 年度)	目標値 (R 6 年度)
市体育施設利用者数	事業実績報告	1, 064, 891 人	1, 070, 000 人
学校開放利用者数 (遊び場・校庭・体育館)	事業実績報告	426, 618 人	448, 000 人

本計画に掲げた基本理念の実現や取組目標の達成、取組事項の効率的・効果的な推進を図るため、以下のとおり取り組んでいきます。

1 計画の市民等への周知と協働による推進

本計画の内容を市民や企業・関係団体などへ周知するため、市ホームページや SNS など、さまざまな媒体を活用して広く発信していきます。また、市は市民や関係団体などさまざまな主体との連携・協働により、計画を推進していきます。

2 計画の進行管理

本計画に掲げた取組事項等を着実に推進していくため、計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)のサイクルにより、本計画の進行管理を適切に行っていきます。

また、本計画全体の取組目標として掲げた市民のスポーツ実施率や、各基本方針の数値目標の状況を把握するため、市民のスポーツに関する意識や実態について調査を実施します。

調査の結果は、立川市スポーツ推進審議会に報告するとともに、市ホームページなどで公開します。

3 教育委員会や関係部署との連携・協力

本市は平成 27(2015)年度からスポーツに関する事務を教育委員会から市長部局に移管しましたが、学校に関するスポーツは教育委員会が所管しています。

児童・生徒が学校を通して行うスポーツには、将来健康的で豊かな生活を送るための習慣を身に付けるための重要な意味があります。このため、引き続き教育委員会と連携します。

また、健康づくりや高齢者、障害者などの所管部署と連携・協力し、計画に掲げた取組を着実に推進します。

4 立川市スポーツ推進審議会への進捗報告・意見聴取

本計画の取組事項の進捗状況等を立川市スポーツ推進審議会に報告し、学識経験者や医師、関係団体、市民公募などの委員の立場から計画の進捗状況を審議し、その結果を踏まえ、より効率的・効果的に取組が実施できるようにします。

資料編

1 用語解説

用語		記載箇所	解説
あ 行	アルバルク 東京	10 ページ	日本の男子プロバスケットボールのトップリーグである「B. LEAGUE」に所属し、アリーナ立川立飛でホームゲームを行うプロバスケットボールチームのこと。
	SNS(エ ス エ ヌエス)	29 ページ	Social Networking Service の略称。インターネット上の交流を通して社会的ネットワーク（ソーシャル・ネットワーク）を構築するサービスのこと。

か 行	近代五種	13 ページ	一人の選手が一日の間に、フェンシングランキングラウンド、水泳、フェンシングボーナストラウンド、馬術、レーザーラン（射撃、ラン）の5種類を実施し、万能性を競う複合競技である。オリンピック競技大会の正式種目。
	近代3種	31 ページ	水泳とレーザーラン（ランニングと射撃を交互に行う）の3種目のこと。
	健康寿命	5 ページ	平均寿命のうち、健康で自立した生活を送ることができる年数のこと。
	健康吹矢	20 ページ	5～10m離れた円形の的をめがけて息を使って矢を放ち、得点を競う競技である。1ラウンド（3分以内）に5本の矢を吹いて、規定によるラウンドを競技し、その合計点を競う。性別・年齢を問わず誰でも気軽にできる。
	合理的配慮	6 ページ	障害のある人が日常生活や社会生活を営む上で、壁（バリアー）となる社会の事物、制度、慣行、観念等の除去を目的として、個々の状況や状態に応じて行われる配慮のこと。
	5人制サッカー	8 ページ	視覚に障害を持った選手がプレーできるように考案されたサッカーであり、パラリンピック競技大会の正式種目である。 ピッチはフットサルコートと同じ大きさ（縦 40m×横 20m）で、両サイドライン上に高さ 1 m 程のフェンスが並ぶ。4名のフィールドプレイヤー（F P）、ゴールキーパー（G K）、監督、ガイド（コーラー）の7名で行い、転がると音が出る特別なボールを使用し、ゴールの後ろにいるガイドがゴールの位置等を伝える。試合は 20 分ハーフで行われる。

用語		記載箇所	解説
か行	ゴールドッチ	9 ページ	ゴールにドッチビーと呼ばれるディスクを投げ入れて得点を競う競技である。5 人のチーム戦で、フィールドはフットサルコートと同じ大きさ（縦 40m×横 20m）が推奨されている。1 枚のドッチビーを使い、フィールド内でディスク所有者は歩くことなく味方同士でパスを投げつなぎ、相手ゴールへシュートすることで得点する。試合は 20 分ハーフが推奨されているが、主催者の決定による。

さ行	スクリーンタイム	5 ページ	平日一日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間のこと。
	総合型地域スポーツクラブ	22 ページ	地域住民が自主的・主体的に運営し、身近な学校や公共施設等を拠点として日常的に活動する地域密着型のスポーツクラブのこと。生涯スポーツ社会の実現に寄与するほか、地域の子どものスポーツ活動の場の提供、家族のふれあい、世代間交流による青少年の健全育成、地域住民の健康維持・増進等の地域社会の再生に関する多様な効果も期待されている。

た行	ターゲット・バードゴルフ	20 ページ	ゴルフボールにバドミントンの羽をつけたボールをゴルフクラブで打ち、打数の少なさを競う競技である。ホールには上部がかさを逆さにした形の直径 110 c m の「アドバンテージホール」と、地面に約 86 c m の輪を置いた「セカンドホール」があり、セカンドホールにホールインした場合にはスコアはそれまでの打数に 1 を加えた打数となる。
	TACHIKAWA DICE. EXE (立川ダイス)	10 ページ	平成 28(2016)年に発足した本市初のプロスポーツチームとなる 3 人制のプロバスケットボールチームのこと。
	地域スポーツクラブ	9 ページ	地域住民が主体的に運営し、子どもから高齢者、障害者を含め、誰もが身近にスポーツに親しむことができる場のこと。
	超高齢社会	5 ページ	総人口に占める 65 歳以上の人口割合が 21%を超える社会のこと。
	トップアスリート	9 ページ	その競技で最高水準の実力を認められている運動選手のこと。

用語		記載箇所	解説
は 行	フットサル	16 ページ	基本的には室内で行われ、サッカーに似た競技である。5 人のチーム戦で、コート大きさは縦 40m×横 20m、試合は 20 分ハーフで行われる。
	プロスポーツチーム	10 ページ	プロフェッショナルスポーツチームの略称。金銭の報酬を得ているプロフェッショナル選手やその指導者等で構成されたスポーツ組織のこと。本市においては平成 30(2018)年に「立川プロスポーツ連絡会」が立ち上がり、本計画策定時現在において本市をホームタウンとする次の 6 団体によって構成されている。 ① 3 人制バスケットボールチーム「TACHIKAWA DICE. EXE (立川ダイス)」 ②バスケットボールチーム「アルバルク東京」 ③ビーチサッカーチーム「東京ヴェルディ」 ④フットサルチーム「立川・府中アスレチック F C」 ⑤ボクシングジム「石川ボクシングジム立川」 ⑥日本競輪選手会東京支部「たちかわ競輪」
	ボッチャ	8 ページ	ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ 6 球ずつのボールを投げる、転がす、他のボールに当てるなどをして、いかに近づけるかを競う。障害によりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプ）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できる。パラリンピック競技大会の正式種目である。
	ボルダリング	16 ページ	クライミングの一種で、高さ 4 m の壁を制限時間内にいくつ登れるかを競う競技である。ホールドと呼ばれる色の付いた石の近くに目印となるマークがあり、同じマークのホルダーのみを使って、スタート地点からゴールを目指す。ゴールのホールドを両手で触ることで課題（コース）はクリア（完登）となる。東京 2020 オリンピック競技大会にてオリンピックの新競技となった。
ら 行	レガシー	14 ページ	オリンピック・パラリンピック競技大会の開催等を契機として社会に生み出される持続的な効果のこと。

2 策定組織の開催経過

本計画の策定にあたり、市内の策定委員会やスポーツ推進審議会、教育委員会定例会にて協議を行いました。策定までの経過は以下のとおりです。

◆ 立川市スポーツ推進審議会

- ・第1回＜令和元年7月2日（火）＞ 計画策定について現在までの経緯やスケジュール確認
- ・第2回＜令和元年9月3日（火）＞ 現計画の課題及び次期計画の方向性検討
- ・第3回＜令和元年12月10日（火）＞ たたき台の検討
- ・第4回＜令和2年1月14日（火）＞ 素案の検討（まとめ）
- ・書面開催＜令和2年5月＞ 素案の協議

◆ 立川市スポーツ推進計画策定委員会

- ・第1回＜令和元年5月13日（月）＞ 現在までの経緯、進め方やスケジュール確認
- ・第2回＜令和元年11月11日（月）＞ 審議会の進捗報告、たたき台の検討及びまとめ
- ・第3回＜令和2年1月22日（水）＞ 素案の検討（まとめ）

◆ 立川市スポーツ推進計画策定委員会幹事会

- ・第1回＜令和元年5月17日（金）＞ 現在までの経緯、進め方やスケジュール確認
- ・第2回＜令和元年7月1日（月）＞ 審議会からの意見報告、次期計画の方向性検討
- ・第3回＜令和元年8月8日（木）＞ 計画の体系、校正、取組内容検討
- ・第4回＜令和元年10月31日（木）＞ たたき台の検討

◆ 立川市教育委員会定例会

- ・第1回＜令和2年1月9日（木）＞ たたき台の協議

3 立川市民のスポーツに関する意識調査結果

調査目的と実施概要

(1) 調査の目的

スポーツ基本法第10条の規定に基づく「第2次スポーツ推進計画」を策定するにあたり、市内在住の対象者に対してアンケート調査を行うことにより、スポーツの実施状況やスポーツの環境整備などへの要望・意見を把握し、計画策定の基礎資料とする。

(2) 調査方法

郵送法(郵送による調査票の配布・回収)

(3) 調査期間

令和元年5月20日～6月10日

(4) 調査対象・抽出方法

本市18歳以上の市民から、以下の年齢で無作為抽出

	対象者	人数
①	18歳～29歳	250
②	30歳代	200
③	40歳代	200
④	50歳代	200
⑤	60歳代	200
⑥	70歳以上	200
	合 計	1,250

(5) 回収率

	対象者	人数	回収率
①	18歳～29歳	45	18.0%
②	30歳代	52	26.0%
③	40歳代	69	34.5%
④	50歳代	67	33.5%
⑤	60歳代	93	46.5%
⑥	70歳以上	63	31.5%
	合 計 年齢不明の1名を含む	390	31.2%

(6)主な調査内容

調査項目
■ 回答者の基本属性
■ 自身の体力・運動状況についての意識
■ スポーツ実施状況
■ 市内のスポーツ環境について
■ スポーツに関する情報について
■ スポーツ観戦状況
■ 障害者スポーツについて
■ 子どものスポーツ・遊びの環境について
■ e スポーツについて
■ プロスポーツチームについて
■ 自由意見

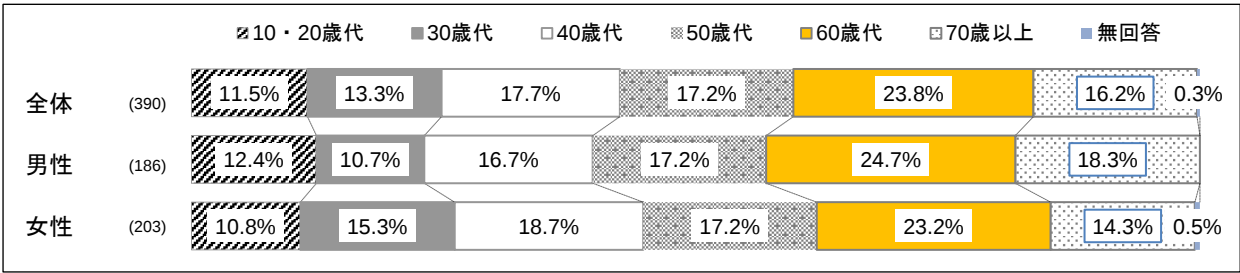
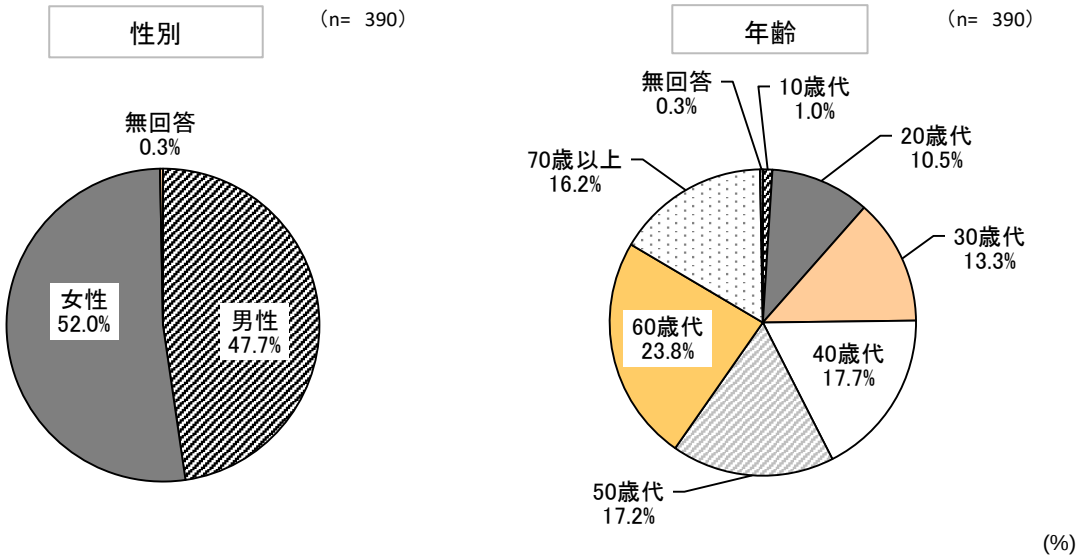
※データの表示について

属性別クロスデータは、全体データとの差により以下のとおりの表示とする。

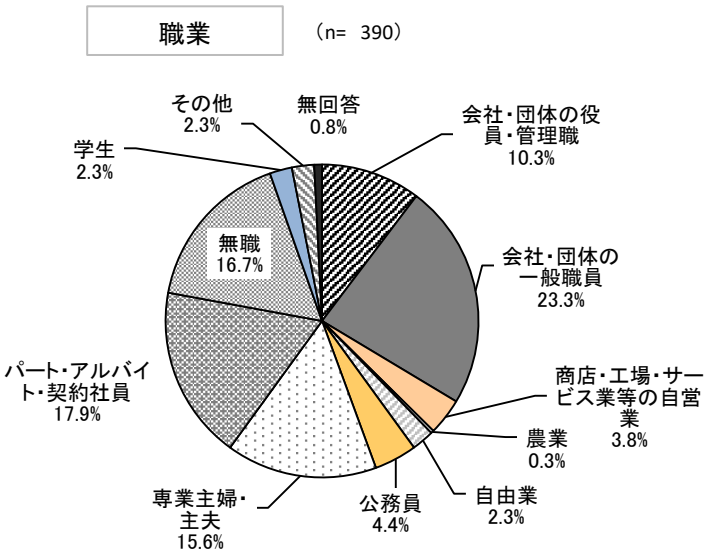
	全体より 5 ポイント以上高い
	全体より 5 ポイント以上低い

1 回答者の基本属性

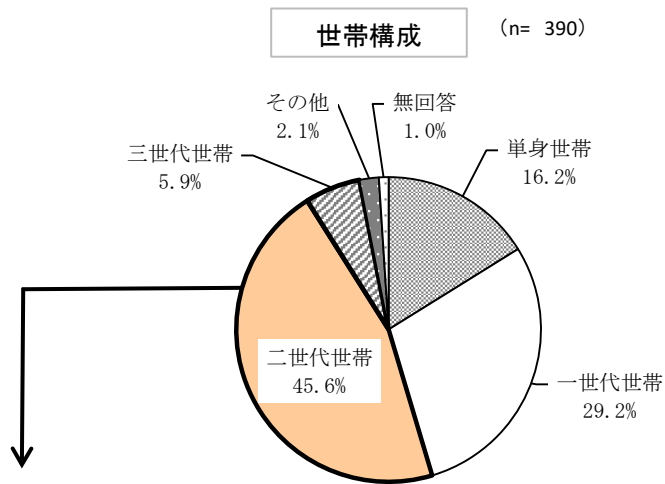
年齢と性別



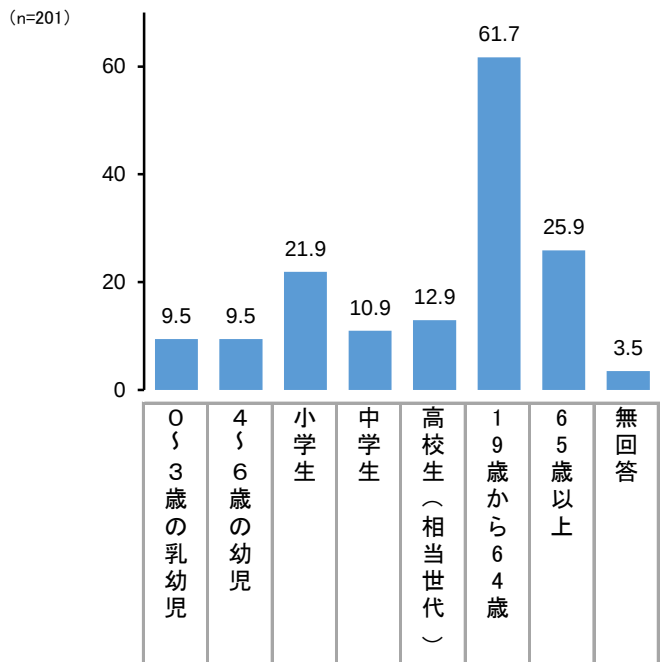
職業



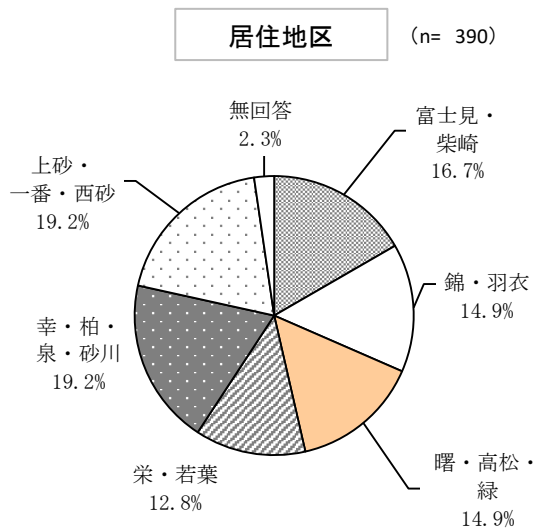
世帯構成



同居家族(二世代・三世代世帯)(複数回答)

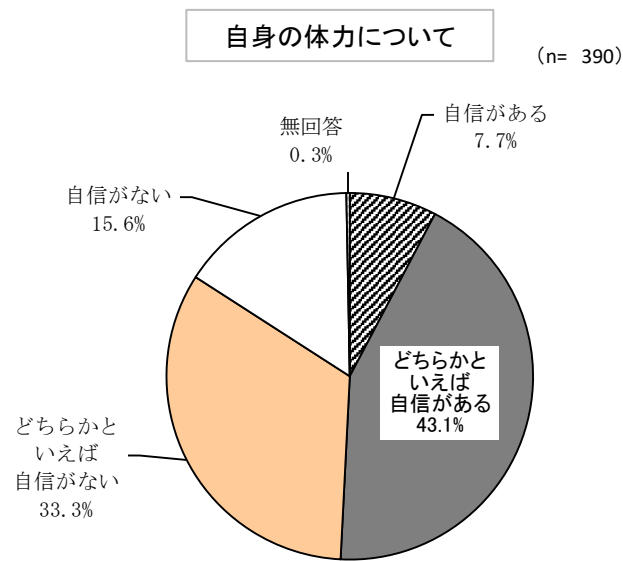


居住地区



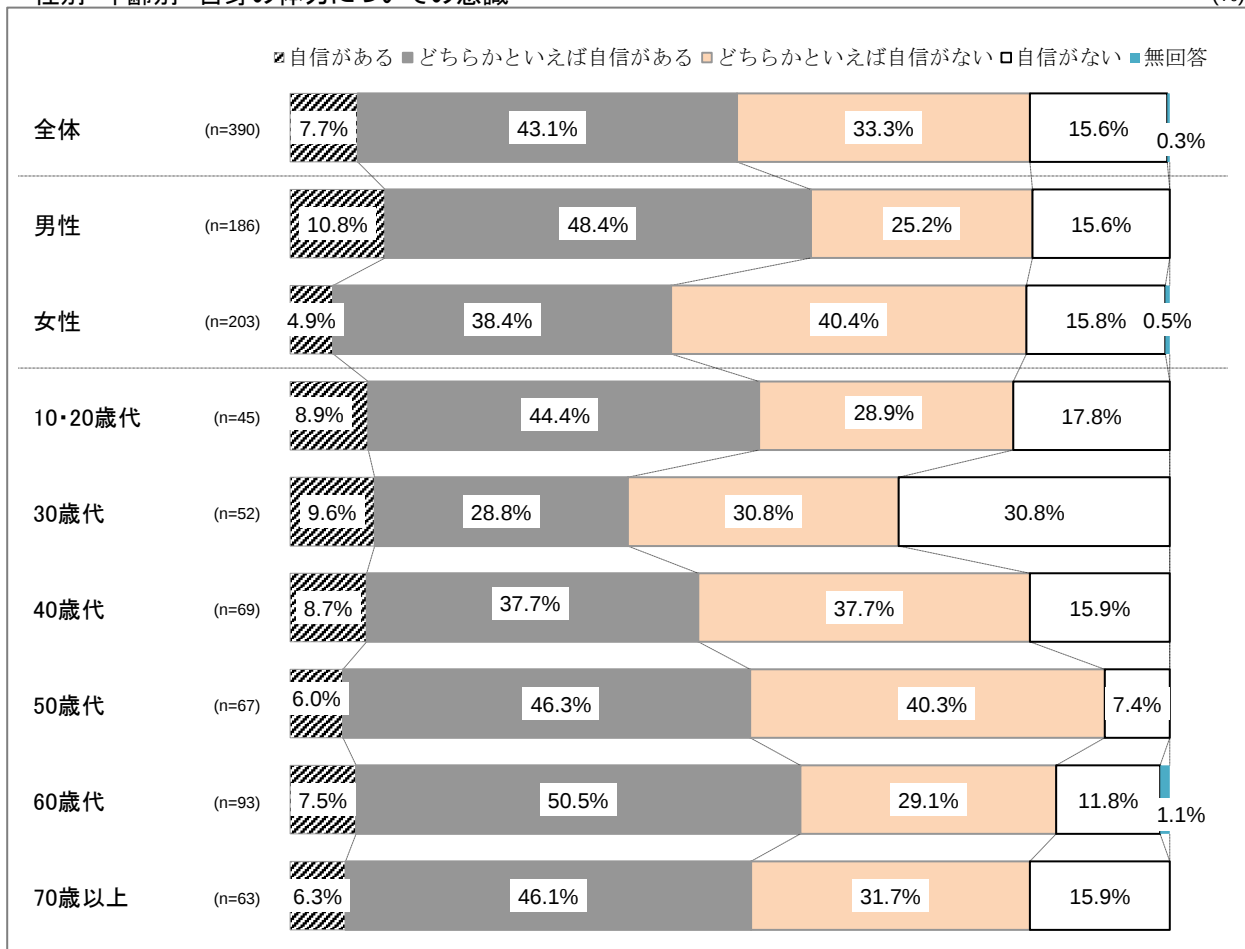
2 自身の体力・運動状況についての意識

自身の体力についての意識

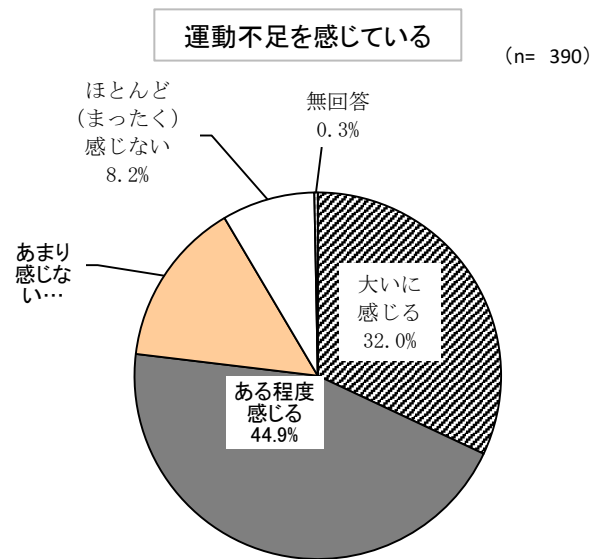


性別・年齢別 自身の体力についての意識

(%)

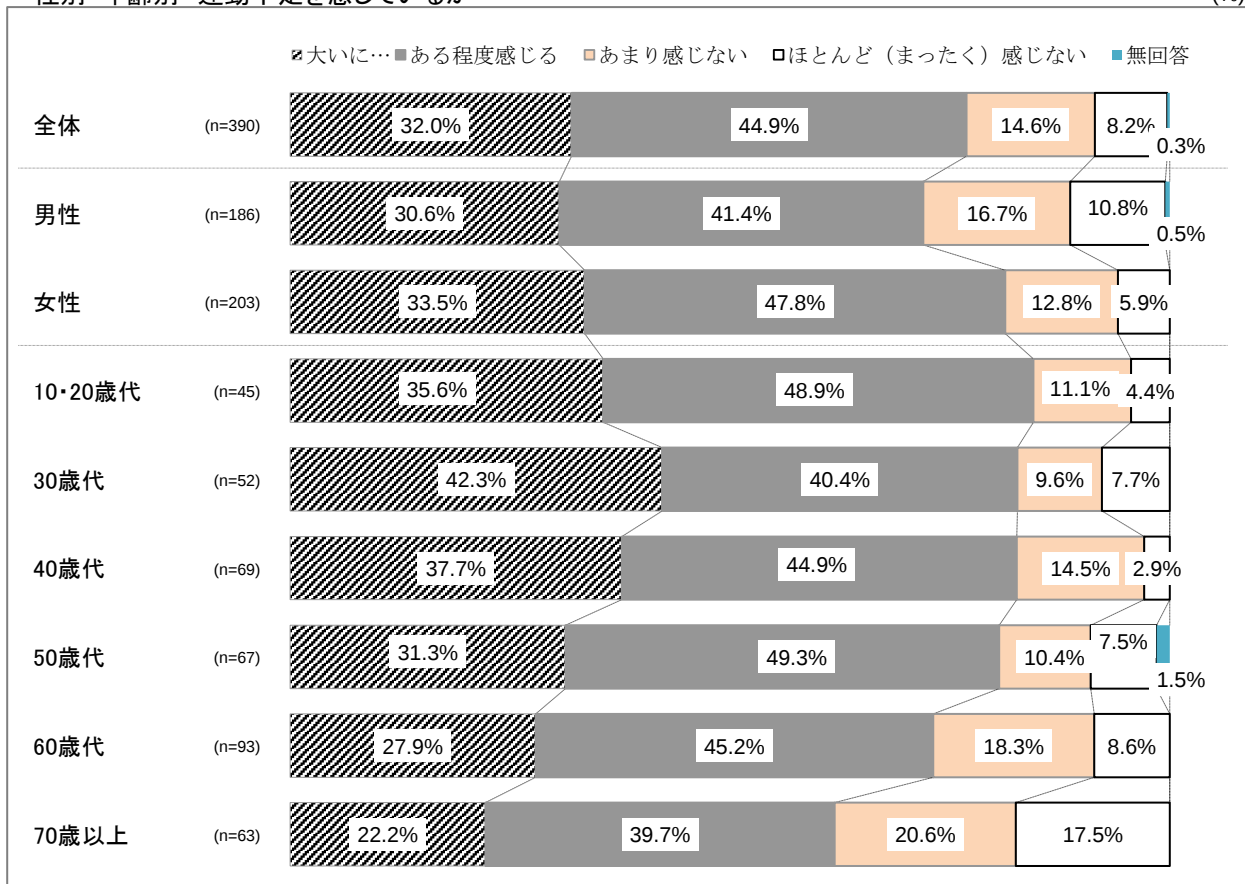


自身の運動状況についての意識



性別・年齢別 運動不足を感じているか

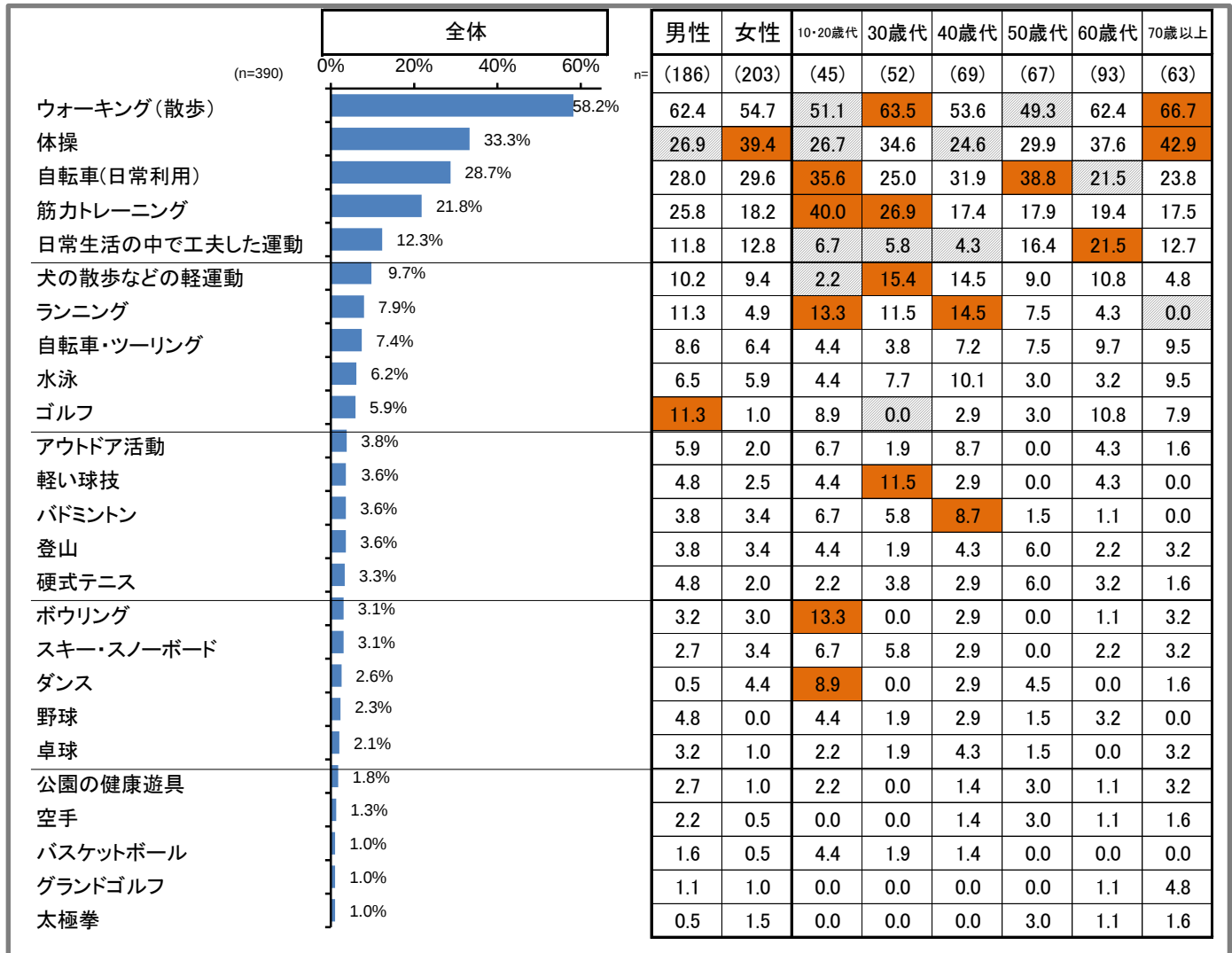
(%)



3 スポーツ実施状況

実施したスポーツの種目・種類(過去3か月)

実施したスポーツの種目・種類(過去3か月)/1%以上(4件以上)の項目(複数回答)



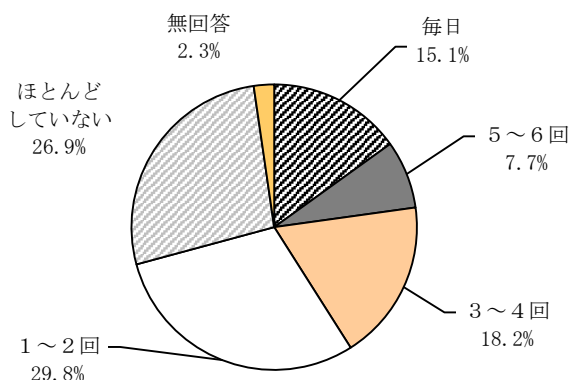
実施したスポーツの種目・種類(過去3か月)/件数

ウォーキング(散歩)	227	ボウリング	12	ソフトボール	2	その他	10
体操	130	スキー・スノーボード	12	ミニテニス	2	ボルダリング	3
自転車(日常利用)	112	ダンス	10	ソフトバレーボール	2	アイススケート	1
筋力トレーニング	85	野球	9	ソフトテニス	1	トレイルラン	1
日常生活の中で工夫した運動	48	卓球	8	柔道	1	ハイキング	1
犬の散歩などの軽運動	38	公園の健康遊具	7	スケートボード	1	スカッシュ	1
ランニング	31	空手	5	ニュースポーツ	1	Tボール	1
自転車・ツーリング	29	バスケットボール	4	ゲートボール	0	フラフープ	1
水泳	24	グランドゴルフ	4	弓道	0	農作業	1
ゴルフ	23	太極拳	4	相撲	0	スポーツをしていない	32
アウトドア活動	15	陸上競技	3			無回答	1
軽い球技	14	サッカー	3				
バドミントン	14	フットサル	3				
登山	14	バレーボール	3				
硬式テニス	13	剣道	3				

スポーツ実施率

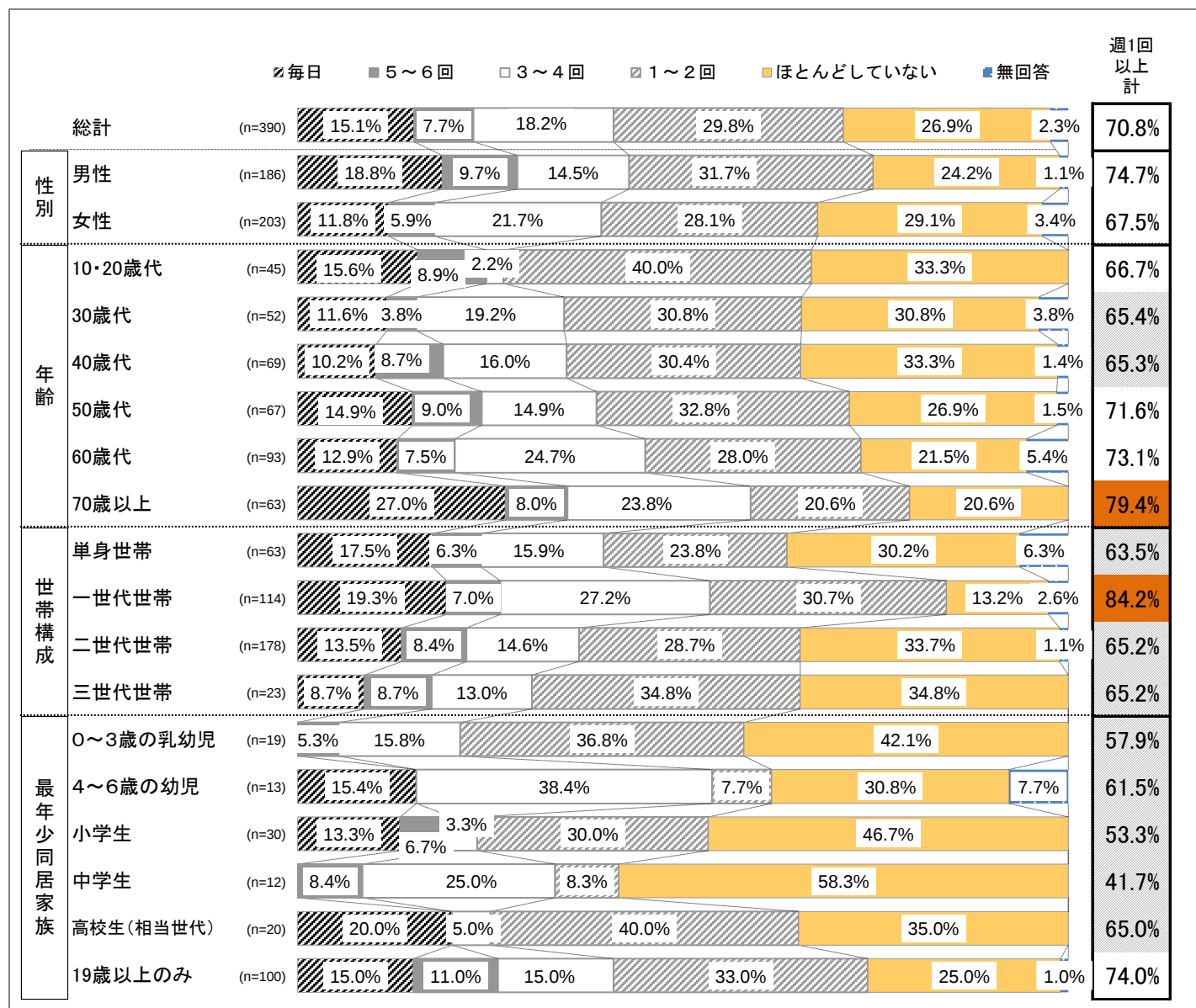
スポーツをする頻度(1週間)

(n= 390)



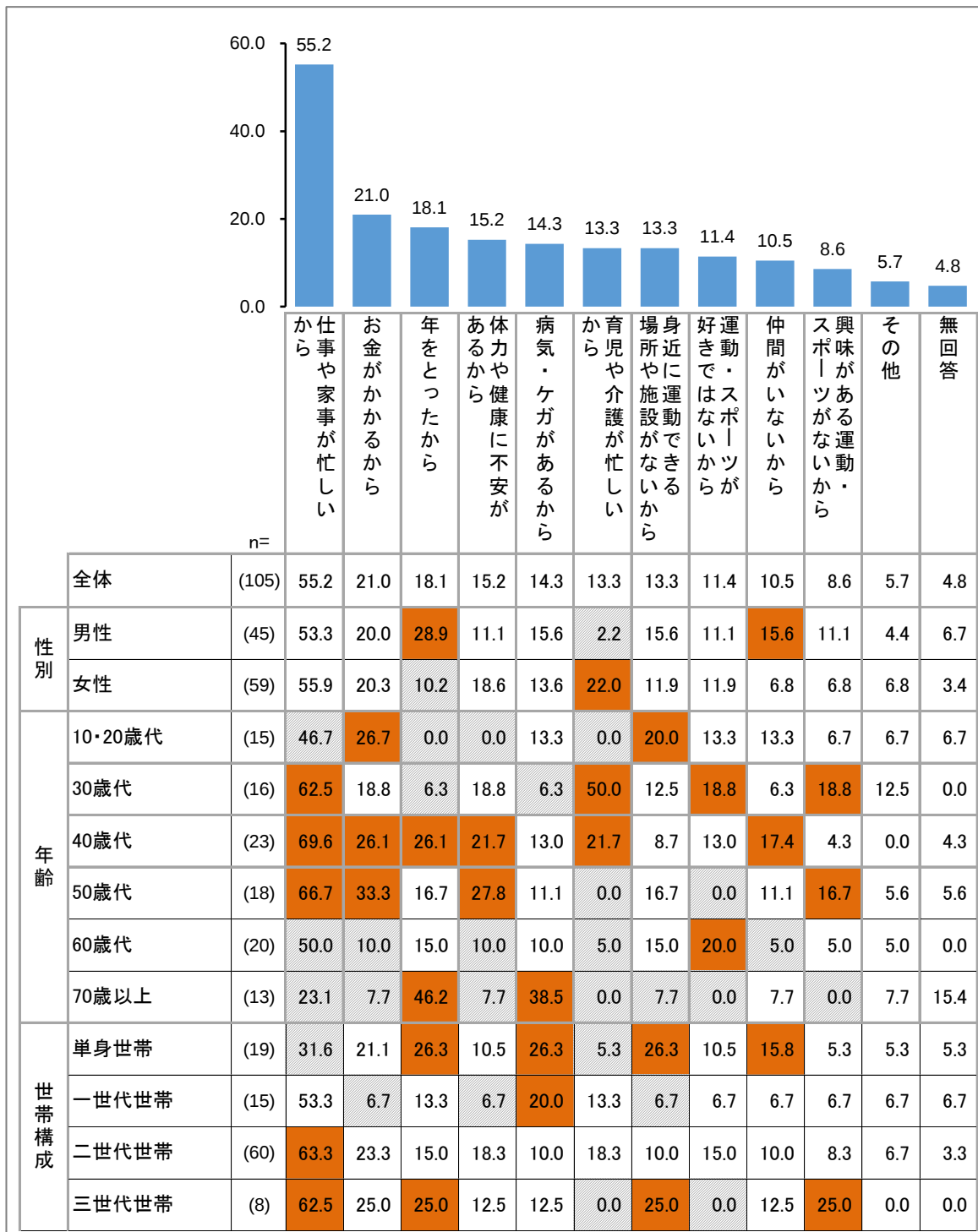
性別・年齢別・世帯構成別 スポーツ実施率

(%)



スポーツができない理由

性別・年齢別・世帯構成別 スポーツができない理由(スポーツをしていない人のみ)(複数回答) (%)



スポーツができない理由その他	属性(性別、年代)
やりたいという気力がわかない	(男性、60歳代)
術後、リハビリ中のため	(女性、70歳以上)
したくないから	(女性、30歳代)
小さな子どもがいると、自分でスポーツをすることは難しい。 あずけ先があればしたい！！	(女性、30歳代)
その他の用事で忙しいから	(女性、50歳代)
身体的才能がないから	(男性、10・20歳代)

4 市内のスポーツ環境について

市内施設利用状況

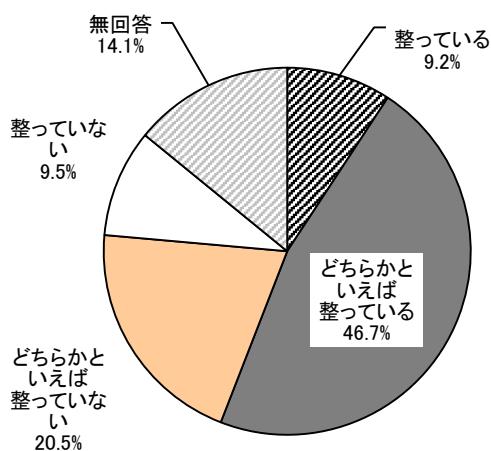
市内施設利用経験(過去1年間)

	(n=390)	週1回以上	月1回以上	年1回以上	利用していない	無回答	(%) 利用したことがある計
泉市民体育館		3.4%	2.8%	7.9%	82.8%	3.1%	14.1%
柴崎市民体育館		4.1%	2.0%	5.4%	85.9%	2.6%	11.5%
野球場		0.5%	0.2%	0.8%	94.9%	3.6%	1.5%
庭球場		0.5%	0.5%	0.3%	95.1%	3.6%	1.3%
陸上競技場		0.3%	0.3%	0.3%	95.5%	3.6%	0.9%
ゲートボール場		0.0%	0.0%	0.0%	96.4%	3.6%	0%
フットサル場		0.0%	0.3%	0.3%	95.8%	3.6%	0.6%
多目的広場		1.0%	0.5%	0.8%	94.4%	3.3%	2.3%
スケートパーク		0.3%	0.0%	0.0%	96.1%	3.6%	0.3%
市立小中学校の体育施設		3.3%	0.5%	0.3%	92.8%	3.1%	4.1%

施設の充実について

スポーツを楽しめる施設環境が整っているか

(n= 390)

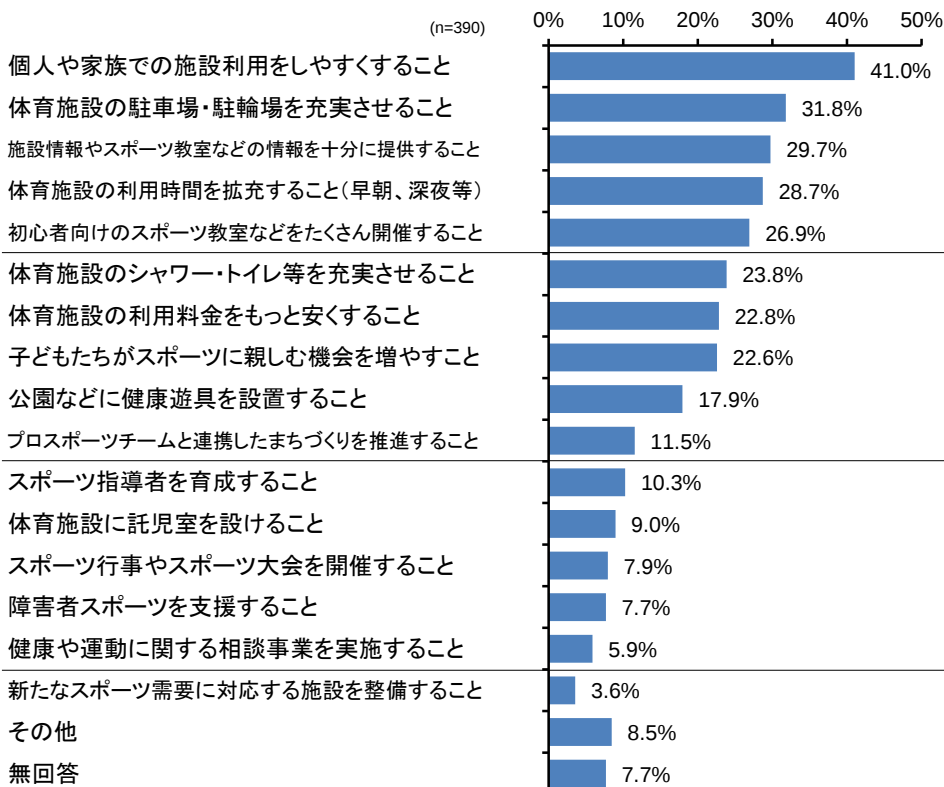


居住地区別 スポーツ環境評価

	合計	整っている	どちらかといえば整っている	どちらかといえば整っていない	整っていない	無回答	整っている計
総計	(390)	9.2%	46.7%	20.5%	9.5%	14.1%	55.9%
富士見・柴崎	(65)	4.6%	56.9%	16.9%	15.4%	6.2%	61.5%
錦・羽衣	(58)	12.1%	46.5%	25.9%	1.7%	13.8%	58.6%
曙・高松・緑	(58)	13.8%	48.3%	12.1%	13.8%	12.0%	62.1%
栄・若葉	(50)	8.0%	50.0%	10.0%	10.0%	22.0%	58.0%
幸・柏・泉・砂川	(75)	12.0%	45.3%	24.0%	8.0%	10.7%	57.3%
上砂・一番・西砂	(75)	5.3%	36.0%	30.7%	9.3%	18.7%	41.3%

スポーツに親しむために必要と思うこと

市民がスポーツに親しむために必要だと思うこと(複数回答)



スポーツに親しむために必要なこと その他まとめ

ハード面

市民体育館を増やす
 施設を増やすこと/スポーツ施設がほしい/ジョギングできる緑地や運動公園、体育施設、トレーニングジム
 常時気軽に利用できる体育施設が歩いていける距離にあるとよい/市の体育館等が遠い
 "ケア"する無料の施設がほしい(人の集まる場所に作る)
 スケートパークをもっと作ってほしい
 多目的広場に駐車場があれば高齢者をもっと孫と利用できる
 河川敷グラウンドの駐車場を昭島市営のように有料で良いので充実してほしい
 体育館で本格的な運動というより身近で気軽に利用できる室内運動ができる施設があれば良い
 体育館にエアコンを設置してほしい

施設運営

泉市民体育施設内の有料イベントが多く不便(プールのコース減少)
 施設のスタッフの負担が増えてしまうので施設利用時間の拡充は反対
 学校の体育館や地域の公民館など近隣の人が気軽に利用できる機会を設けてほしい
 テニスコートの夏時間・日没前に照明をつけるのはおかしい
 プールを利用したいが、常連の人ばかりがいるようで利用しにくいので、初めての人の日などを作ってほしい
 テニスコートの予約を取りやすく、場所を増やすこと
 市民体育館などで教室がいつも同じなので新しいものをお願いしたい/日にち、曜日もいつも同じで行くことができない

情報提供

スポーツ施設に関する周知をすること
 試合の動画をSNS等で「ルールなどの解説付き」で発信する
 スポーツ関連施設のPR

イベント・教室の企画・運営

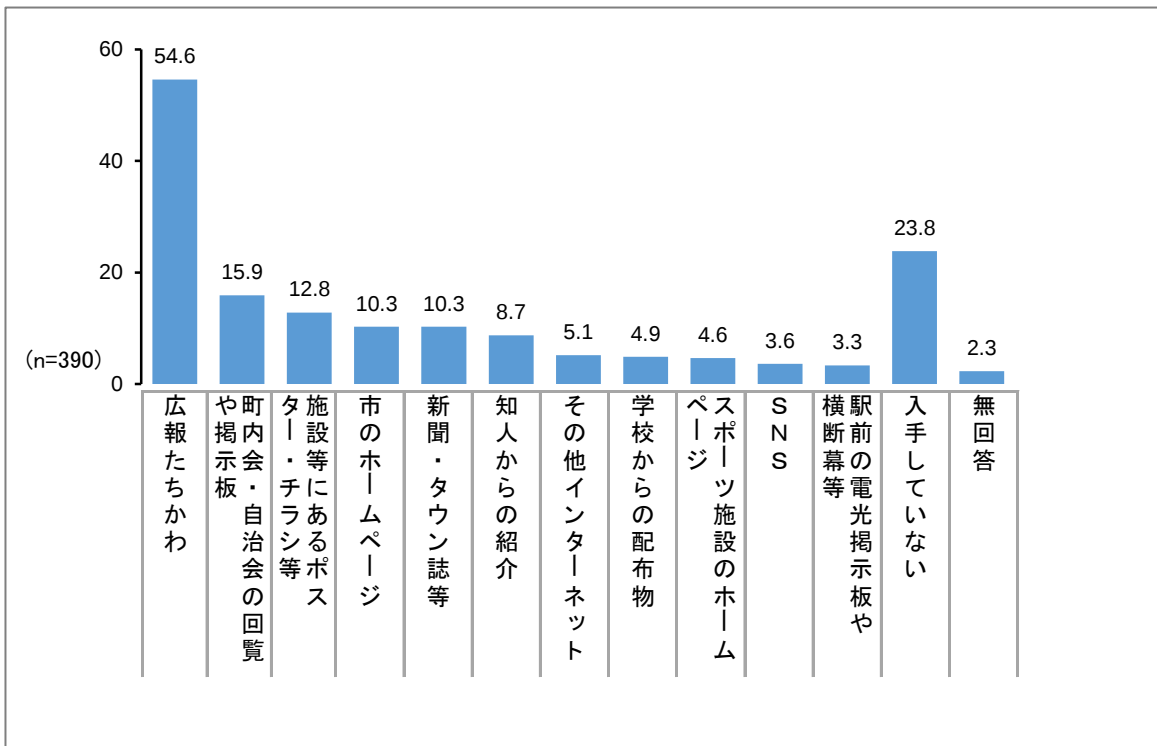
気軽に参加できるイベントを駅近くで年齢問わずに実施してほしい
 興味、関心が持てるようなイベント等を実施すること
 20代の若者(学生)が一人で参加しやすいものが少なすぎる/子どもやお年寄りに特化しているものが多い
 シルバー世代がやりやすい運動を実施してほしい

5 スポーツに関する情報について

市のスポーツ情報媒体

立川市のイベントやスポーツ情報媒体(複数回答)

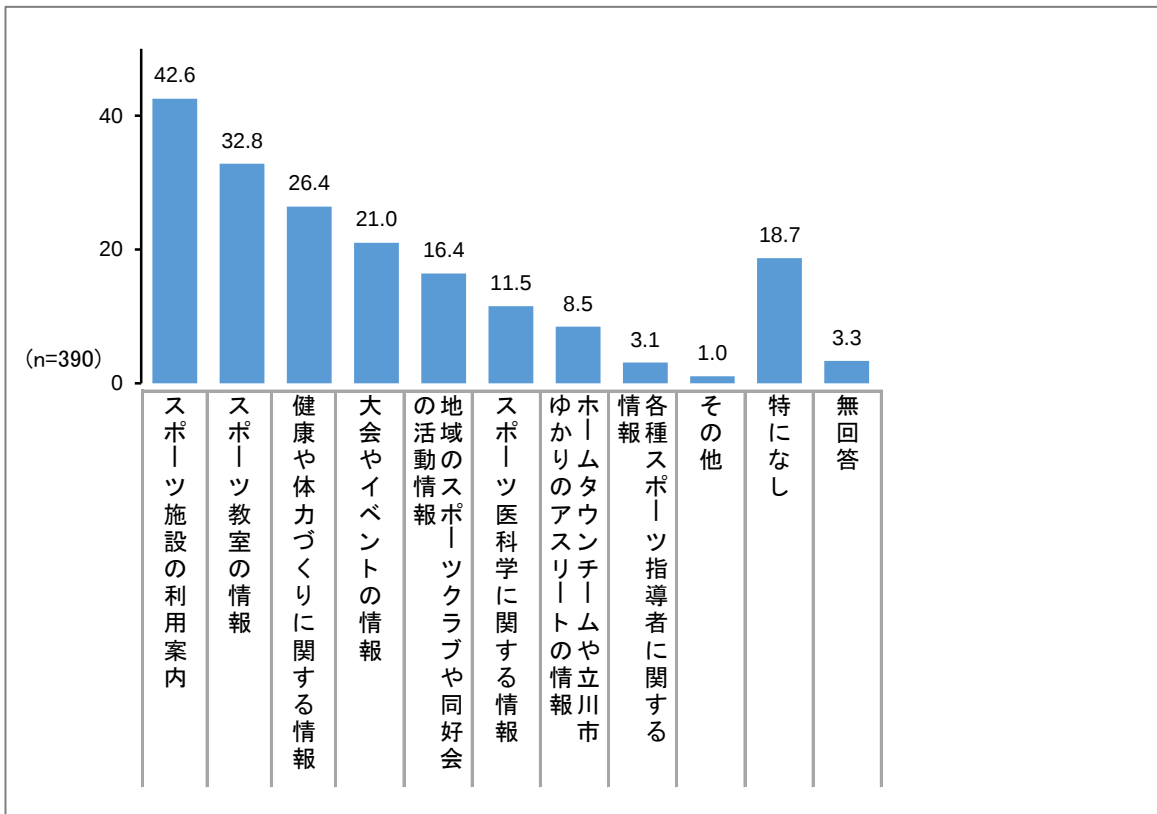
(%)



知りたい情報

知りたいスポーツ情報(複数回答)

(%)

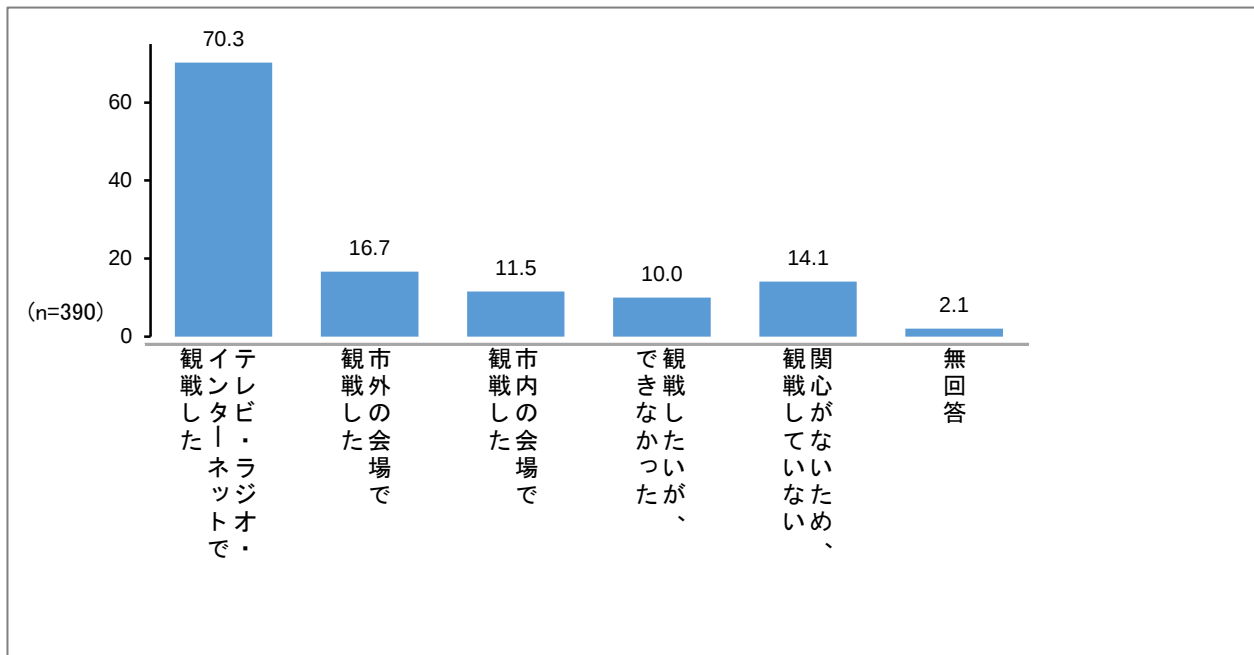


6 スポーツ観戦状況

スポーツ観戦経験

スポーツ観戦をしたか(過去1年間)(複数回答)

(%)

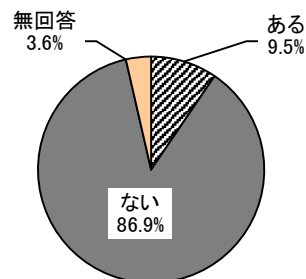


7 障害者スポーツについて

障害者スポーツの経験

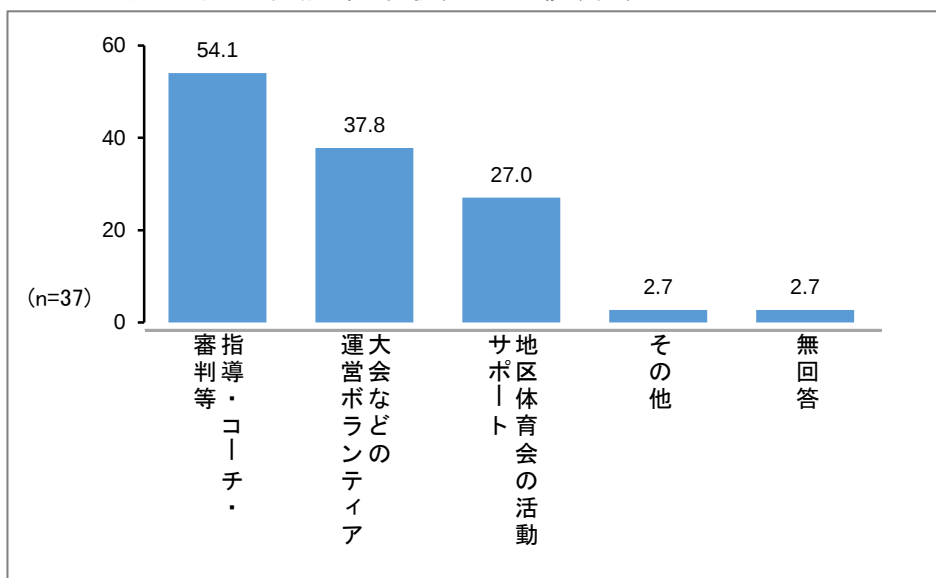
指導・協力・ボランティア等の経験有無(過去1年間)

(n= 390)



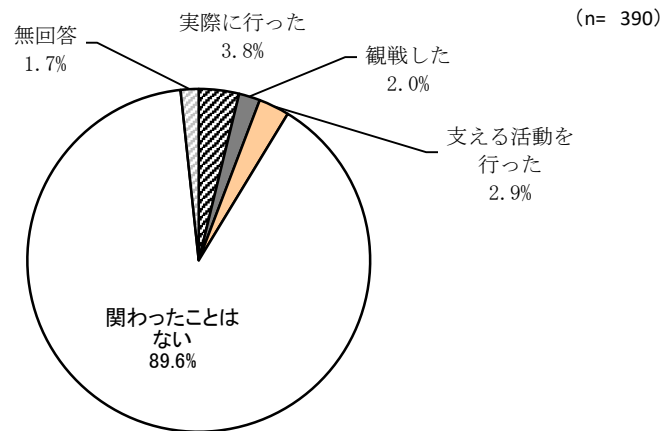
ボランティアの活動内容(経験者のみ)(複数回答)

(%)



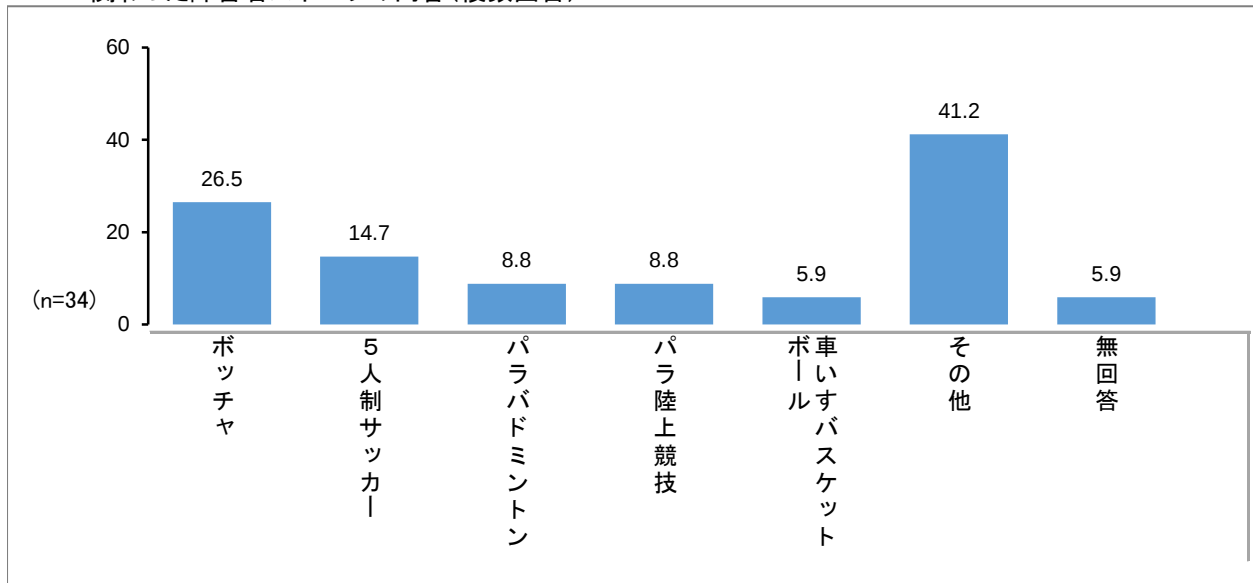
経験した障害者スポーツの種目・内容

障害者スポーツについての経験



関わった障害者スポーツの内容(複数回答)

(%)



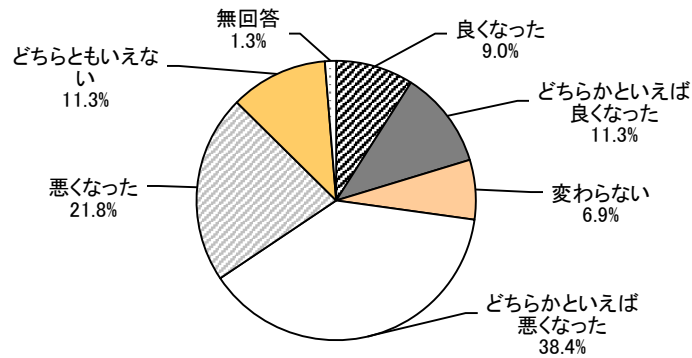
関わった障害者スポーツの内容 その他	属性 (性別、年齢、スポーツ実施状況/週)
長距離走	(男性、60歳代、ほとんどしていない)
スペシャルオリンピックスのボウリング	(女性、60歳代、毎日)
空手	(男性、50歳代、3～4回)
横田基地スペシャルオリンピックス	(男性、10・20歳代、毎日)
世田谷の障害者施設の合同運動会	(女性、10・20歳代、ほとんどしていない)
パラ駅伝	(女性、50歳代、ほとんどしていない)
ダンス	(女性、70歳以上、毎日)
Tボール	(男性、10・20歳代、1～2回)
パラトライアスロン	(女性、30歳代、毎日)
職場で行われたパラリンピック	(女性、40歳代、ほとんどしていない)
水泳、ウォーキング	(男性、50歳代、ほとんどしていない)
マラソン伴走	(男性、60歳代、毎日)

8 子どものスポーツ・遊びの環境について

子どものスポーツ環境についての意識

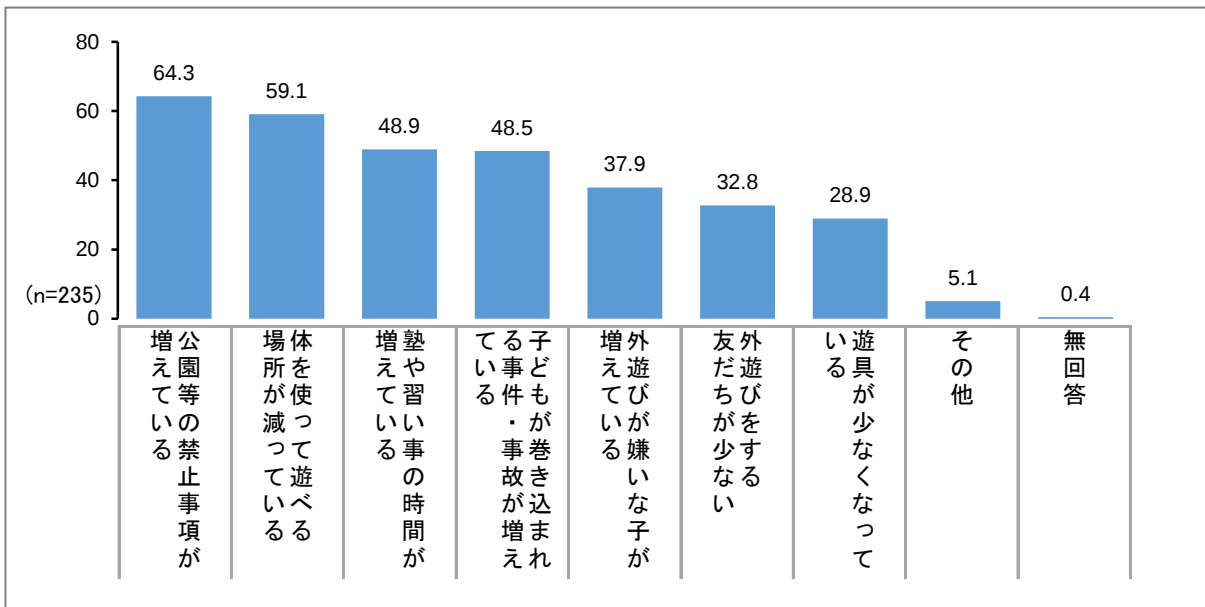
自分の子どものころと比較した現代の子どものスポーツ環境について

(n= 390)



子どものスポーツ環境で悪くなった点(悪くなったと思う人のみ)(複数回答)

(%)

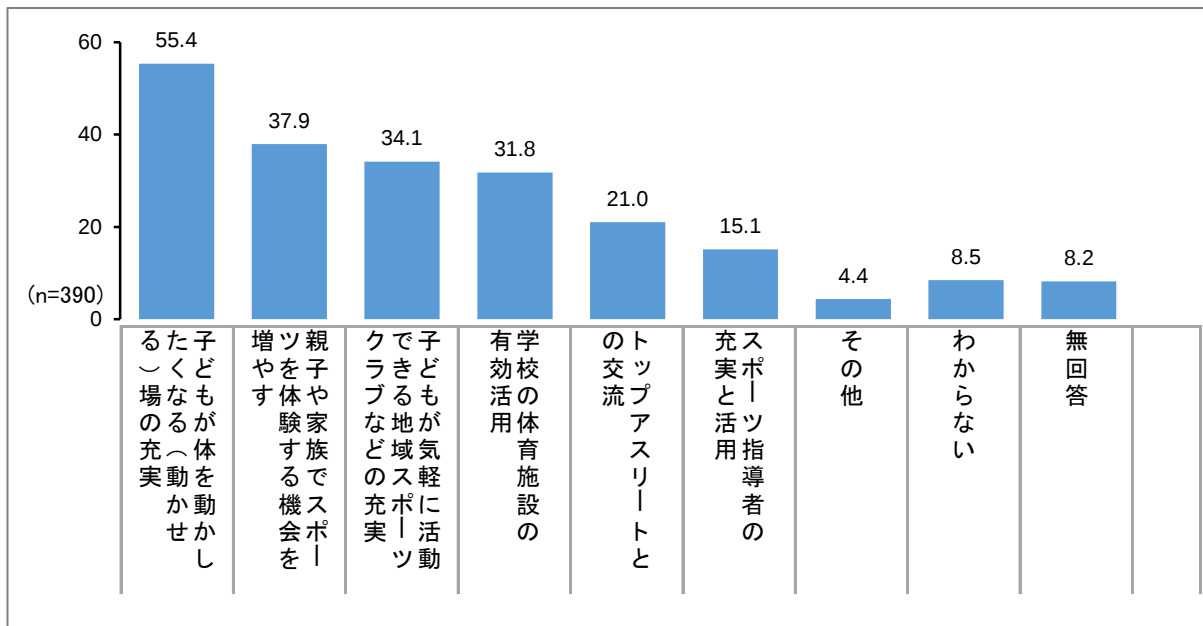


子どものスポーツ環境で悪くなった点 その他	属性 (性別、年齢、スポーツ実施状況/週)
何でも危険という風潮になっている	(女性、30歳代、無回答)
ボール遊びができない	(女性、40歳代、ほとんどしていない)
家の中での遊びが楽しすぎる	(男性、40歳代、3～4回)
自転車で遊べる場所が少ない	(男性、60歳代、ほとんどしていない)
携帯を使って遊んでいる	(女性、20歳代、ほとんどしていない)
暑い、熱中症のリスク	(女性、20歳代、1～2回)
野球等ができる公園が少ない	(女性、30歳代、ほとんどしていない)
遊具で遊ぶときに子ども同士で危険のないよう教える子ども達がいなくなったので、遊具を楽しく上手に遊べる子どもがいなくなった(大人の責任もある)	(女性、40歳代、1～2回)
身近に利用する施設がほしい	(男性、70歳以上、1～2回)
施設は増えていましたが、外遊びをする機会が減ったように見える	(女性、60歳代、3～4回)
過保護	(女性、30歳代、1～2回)

子どものスポーツ環境の充実に必要なこと

子どものスポーツ環境充実のため力を入れるべきこと(複数回答)

(%)



子どものスポーツ環境充実のため力を入れるべきこと その他まとめ

ハード面

小さい頃から体を動かすことが自然にできるような環境を取り入れる
公園で普通に遊べる環境/公園を増やす
子どもが自由に動ける広場、施設を作ること/自由に遊べる場所をつくること
スケートパークを作ればBMXとかローラースケートとかいろいろできるからよい

子どもの生活環境について

勉強時間を減らす/勉強を子どもに強いている
ゲーム等との差別化
遊びがコンピュータゲームに偏っている/学校で外遊びの方法、魅力を伝えるべき/ザリガニをとったり、自転車でどこかに行ったり、自らの想像を超えた「メタ要素の強い」外遊びをさせるべき

スポーツの指導について

指導者が最初は憧れからやってみようと思う機会をつくってあげる
興味を抱かせる
学校で運動があまり得意でなくても否定しないこと、元々嫌いだったものが本当に嫌いになる

スポーツクラブ等への参加について

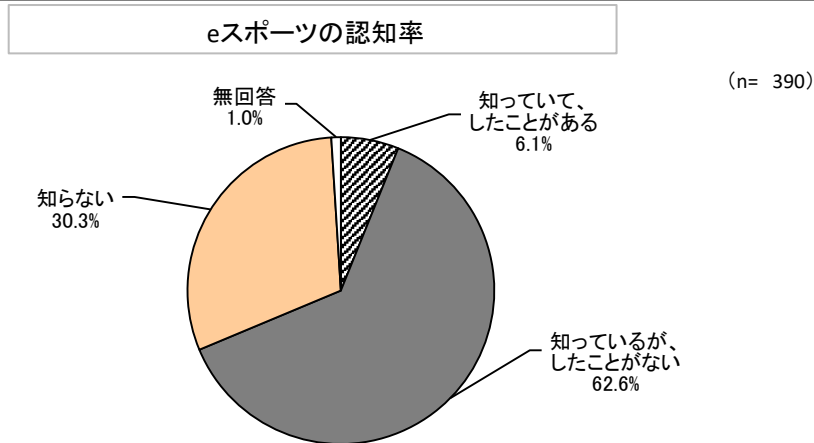
少子化のためか、親も同行させるクラブが多すぎて、親が躊躇してしまう
初期費用が安くないと、続くかわからないのではじめさせにくい

その他

子どもに人気のコンテンツと合わせ、スタンプラリーの形式にすれば歩く

9 eスポーツについて

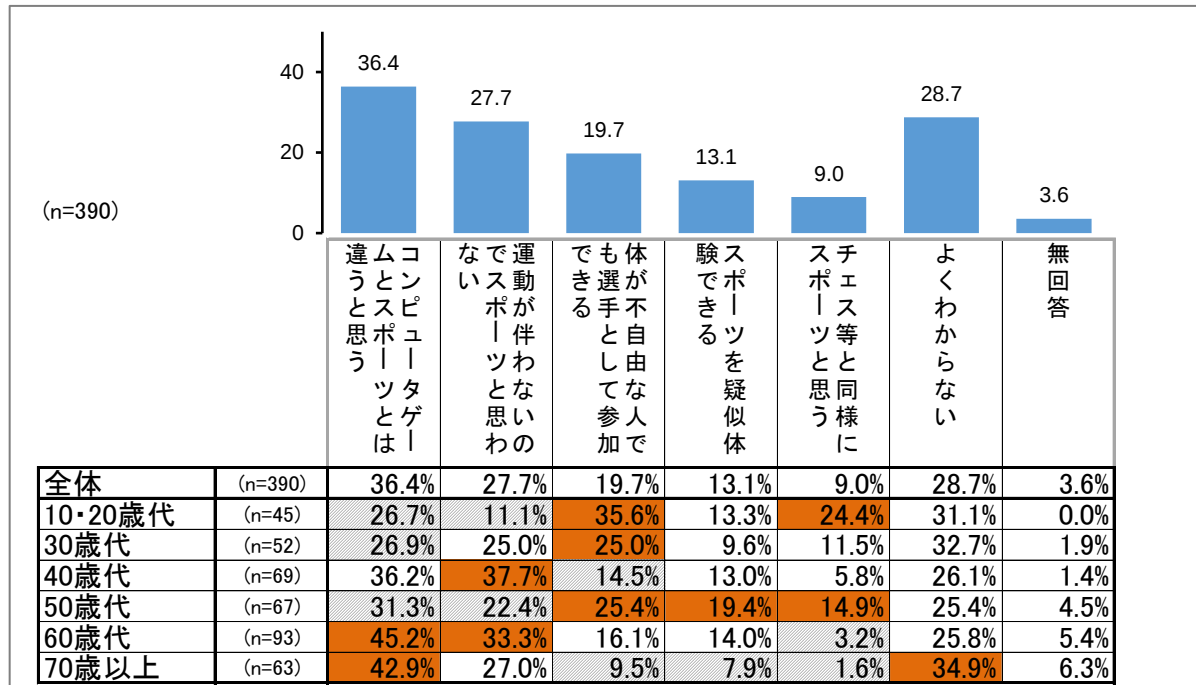
eスポーツの認知率



eスポーツに関する意識

年齢別 eスポーツについてどう思うか(複数回答)

(%)



10 プロスポーツチームについて

立川市にゆかりのあるプロスポーツチームの認知と観戦経験

(%)

	知っている3回以上試合観戦した	知っている1, 2回試合観戦した	知っているが試合観戦したことがない	知らない	無回答	知っている計
(n=390)						
アルバルク東京	2.1%	4.4%	50.2%	41.3%	2.0%	56.7%
TACHIKAWA DICE.EXE	0%	1.0%	26.2%	70.8%	2.0%	27.2%
立川・府中アスレティックFC	0.8%	0.3%	12.8%	83.8%	2.3%	13.9%
東京ヴェルディ	3.1%	6.6%	67.2%	21.8%	1.3%	76.9%

11 自由意見

自由回答

回答内容	属性 (性別、年齢、スポーツ実施状況/週)
一人でも軽く運動できる施設が欲しい。	(男性、60歳代、5～6回)
スポーツの予算をもっと社会福祉に費やすべき。eスポーツは税金のムダ。	(男性、30歳代、3～4回)
温泉付スポーツ施設を増やすと利用者が増えると思います。	(男性、60歳代、毎日)
意識改革から始めたほうが良いと思う。	(男性、40歳代、1～2回)
広報を通して体操等、参加できる教室等はないかと探していますが、なかなか、曜日、時間帯等予定が合いません。	(女性、60歳代、ほとんどしていない)
健康寿命を延ばすために、シニア世代の体力の保持増進に力を入れる必要があると思います。例えば片足立ちやスクワットなど、自宅でも簡単にできる体操を広報紙で紹介してはどうでしょうか。どこか施設に行って体を動かすことはなかなかハードルが高く感じます。ウォーキング等は足腰が痛くなければ一番エコで根ざしていて、お金もかからず、良いと思います。	(女性、60歳代、3～4回)
予算のやりくりが大変かと思いますが、頑張ってください。eスポーツも推進してください。	(男性、40歳代、1～2回)
参加者が少ない競技大会があるため、他の市町村と一緒にスポーツができる合同の大会を作ってほしい。	(男性、40歳代、5～6回)
立川市は結構広いので場所によっては行くことをあきらめてしまう場合もある。駐車場の確保やアクセスの利便性は必要かと思っています。	(女性、50歳代、1～2回)
富士見町に大きな公共体育施設・スポーツ施設の建設を願います。	(女性、60歳代、ほとんどしていない)
体を動かすことの大切さを知っている人間は、現状の環境(施設等)のままでも機会を自分たちで作ってスポーツに取り組む。その他の、体を動かすことの重要性を認知していない人々に、いかにスポーツに関わってもらえるか、重要性を広く認知してもらう取組(医学的または体型維持等の美容の観点とかでも)が大切だと感じる。	(女性、30歳代、5～6回)
立川市の体育館で実施しているストレッチ体操に参加したが、年齢幅があるため、高齢者にとっては2時間の中で10分の休憩では動きもきついため、参加をやめてしまった。若い人から高齢者まで誰でも参加可能をうたっていますが、ちょっと無理だった。プール利用は人数制限があり、継続の人たちで満員になっている。	(女性、70歳以上、3～4回)
どのようにスポーツ意識を高めたいのか？何を目的にスポーツをするのか。私の考えとしては、人間は動物であるから、動く事が必要な生き物ととらえている。何でもいから身体を動かすこと。それを信条としています。型にはめないで、それぞれが自由にテニスや弓道、バレー、ゴルフなどを楽しんでいると思います。それらの人達が少しでも長く続けられるように援助してあげることも必要ではないか。それには、施設を利用する訳ですが、その利用料の1～2割を補助してあげれば、もっと気軽に運動することになり、運動する人が増えるのではないかと。何をやるにも利用料が高過ぎる。領収書で決済する方法などを検討してはどうか。	(男性、70歳以上、1～2回)
住まいが富士見町1丁目なので、昭島市の総合スポーツセンターを利用しています。	(女性、60歳代、毎日)
柴崎町に練成館があり、家族4人で合気道を5年～6年間楽しみました。また、長男が小学4年生の時にクラスメートから誘われて、中学3年生まで野球の練習に付き合い楽しかった。子どもたちが小学生の時にスポーツを体験させる機会があれば良い。	(男性、60歳代、1～2回)
立川市には全く期待していない。	(男性、60歳代、毎日)
立川市内から多方面で活躍できるプロスポーツ選手が輩出されることを願っています。古希を迎える身であり、アンケートに望むような回答ができませんでした。	(女性、70歳以上、ほとんどしていない)
設問全体で、選択肢に恣意性すら感じるアンケートと思ってしまいました。例えば設問26のeスポーツでは、個人的な認識としてプロでは25歳程度までしか通用しない。反射神経と筋力のももの思っていますが、答えに合致するものが見当たりません。大変恐縮ではございますが、もう少し自然な順序で論拠だてを感じられたら、ずっと建設的な一材になれたのではないかと思います。	(男性、50歳代、5～6回)
身体を自由に動かせる広場や公園が必要だと思います。競技スポーツにおいて、勝敗重視のものは継続することが困難だと思っています。	(男性、60歳代、3～4回)
自治会等をお願いをして、高齢者と子ども、孫たちと一緒に運動できる環境づくりを進めることを検討したらどうでしょうか。	(男性、70歳以上、毎日)
1. 高齢者に対する体力の保持増進のための先進器具の利用場所をPRし、また、フリーでの利用が可能となるように検討してほしい。 2. 放課後、子どもが自由に校庭を利用できるようにしてほしい。 3. 各種スポーツの資格を持つ指導者を活用してほしい。 4. 塾等への時間にとられ、子ども本来の自由な時間が少なくなり、子ども同士での自由な時間が取れなくなってきたことが残念である。	(女性、70歳以上、毎日)
公園が使えなくなるため、競輪場の近くの公園を競輪場の駐車場にするのをやめてもらいたい。	(男性、50歳代、5～6回)

自由回答

回答内容	属性 (性別、年齢、スポーツ実施状況/週)
もっとプロの方と体が不自由な方が一緒にスポーツに取り組めるような環境をつくってほしい。また、立川市の公共体育施設が三多摩の中でも目新しい施設になるように目指してほしい。	(男性、60歳代、ほとんどしていない)
スポーツ器具を増やしてほしい。	(男性、70歳以上、3～4回)
私は難病なので私の意見は無視してください。スポーツに関しては困難ばかりなので、私の意見は参考になりません。	(女性、40歳代、1～2回)
主人は毎日散歩に出かけますが、高齢(88歳)なので歩くだけです。何かアドバイスをお願いします。	(女性、70歳以上、ほとんどしていない)
親子や高齢者をターゲットにした取組は多いが、40・50代をターゲットにしたり、主婦をターゲットにしたものは少ないので、そういうものもあってもよいと思う。取組に興味のある人にホームページから登録をしてもらい、個別に必要な情報をお届けするサービスもよいと思う。	(女性、40歳代、3～4回)
・姉妹都市である大町市との共同での登山に関するイベントなどを実施してほしい。 ・ボルダリング関連の大きな施設があるとよい。 ・立川市内にスポーツ用品店が増えてほしい。 ・市内循環バスなど、市民体育館への交通手段が良くなってほしい。 ・緑道にある健康遊具がさらに充実するとうれしい。	(女性、30歳代、1～2回)
スポーツを活用した施策に対し税金面の優遇策を考えて欲しい。	(男性、70歳以上、1～2回)
体育館のプールの利用時間等を見直し、もう少し使いやすくなるとよい。	(男性、50歳代、1～2回)
ボール遊びが出来る場所を作ったほうがよいです。	(男性、50歳代、3～4回)
若い頃は炎天下で汗を流しながら走っていましたが、「結婚」や「子育て」、「年齢」と共にスポーツとは縁がなくなりました。残念です。テレビでのスポーツ観戦くらいです。現在はウォーキング中心の生活です。	(女性、60歳代、3～4回)
以前、当て逃げされたことがあるため、駐車場に監視カメラが必要である。	(男性、70歳以上、毎日)
立川市には泉・柴崎両市民体育館にプールがあり、とてもよいと思います。週に1～2回プールで泳いでいるが、とても便利だと思っています。今後もプールで楽しく泳いで健康に暮らしたいと思っています。	(女性、70歳以上、1～2回)
競輪場での走行会や野球場での体験会など、プロ(OB)を呼んで子どもに興味を持たせる機会を多くしてはどうか？	(男性、40歳代、ほとんどしていない)
他市では運動場にゴルフのケージが設置してあるところがあります。立川市にもその様な場所があるとよいと思います。	(男性、60歳代、1～2回)
校庭を開放している学校でしかボール遊びをする場所がない。ボール遊びができる公園を作ってほしい。	(女性、40歳代、ほとんどしていない)
子どもの遊び場について、小学校の開放は大規模改修中のときは狭く、今までも遊べないことがあった。放課後に予約などをしなくても、行けば遊べる場所があればいいのと思う。校庭にただ座っている指導員ではなく、こんなことをして遊んでみようかと誘ってくれる大人がいれば楽しいと思う。私は主婦ですが、立川市のストレッチ教室に行っています。先生の当たりはずれがある気がしますが、スポーツジムのように決まったコマがあり誰でも気軽に参加できる体育館になったら、足を運ぶ機会が増えると思う。ホームページに教室を担当するインストラクターの顔を載せて、情報発信してみてもどうでしょうか。	(女性、40歳代、1～2回)
若葉町にも運動施設をつくってほしい。市民体育館で行っている子供スイミング教室に送迎バスがあるとよい。曜日も選べると参加できるが、年齢により曜日が決まっていて参加できない。	(女性、30歳代、ほとんどしていない)
スポーツ施策も大事だが、その前段となるしっかりとした食事も大切だと思う。過剰に細い子、太った子を昔より多く見る気がするし、朝食抜きの子もいるようである。	(女性、40歳代、無回答)
ウォーキングを毎日やっているが、使用できるトイレが少ないと感じています。	(男性、70歳以上、毎日)
テニスコートの予約が取りづらい。	(女性、30歳代、ほとんどしていない)
立川市のサッカーチームに所属していますが、他の市と比べると圧倒的にグラウンドが少ないことが不満です。稲城市や日野市などの人工芝のグラウンドは大人も子どももサッカー以外でも利用できるので増やしてほしいです。また、このようなアンケートはインターネットで実施することも検討願います。	(男性、40歳代、1～2回)
eスポーツやAR/VRのスポーツゲームを増やすとよい。	(男性、50歳代、毎日)
スポーツの目的または意味がコンピュータやマスコミ等により変化している。良くない。	(男性、70歳以上、ほとんどしていない)

自由回答

回答内容	属性 (性別、年齢、スポーツ実施状況/週)
多摩川河川敷のスポーツ施設をさらに充実してもらいたい。現在ウォーキングでよく利用しているが、歩行者、自転車と同一に通行している。道路の右、左どちら側を通行したら良いのか明確に定めた方がよいと思います。ちなみに多摩川河川敷の遊歩道は、道路交通法とは逆ですが、歩行者は左側通行が多いみたいです。歩行者、自転車、走っている人の通行区分を決めた方がよいと思います。	(男性、60歳代、1～2回)
子どもが安心して遊べる公園づくりをお願いします。	(男性、40歳代、3～4回)
高齢者がやっているラージボール卓球を続けています。卓球が盛んになっていますので、立川市内の高齢者ができるラージボール卓球を盛んにする工夫をしていただけませんか。初心者の方々も入れるようにしていただくとよいと思います。	(男性、70歳以上、3～4回)
体育館や公民館でのスポーツも、集まって、運動して、終わりの繰り返しとなっています。他の地域の話ですが、常に医師またはそれに準ずる人がいて相談に乗ったり、実施したほうがよい運動について教えてくれたりする環境があると高齢の人も外に出てみようと思うかもしれません。また、これはドイツの話ですが、病院に必ずスポーツ施設があり、市が運営してみんな気軽に通っているとのこと。立川市にはいい病院がたくさんあるのに、これを活かしていないと思います。柴崎体育館の体操教室などは、男性が全く入り込めない状況です。	(女性、60歳代、5～6回)
体幹を鍛えることにも興味があり、体育館に専属のトレーナーをより多く配属してご指導いただけるとありがたいです(今はトレーナーが1人くらいでしたか?)。柴崎体育館にある最新のスポーツ器具を泉体育館へも取り入れてもらいたい。	(男性、50歳代、1～2回)
もうすぐ86歳のため、年々体力がなくなっている。	(男性、70歳以上、3～4回)
団体・グループで積極的に活動している人々の中に、運動が不得手な個人は入りにくい。近くに柴崎体育館があっても個人でどのように利用できるのかわからないため、不安で足が向かない。質問に行っても、よく体育館を利用する方と頻繁に接している職員は不親切である。結局個人での散歩や自転車となる。このような方は、多少なりともいると思うので、個人や初心者が利用しやすく、そこから輪が広がっていかるとよい。	(女性、60歳代、1～2回)
スポーツ・運動施設利用に市民割引等があると始めるきっかけになると思う。	(女性、50歳代、ほとんどしていない)
本人が気付いた体力のおとろえや出来る運動は何かを知りたい。そのために、マイナンバーを活用して必要な運動の情報を得ることはできないだろうか。	(男性、60歳代、ほとんどしていない)
立川市のスポーツ施設は、一部の人の利用になっていると思う。たまに利用したいと思うが、常連である一部の人が幅を利かせて入りづらい。でも、ランニング等の個人で楽しめる環境は整っていると思う。	(女性、40歳代、3～4回)
公園のボール禁止がありえない。昼間のゲートボールなどはよいのが不思議です。公園で子どもたちが老人に監視されながら遊んでいる。国立市の公園まで行って遊んでいます。国立市には感謝しています。	(女性、50歳代、毎日)
学校とバイトで忙しく、体育の授業でもなければスポーツタイムが取れない。夜遅くまでやっていて、かつ、安く利用できるダンススタジオがあれば、行きたい。ダンスが今、唯一の運動となっている。	(女性、10・20歳代、3～4回)
スポーツ施設の周知を、特に義務教育終了時にするべきである。学校での「体育」の時間が無くなるとともに、運動できる環境が無くなったと感じる者は多い。	(男性、10・20歳代、毎日)
障害者が気軽にスポーツできる環境をつくってほしい。	(女性、50歳代、3～4回)
eスポーツに関しても世界大会等が開催され、日本の国内でも大きなものになりつつあるので、少しずつでも後れを取り戻し、追いついていきたいと思っています(リーグ・オブ・レジェンド等)。	(女性、30歳代、1～2回)
上砂町は立川市の中心から遠く、公民館等の施設が無く、立川南口にある体育館は遠いので、つい足が遠のく。	(女性、無回答、3～4回)
前に書いたように、イベントで使われる体育館にはエアコンが設置されているにも関わらず、一般利用の時にはエアコンがつけられていません。これから暑い日が続くので熱中症で市民が倒れる前にエアコンをぜひつけてほしいです(市民は市民税を払っているのです)。	(女性、70歳以上、1～2回)
プロ野球の公式戦を開催してほしいです。	(女性、60歳代、毎日)
泉体育館を利用してみようと思う。	(女性、60歳代、ほとんどしていない)
「●●●●」という野球塾に、立川市内の小学校校庭を使用させているが、非常利活動といえども講師が報酬をもらって活動している団体に校庭を貸すことは、学習塾に教室を貸すことと同じである。このような団体が学校での活動が認められることで、親が学校公認の団体と誤認し、ひいては地域で活動しているスポーツクラブの活動を阻害することにつながるなど、地域の団体を支援すべき立場の学校・市の姿勢として間違っている。即刻貸し出しをやめてほしい。	(男性、60歳代、1～2回)
身近で気軽にできるスポーツを教えてほしい。	(女性、60歳代、無回答)

自由回答

回答内容	属性 (性別、年齢、スポーツ実施状況/週)
スポーツをやったらアルバイト感覚で金もうけのできるスポーツを増やしてほしい。金をかけてスポーツをやる気がない。今は自転車をつかった副業をしている。	(男性、60歳代、5～6回)
仕事が忙しくても、スポーツが出来たらいいなと思っています。	(女性、10・20歳代、ほとんどしていない)
女子大生でヨガやエアロビ、ピラティスに興味があるものの、民間のパーソナルトレーニングなどは高くお金が払えないから挑戦できない人は多いと思う。以前母が参加していたようですが、市民会館等の教室は年齢層が高かったり、子ども向けだったり、大学生の年代が一人で参加しやすいものではないと思います。 前回選挙でも思いましたが、子どもや高齢者向けの施策アピールばかりが目立ち、私たち若者(大学生など)が嬉しい施策が見当たらず、せっかく選挙権を得たのに投票する気が失せてしまいます。スポーツ施策でも何でもいいので、若者にとってうれしいことをして下さい。	(女性、10・20歳代、ほとんどしていない)
立川市は十分によくやっていると思います。ありがとうございます。	(男性、50歳代、1～2回)
公園にネットを設置するなど、子供がボールで遊べる場所をたくさん作ってほしい。	(女性、30歳代、3～4回)
「●●●●」に通っています。立川市で同じような内容の体操教室を安い金額で提供してくれるとありがたいと思います。	(女性、40歳代、3～4回)
高齢で単身です。水泳や元気体操をやっているの、今のままで十分です。	(女性、70歳以上、3～4回)
立川市内には泉町、柴崎町に立派な体育館があるが、利用できる市民は近隣の人に限られるので、離れたところに住む市民は利用しにくい。近くの学校の体育館、町内の公民館、公会堂その他の身近な公共施設で近くの住民が体を動かす機会を設けることができないかと思う。場所づくり、しくみづくりは大変だが、大金を投じて立派な施設をつくるよりはよいと思う。	(男性、60歳代、3～4回)
今の子どもたちが気軽に無料で遊べる空き地やグラウンドなどがあると良いと思います。チームに所属していなくてもサッカー、野球などで遊べる場所があると良い。	(女性、50歳代、ほとんどしていない)
立川市にもファミリー世帯が増えてきていると思いますが、0～3歳の子どもを持つ母親たちは運動がしたくても、どうしても子どもがいると離れることができないため、運動ができません。出産してから運動する機会がとて減ってしまいました。それにより、代謝も悪くなるし、1時間でも良いので、スポーツに没頭したい。託児を切に願います。	(女性、30歳代、ほとんどしていない)
住宅街じゃないところに大きいスケートパークを作してほしいです。IKEAの横のスケートパークは22時までで、その後はスケートパークではないところでスケボーをするのですが、近所迷惑で注意されたりするので、24時間スケートパークが使えるようになれば、近所迷惑で注意されることもなくなるし、夜しかスケボーする時間がない人も利用できていいと思います。後は4時間利用できるバスケットゴールがある公園とかあれば最高です。	(女性、10・20歳代、毎日)
近くに施設が無いためになかなか行けないのが現状です。	(女性、10・20歳代、ほとんどしていない)
本調査のスポーツの定義がわかりにくかった。特に、eスポーツをどうとらえてよいか不明確だった。そのため、設問26の回答が矛盾してしまった。是正検討をお願いします。	(男性、10・20歳代、ほとんどしていない)
子どもたちが気軽に参加できる運動イベントがあればよい。	(女性、40歳代、ほとんどしていない)
大学の部活動で泉・柴崎両市民体育館を使用したことがあるが、料金に違いがあるため統一していただきたい。	(女性、10・20歳代、1～2回)
高齢者が気軽に体を動かせる場所を提供してほしい。たとえば日曜日に学校が空いている時、ラジオ体操や軽い運動などができるとよい。学校の体育館が毎日使用できると嬉しいです。	(女性、70歳以上、毎日)
体育館での1か月の1、2度のフリースクールの実施を希望します。その中で自分のレベルの教室に参加したい。他の市では有料でやっているようです。	(女性、60歳代、無回答)
1. 60代となり、日ごろの運動不足は大変気になります。持病と体力不足にを相談する窓口等の充実を希望します。 2. 高齢者を対象にした教室を市の企画及び運営で実施していただきたい。	(女性、60歳代、ほとんどしていない)
バスケットボールのリングの設置をお願いしたい。	(男性、40歳代、1～2回)
各町会に身近にスポーツができる施設があればいいと思う。現在の公園では制約があつて難しい。	(男性、70歳以上、1～2回)
市民体育館で行われるスポーツ教室で夜の部が少ない様な気がします。柴崎体育館の方が泉体育館に比べて教室の数が多いので増やしてほしい。	(女性、50歳代、1～2回)

自由回答

回答内容	属性 (性別、年齢、スポーツ実施状況/週)
夜間にランニングすることができるコースを整備してはどうでしょうか。コートを増設など、テニスコートの予約を取りやすくしてほしい。例えばダーツなど、他の地域では力を入れていないスポーツに力を入れてはどうか。	(男性、40歳代、ほとんどしていない)
スポーツには全く興味はない。東京2020オリンピック競技大会にも興味はない。自分の子どもには水泳、体操教室に通わせていたので特に市に期待することはない。税金は別のことに使ってもらいたい。私の友人数名は自腹でスポーツクラブに入っている。他の友人も市が実施しているスポーツ教室に参加している人は一人もいません。テニスも同様です。	(女性、60歳代、ほとんどしていない)
体の不自由な方のスポーツなどをテレビで観戦していると、頑張っていることはわかりますが、何となく私自身がつまらなくなりテレビも消してしまいます。	(女性、70歳以上、毎日)
自衛隊や警察などの組織、施設が整っていることを活かして、エアライフルやビームライフルなどの射撃競技を行える施設が欲しいです。立川駐屯地や国営昭和記念公園の周りの歩道は信号も少なくランニングに適した道ではありますが、自転車と接触しそうになり危なく感じるがあるので、歩道の幅を広げるか、昭島の東日本成人矯正医療センターと国営昭和記念公園の間の道のように、歩行者と自転車を完全に分ける等の対策をしていただけると安全に走ることができます。しかし、自動車の交通量が多いので、自転車を完全に車道を走らせることにするのはやめていただきたいです。	(男性、10・20歳代、5～6回)
スポーツの苦手な人、体力の低い人などが気兼ねなく入れるような施設であればよい。体育館等のスポーツ施設にはスポーツが得意そうな方々が目立ち、入りづらい。	(男性、50歳代、5～6回)
体育館で行っているストレッチ教室に以前行っていたのですが、高齢になって、体(膝、股関節、腰等)のあちこちに痛いところが出てきました。あまりゆるくても物足りないのですが、1時間くらいでもう少しゆるい運動(体のケアを含む)ができる教室があるとうい。トレーニングルームは男性が多く、週1回の短い時間でもいいので、女性のみ利用できる時間帯があるとよい。	(女性、60歳代、3～4回)
テレビやインターネットを利用し、取組の情報を各家庭により届きやすくしてほしい。	(男性、40歳代、ほとんどしていない)
運動不足なので、運動はしたいが、フルタイムでの仕事、子育て、家事で疲れてしまい、運動する時間、気力、体力が残っていない。私のような人はほかにもいると思うので、このような人たちはどのように運動できるのか、アドバイスしてほしいです。今は時間があれば休みたいと思う気持ちのほうがあります。	(女性、40歳代、ほとんどしていない)
これだけ歩けばポイントが付くなど、シルバー世代のモチベーションとなるような運動を推進してほしい。	(女性、60歳代、3～4回)
シーズンごとにスポーツを変える。部活で1年中同じスポーツをするのはありえない。重すぎる。いい加減悪しき習慣をやめて、もっと気軽にいろいろなスポーツをするようにすべきだ。	(男性、50歳代、5～6回)
私が毎月参加している同好会に80歳以上の方がおられ、とても元気です。私の目標です。楽しい仲間がいるので、毎日一万歩を目標に元気なおばあちゃんでありたいと思います。	(女性、60歳代、毎日)
市民体育館が2つもあるので、ステップ台を入れてほしい。母がステップ台をしに有明や亀戸、青葉に行っています。ステップ台があるところは人気で予約がなかなか取れないそうです。	(女性、10・20歳代、1～2回)
他の市、区と比較して、地域での教室等の開催をあまりやっていないと思っていたが、近年色々増えていることを知りました。大きな施設を作るのは難しいと思うので、知る機会が増えればよいと思います。	(女性、40歳代、3～4回)
立川駅に近い場所に公共のスポーツ施設があるとよい。	(女性、60歳代、1～2回)
障害者に対して立川市ほど冷たい市はない。 市役所、図書館ですら露骨に障害者を邪魔者扱いする。 スポーツ施設は障害者に対する配慮すらない。障害者が職員・インストラクターからどれだけ侮辱的な言葉をあびせかけられているか、把握していないのではないかな。	(男性、50歳代、ほとんどしていない)
若葉町に住んでいますが、スポーツ施設が多摩モノレール沿線に多いので、行きづらい感じがする。くるりんバスも来なくなったし、年をとったら、立川市のスポーツ施設はますます行く気がしなくなると思う。実際、国立市や国分寺市のスポーツ施設を利用している人も多い。配慮がほしい。	(女性、50歳代、3～4回)
立川市はプール、体育館施設は充実していると思います。昭和記念公園等のスペースもあるのでスポーツ環境は問題ないと思います。税金も潤っていると思います。これからは、スケート、乗馬、ヨット等のスポーツを促進して力を入れてほしいと思います。助成金の充実をお願いします。	(男性、50歳代、毎日)
昭島市と比べて市民プールの料金が高いと思います。国営昭和記念公園の子どもが遊ぶエリアは無料にしてほしい。沖縄海洋博公園などで無料で子どもが楽しめるので、そのような場をたくさん増やしてほしい。	(男性、40歳代、ほとんどしていない)

自由回答

回答内容	属性 (性別、年齢、スポーツ実施状況/週)
5～6月においては、17時に仕事が終わる、テニスでもやろうと思っても、太陽が出ているのにナイター料金になる。日没が19時でも18時に照明が点く。6～8月は通常料金でテニスをしたい。照明なしで19時まで使用可能なコートはよくある。他の市を見てほしい。自治大のテニスコート使用料を泉市民体育館以外でも払えるようにできないか。錦町から泉町は遠い。支払いだけで1時間かかる。	(男性、60歳代、毎日)
泉市民体育館は現在●●●●に委託して館内各所を管理していますが、トレーニングルームのトレーナーの中には、とても怠慢な人がいます。特に男性に多いのですが、ずっと立っているだけで利用者の動向に関心を払わず、器具の使い方がわからず困っている人がいても気が付かなかったり、バーベル等の重い器具を乱暴にガシャンガシャン音を立てる人がいても注意しなかったり、といった態度が目につきます。指導してください。	(男性、30歳代、1～2回)
小学生が参加できるスポーツ教室や大会を開催してもらいたい。	(男性、30歳代、1～2回)
インターネットを使った予約システムは、予約変更に柔軟に対応できてよい。一方で、特に春と秋の期間だが、抽選申込期間中なのに抽選に申し込めない枠が多い。抽選枠にない早朝の時間に施設を使っている人たちがいるのは不公平である。	(男性、50歳代、1～2回)
1. スポーツに該当するかどうかわかりませんが「市民あるけあるけ運動」を入れてほしい。 2. 国立市富士見台にある東京都多摩障害者スポーツセンターもアンケートに入れてほしい。	(男性、50歳代、ほとんどしていない)

11 自由意見

自由回答まとめ

	件数 (2件以上のみ 数字を記載)
ハード面について	
スポーツ施設に関する要望	
一人でも気軽に運動できる施設	
多摩川河川敷の施設の充実	
温泉付スポーツ施設をつくってほしい	
富士見町に体育施設・スポーツ施設をつくってほしい	
若葉町に体育施設・スポーツ施設をつくってほしい	
サッカーができるグラウンドの増設	
夜遅くまで、かつ安い料金で利用できるダンススタジオがあるとよい	
テニスコートの増設	
スケートパークの拡充	
大規模なボルダリング施設をつくってほしい	
公園・広場の整備に関する要望	
身体を自由に動かせる広場や公園があるとよい	
ボール遊びが出来る場所/ボール遊びに関する禁止事項をなくしてほしい	3
子どもの遊び場/子どもが安心して遊べる公園	3
体育施設以外についての要望	
公民館等でも体を動かせるとよい	
各町会に施設があるとよい	
放課後に自由に校庭を使えるようにしてほしい	
立川駐屯地を活用した施設(射撃競技等)	
病院にスポーツ施設を併設してほしい	
その他ハード面での改善要望	
スポーツ用具の増設	
緑道にある健康遊具の充実	
体育施設の駐車場の充実	
夜間のランニングコースの整備	
ゴルフのケージの設置	
一般利用時に体育室のエアコンを効かせてほしい	
公園でボール遊びができるようネットを設置してほしい	
バスケットゴールの設置	
ウォーキングの際に使用できるトイレを増やしてほしい	
駐車場に監視カメラが必要	
柴崎市民体育館のトレーニングマシンを泉市民体育館にも設置してほしい	
スポーツ施設へのアクセスについて	
上砂町からは遠い/近隣でないと利用できない/若葉町からはアクセスが悪い	4
市民体育館への交通手段が良くなってほしい(市内循環バスなど)	
多摩モノレール沿いに住んでいないと行きづらい	
立川駅近くに施設があるとよい	
ハード面の評価	
立川市は泉・柴崎両市民体育館にプールがあり、とても良い	
プールや体育館は充実している	
個人でスポーツをする環境が整っている	
施設運営方法について	
市民体育館について	
高齢者の相談にのれるような医師の配置	
専属トレーナーを配置してほしい	
初心者への対応を改善してほしい/常連のなかに入りづらい	2
トレーニングルームは女性が使いづらい/女性専用の日を設定してほしい	
託児所を設置してほしい	
毎日体育館を使いたい(休館日をなくしてほしい)	
スタッフの接遇を改善してほしい	

自由回答まとめ

		件数 (2件以上のみ 数字を記載)
施設運営方法について		
プールについて		
プールの利用時間を利用しやすくしてほしい		
プールの利用料金が低い		
テニスコートについて		
テニスコートの予約が取りづらい		
夏季(6～8月)は、ナイター料金をなしにしてほしい		
自治大テニスコートの料金を泉市民体育館以外でも支払えるようにしてほしい		
早朝など、抽選枠にない時間に利用している人がいるのは不公平		
予約システムについて		
インターネット予約システムは、予約変更に対応できてよい		
抽選申込期間中にも関わらず抽選に申し込めない枠が多い		
市民体育館での教室等の運営について		
スケジュールが合わず利用できない		
教室の内容がハードで継続できなかった		2
負荷の少ない教室/ケアができる教室を実施してほしい		
プールの教室は継続の人で満員になり、参加できない		
教室は自由参加にしてほしい		
週1、2回のフリースクール(各レベルを自由に選択できる)があるとよい		
水泳教室に送迎バスサービスをつけてほしい		
体操教室は女性が多く、男性は入りづらい		
民間のスポーツクラブと同様の教室を提供してほしい		
夜間の教室を増やしてほしい		
ステップ台を入れてほしい		
シーズンごとに教室内容を変えてほしい		
スポーツ施策について		
スポーツの推進・スポーツ全般に関する意見・要望		
仕事が忙しくてもスポーツをしたい/忙しくてスポーツができない		2
乳幼児がいるとスポーツができない/子どもがいてもスポーツができる環境をつくってほしい		
身近で気軽にできるスポーツを教えてほしい		
シニア世代の体力の保持増進に力を入れる必要がある		
持病と体力不足を相談する窓口等の充実を希望する		
子どもや高齢者向けの施策はあるが、若者向けの施策がない		
運動と同様、食事も重要		
障害者が気軽にスポーツができる環境をつくってほしい/障害者への配慮がない		2
意識改革から始めるべきである		
初心者/運動が苦手な人が始められやすい施設にしてほしい		
勝敗重視のスポーツは継続することが困難である		
体を動かすことの重要性を認知していない人々に、いかにスポーツに関わってもらえるか、重要性を広く認知してもらう取組が必要である		
スポーツ予算について/補助等について		
予算のやりくりが大変かと思いますが、頑張ってください		
スポーツの予算をもっと社会福祉に費やすべきである		
スポーツ施策に対し税金面の優遇策を考えて欲しい		
スポーツ・運動施設利用に市民割引等があると始めるきっかけになると思う		
子どものスポーツの推進/スポーツ環境について		
塾等への時間にとられ、子供本来の自由な時間が少なくなり、子供同士での自由な時間が取れなくなってきたことが残念である		
放課後に、予約などをしていなくても行けば遊べる場所があるとよい		
子どもたちが気軽に参加できる運動イベントを実施してほしい		2

自由回答まとめ

		件数 (2件以上のみ 数字を記載)
スポーツ施策について		
情報提供について		
自宅のできる体操などを広報で紹介してほしい		
体を動かすことについてアドバイスがほしい		
取組に興味のある人にホームページから登録をもらい、個別に必要な情報をお届けするサービスを実施してみてもどうか		
教室の情報をホームページに掲載/講師の情報など		
義務教育が終わると体育がなくなり運動しないので、義務教育終了時に体育施設の情報を教えるべき		
テレビやインターネットを利用し、取組の情報を提供する		
指導者について		
資格を持つ指導者を活用してほしい		
スポーツ施策/イベント・教室に関する提案・要望		
40・50代をターゲットにしたり、主婦をターゲットにしたものは少ない		
高齢者が気軽に体を動かせる場所を提供してほしい		
高齢者向けの教室を充実してほしい		
シルバー世代のモチベーションとなるような運動の推進(ポイント制など)		
高齢者と子ども、孫たちと一緒に運動できる環境をつくってほしい		
ラージボール卓球を普及してほしい		
他の地域にないスポーツを実施してほしい(ダーツ)		
スケート、乗馬、ヨット等を普及してほしい		
競輪場や野球場で走行会や体験会を実施してほしい		
プロを呼び子どもに興味を持たせる機会をつくってほしい		
プロ野球の公式戦を開催してほしい		
他の市町村と一緒にスポーツができる合同の大会をつくってほしい		
姉妹都市である大町市との共同での登山に関するイベントを実施してほしい		
eスポーツについて		
eスポーツを推進してほしい		2
eスポーツは税金の無駄である		

4 スポーツ施設の利用状況（体育館・屋外）

市民体育館

施設	施設内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		人数	人数	人数
泉	第1体育室	157,410	165,878	157,144
	第2体育室	59,205	58,714	56,843
	トレーニング室	58,567	61,603	59,803
	クライミング	7,472	8,767	7,401
	室内水泳場	93,753	90,220	79,993
	研修室・会議室	9,991	10,828	11,436
小計		386,398	396,010	372,620
柴崎	第1体育室	82,570	71,260	75,450
	第2体育室	25,345	17,761	22,679
	トレーニング室	43,830	48,880	49,899
	室内水泳場	94,676	94,179	100,612
	研修室・会議室	2,713	2,536	2,468
	スタジオ・ダンススペース	31,219	33,295	34,949
小計		280,353	267,911	286,057

陸上競技場

施設	施設内容	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数
立川公園	4種公認 400mトラック	77	19,460	50	4,989	54	7,329
見影橋		271	14,629	294	13,660	271	14,918
小計		348	34,089	344	18,649	325	22,247

野球場

施設	施設内容	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数
立川公園	1面(硬・軟・ソ) ナイター	569	25,109	519	18,319	324	12,185
見影橋公園	1面(軟・少・ソ) ナイター	501	13,947	484	14,489	470	11,584
多摩川緑地	4面(軟・ソ)	1,657	45,477	1,036	31,812	1,377	40,755
新堤防	1面(少)	364	7,529	359	8,372	386	6,345
中里	2面(少・ソ)	721	16,543	749	15,834	799	15,508
泉町	1面(少・ソ) ナイター	532	16,445	555	15,903	529	15,470
一番町	1面(少)	334	5,117	365	5,401	371	7,437
砂川中央北	1面(軟・少・ソ)	611	29,357	700	35,045	694	31,357
砂川中央東	2面(少・ソ or 軟・少・ソ)	882	26,754	865	27,552	825	26,326
小計		6,171	186,278	5,632	172,727	5,775	166,967

(硬式・軟式・少年・ソフトボール)の略

庭球場

施設	施設内容	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数
西砂	クレ－(土)2面	1,329	5,498	1,020	4,262	1,036	3,860
泉町	全天候型4面 ナイター	6,198	31,561	5,871	29,969	6,204	30,567
砂川中央	クレ－(土)4面	2,020	9,183	3,347	15,257	3,344	15,438
錦町	全天候型4面 ナイター	4,205	21,677	3,751	19,266	4,162	21,029
自治大学校	全天候型4面	385	2,446	345	1,560	330	1,751
小計		14,137	70,365	14,334	70,314	15,076	72,645

ゲートボール場

施設	施設内容	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数
泉町	2面	1,218	8,150	1,085	7,123	1,053	6,699
砂川中央	2面	920	5,041	873	5,065	765	4,293
砂川中央東	2面	16	228	18	232	8	150
小計		2,154	13,419	1,976	12,420	1,826	11,142

武道場

施設	施設内容	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数
練成館	剣道・柔道・弓道・相撲ほか	3,669	36,390	3,585	37,339	3,596	37,638

多目的運動場

施設	施設内容	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数
中里	サッカー・ゲートボール等	299	12,243	277	9,601	304	11,698
砂川中央北	サッカー・ゲートボール等	475	32,245	418	32,807	434	28,934
砂川中央	少年野球・ゲートボール等	558	13,036	531	12,107	513	11,649
多摩川緑地	マラソンほか	131	22,141	65	23,502	134	5,500
新堤防	少年サッカー	3	120	24	455	41	726
自治大学校	少年サッカー	30	8,351	33	8,627	33	9,291
小計		1,496	88,136	1,348	87,099	1,459	67,798

フットサル場

施設	施設内容	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数
錦町	フットサル場 ナイター	346	4,858	360	5,409	348	5,163

立川市体育施設一覽

種別	施設名	施設の内容	住所	電話番号/FAX
体育館	泉市民体育館	通年開館 毎月第2・4木曜休館 第1・2体育室 トレーニング室 プール 午前9時～午後11時	泉町786-11	536-6711 537-8220
	柴崎市民体育館	通年開館 毎月第3月曜休館 第1・2体育室 トレーニング室 プール 午前9時～午後11時	柴崎町6-15-9	523-5770 525-7364
陸上競技場	立川公園陸上競技場	4～11月開場 1面 午前9時～午後5時	錦町6-29-62	522-7250 同上
野球場	多摩川緑地野球場	通年開場 4面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	柴崎町5-11先	527-6836 527-6867
	立川公園新堤防運動広場	通年開場 1面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	錦町5-20	527-9321 同上
	立川公園野球場	4～12月・3月開場 1面 午前9時～午後9時 「11月・12月・3月は 午前10時～午後4時」	錦町6-29-62	523-0825 なし
	泉町野球場	4～12月・3月開場 1面 午前9時～午後9時 「11月・12月・3月は 午前10時～午後4時」	泉町786-13	535-7371 なし
	砂川中央地区北野球場	通年開場 1面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	砂川町5-25-1	534-3899 536-8840
	見影橋公園野球場 (陸上競技場兼用)	4～12月・3月開場 1面 午前9時～午後9時 「11月・12月・3月は 午前10時～午後4時」	砂川町3-12-1	537-2695 同上
	一番町少年野球場	4～11月開場 1面 午前9時～午後5時 「11月は 午前10時～午後4時」	一番町6-17	531-5936 531-5970
	中里野球場	通年開場 2面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	西砂町3-47	531-5733 なし
	砂川中央地区東野球場	通年開場 2面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	砂川町1-27-1	534-3899 536-8840
多目的運動広場	中里多目的運動広場	通年開場 1面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	西砂町3-47	531-5733 なし
	砂川中央地区北多目的運動広場	通年開場 1面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	砂川町5-12-1	534-3899 536-8840
	砂川中央地区多目的運動広場	通年開場 1面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	砂川町1-54-1	536-6684 同上
	錦町フットサル場 (火・水・木夜間、第1・3・5土曜、第2・4日曜)	通年開場 2面 午前9時～午後9時 (12月～2月は 午後5時まで) 砂入人工芝	錦町5-20	527-9321 同上
	自治大学校多目的運動広場	3月～12月 日曜日のみ開場 1面 午前9時～午後5時 天然芝	緑町10-1	540-4500 なし
庭球場	泉町庭球場	通年開場 4面 午前9時～午後9時 (12～2月は 午後5時まで) 砂入人工芝	泉町786-7	534-0264
	西砂庭球場	通年開場 2面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	西砂町3-68	531-0878
	砂川中央地区庭球場	通年開場 4面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	砂川町1-41-5	536-6684 同上
	錦町庭球場 (火・水・木昼間、月・金、第2・4土曜、第1・3・5日曜)	通年開場 4面 午前9時～午後9時 (12～2月は 午後5時まで) 砂入人工芝	錦町5-20	527-9321 同上
	自治大学校庭球場 (団体利用2区分)	土曜日のみ 通年開場 4面 午前9時～午後5時 砂入人工芝	緑町10-1	540-4500 なし
ゲートボール場	泉町ゲートボール場	通年開場 2面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	泉町786-7	534-0264 534-0333
	砂川中央地区ゲートボール場	通年開場 2面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」 1面人工芝	砂川町1-42-6	536-6684 同上
	砂川中央地区東ゲートボール場	通年開場 2面 午前9時～午後5時 「11月～3月は 午前10時～午後4時」	砂川町1-61-4	534-3899 536-8840
武道場	練成館	通年開館 剣道場2 柔道場 弓道場 相撲場 午前9時～午後9時30分	柴崎町1-5-7	526-2219 なし
スケートパーク	たちかわ中央公園スケートパーク	通年開場 平日：午後1時～午後10時 土日祝：午前9時～午後10時 ※中学生以下は 午後6時まで	緑町105-3	なし

5 スポーツ施設の利用状況（小・中学校）

スポーツ団体利用

施 設	施設内容	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		日数	人数	日数	人数	日数	人数
第一小学校	校 庭	227	9,066	204	8,255	215	7,845
	体育館	263	4,492	240	4,273	216	3,912
第二小学校	校 庭	133	5,669	161	7,903	243	9,936
	体育館	226	3,621	216	3,890	221	4,782
第三小学校	校 庭	178	9,581	168	9,313	158	9,511
	体育館	271	8,606	253	6,971	264	7,888
第四小学校	校 庭	180	8,313	176	7,671	179	7,908
	体育館	291	11,339	288	13,182	281	11,001
第五小学校	校 庭	205	8,017	0	0	0	0
	体育館	247	8,895	249	10,595	252	10,769
第六小学校	校 庭	103	5,552	146	9,182	121	9,424
	体育館	234	5,935	268	6,367	273	6,772
第七小学校	校 庭	213	11,236	211	8,955	284	10,401
	体育館	220	5,375	235	6,249	233	5,891
第八小学校	校 庭	0	0	57	2,997	163	7,406
	体育館	92	3,084	259	10,227	271	10,532
第九小学校	校 庭	230	9,967	211	9,867	202	8,915
	体育館	235	4,764	259	6,234	272	8,135
第十小学校	校 庭	207	8,678	166	6,177	137	6,739
	体育館	264	7,282	234	5,965	240	7,142
けやき台小学校	校 庭	109	5,893	97	4,618	—	
	体育館	267	8,395	258	8,134		
西砂小学校	校 庭	150	12,844	145	13,033	203	14,643
	体育館	196	4,286	219	5,333	215	4,175
南砂小学校	校 庭	86	3,025	141	5,285	0	0
	体育館	218	2,928	88	1,057	69	763
若葉台小学校 (旧 若葉小学校)	校 庭	221	8,394	191	6,001	214	6,436
	体育館	216	6,876	207	7,773	271	10,071
幸小学校	校 庭	210	13,930	207	10,026	219	11,073
	体育館	272	4,890	262	3,967	236	5,356
松中小学校	校 庭	181	14,283	168	14,786	259	11,615
	体育館	153	4,036	175	5,380	168	5,554
大山小学校	校 庭	211	12,983	244	13,964	256	16,461
	体育館	281	9,219	274	9,092	193	6,061
柏小学校	校 庭	147	6,269	146	6,731	188	7,715
	体育館	197	3,917	191	3,728	225	4,820

上砂川小学校	校 庭	81	3,641	78	3,713	86	4,085
	体育館	275	9,134	268	8,845	258	9,299
新生小学校	校 庭	100	2,268	94	2,333	79	2,108
	体育館	267	12,548	256	11,714	280	12,860
立川第一中学校	校 庭	6	108	75	1,112	257	2,796
	体育館	272	5,597	216	4,202	329	6,189
立川第二中学校	校 庭	83	3,624	98	5,360	80	3,191
	体育館	313	4,110	263	3,164	133	1,567
立川第三中学校	校 庭	91	2,428	91	3,052	94	3,612
	体育館	276	3,678	261	3,170	278	4,712
立川第四中学校	校 庭	200	12,758	213	13,066	149	10,136
	体育館	252	4,816	244	5,109	277	6,454
立川第五中学校	校 庭	131	2,426	169	4,460	173	5,062
	体育館	226	4,219	203	3,333	248	3,715
立川第六中学校	校 庭	167	5,593	152	4,971	214	7,489
	体育館	246	3,685	220	3,868	251	3,595
立川第七中学校	校 庭	109	1,996	107	1,960	78	1,185
	体育館	300	3,940	313	4,606	296	4,445
立川第八中学校	校 庭	137	4,726	129	4,799	154	5,642
	体育館	319	4,672	301	4,586	312	6,140
立川第九中学校	校 庭	200	3,985	102	3,303	89	3,448
	体育館	244	4,867	323	5,735	292	5,407
小計	校 庭	4,296	197,253	4,147	192,893	4,494	194,782
	体育館	7,133	169,206	7,043	176,749	6,854	178,007

※第五小学校は、大規模改修工事のため、平成29年4月から校庭の利用を中止。

※第八小学校は、大規模改修工事のため、平成28年度は校庭の利用を中止。

※けやき台小学校は、若葉小学校との統合により、平成29年度末に閉校。

※南砂小学校は、大規模改修工事のため、平成30年4月から校庭の利用を中止。

小学校遊び場開放利用

施 設	施設内容	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数
第一小学校	校 庭	82	6,434	78	6,435	88	6,280
	体育館	0	0	0	0	0	0
第二小学校	校 庭	83	2,417	82	1,661	85	1,074
	体育館	0	0	0	0	0	0
第三小学校	校 庭	90	2,220	75	1,699	88	2,677
	体育館	12	26	5	16	10	78
第四小学校	校 庭	91	2,552	83	1,855	94	2,154
	体育館	89	69	2	11	4	37
第五小学校	校 庭	92	2,693	0	0	0	0
	体育館	12	518	0	0	0	0
第六小学校	校 庭	43	1,088	87	1,477	82	1,418
	体育館	12	19	4	10	1	10
第七小学校	校 庭	85	2,818	80	2,001	84	1,722
	体育館	37	294	32	303	24	253
第八小学校	校 庭	0	0	39	1,346	96	5,385
	体育館	0	0	0	0	0	0
第九小学校	校 庭	94	8,004	89	7,198	96	5,849
	体育館	0	0	0	0	0	0
第十小学校	校 庭	93	5,072	87	4,462	97	5,264
	体育館	37	337	10	121	8	63
けやき台小学校	校 庭	89	3,068	72	2,251	—	
	体育館	26	337	22	121		
西砂小学校	校 庭	90	2,188	87	2,243	95	2,543
	体育館	90	52	1	98	0	0
南砂小学校	校 庭	94	3,340	88	2,549	0	0
	体育館	0	0	0	0	0	0
若葉台小学校 (旧 若葉小学校)	校 庭	90	3,203	72	2,295	83	2,059
	体育館	0	0	0	0	1	30
幸小学校	校 庭	96	6,743	88	3,735	92	2,854
	体育館	25	221	21	92	11	46
松中小学校	校 庭	86	1,058	88	660	95	373
	体育館	0	0	0	0	8	22
大山小学校	校 庭	95	9,255	87	9,721	94	7,662
	体育館	32	977	21	543	20	418
柏小学校	校 庭	83	2,087	81	1,835	94	1,274
	体育館	77	6	0	0	1	0
上砂川小学校	校 庭	94	2,943	85	2,871	16	2,242
	体育館	84	0	0	0	2	97
新生小学校	校 庭	94	2,458	87	1,410	96	1,892
	体育館	36	474	16	74	18	134
小 計	校 庭	1,664	69,641	1,535	56,358	1,475	47,337
	体育館	569	3,330	134	2,735	108	6,573

※第五小学校は、大規模改修工事のため、平成29年4月から校庭の利用を中止。

※第八小学校は、大規模改修工事のため、平成28年度は校庭の利用を中止。

※けやき台小学校は、若葉小学校との統合により、平成29年度末に閉校。

※南砂小学校は、大規模改修工事のため、平成30年4月から校庭の利用を中止。

6 スポーツ事業の実績

子どものスポーツの推進

子ども対象のスポーツ事業の開催

(延べ参加者数)

事業名	平成28年度	平成29年度	平成30年度
親子体操教室	(5組)10	－	－
市民体育館における各種教室	38,526	44,325	48,827
ソフトテニス教室	261	197	182
ジュニア体力競技力向上事業	812	757	1,449
小学生クラブ交流大会	1,000	1,054	1,054
なわとび検定会	484	630	484
小学生姿勢教室	(30組)61	(27組)58	(66組)139
泉市民体育館まつり	289	461	704
なわとびチャンピオン大会	355	334	405
立川シティハーフマラソン3kmレース/ 親子ペアレース	1,922	1,854	1,607
合 計	43,720	49,670	54,851

※親子体操教室は、平成28年度までで終了

※小学生姿勢教室は平成28年度からの新規事業

成人や子育て世代のスポーツの推進

各種スポーツ関連教室、イベントの開催

(延べ参加者数)

事業名	平成28年度	平成29年度	平成30年度
体力年齢測定会	47	52	31
市民あるけあるけ運動	164	43	49
ラジオ体操・みんなの体操会	277	250	175
ラジオ体操講習会	66	57	32
成人対象事業「ママビクス&ベビーマッサージ」	118	160	146
合 計	672	562	433

※市民あるけあるけ運動は、平成28年度まで年2回、平成29年度より年1回

高齢者のスポーツの推進

高齢者対象スポーツ事業の開催

(延べ参加者数)

事業名	平成28年度	平成29年度	平成30年度
市民高齢者2万歩ハイク	66	67	51
市民あるけあるけ運動(再掲)	164	43	49
筋力アップ貯筋(体力アップ)体操教室	192	190	186
体力年齢測定会(再掲)	47	52	31
ラジオ体操・みんなの体操会(再掲)	277	250	175
ラジオ体操講習会(再掲)	66	57	32
スポレクフェスタ	2,413	2,419	2,110
保健講座「やさしいヨガ教室」	133	117	196
保健講座「楽しく元気を目指せ健康づくり」	38	38	36

保健講座「いきいき体操！」	47	28	58
保健講座「やさしい健康気功」	128	76	122
保健講座「やさしい太極拳」	68	134	211
保健講座「はじめよう！ポールウォーキング」	30	38	18
保健講座「正しい姿勢で歩こう！ポールウォーキング」	62	－	－
保健講座「はじめてのミニテニス」	60	－	－
保健講座「はじめてのターゲットバードゴルフ」	43	－	－
保健講座「シナプソロジー」	－	－	48
一般介護予防事業「地域体操クラブ」	319	166	90
一般介護予防事業「健康体操応援リーダー等派遣事業」	30	70	132
高齢者対象事業「寿教室」	13,210	12,202	11,507
合 計	17,393	15,947	15,052

※筋力アップ貯筋体操教室は平成30年度より体力アップ体操教室に名称変更

障害者のスポーツの推進

障害者スポーツ教室、イベントの開催

(延べ参加者数)

事業名	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ブラインドサッカー体験会	867	767	600
スポーツ推進委員主催ボッチャ体験会	33	29	27
ハンディ水泳教室	138	433	107
チャレンジスポーツ教室	597	665	723
障害者スポーツイベント	211	224	167
障害者スポーツ大会	616	578	598
合 計	2,462	2,696	2,222

ボッチャ用具の貸出

内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ボールセット	(3団体) 4セット	(39団体) 74セット	(33団体) 62セット
ランプ	(2団体) 3個	(16団体) 18個	(3団体) 7個

地域スポーツクラブの支援

地域スポーツ教室の開催

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
延べ参加者数	9,706	10,138	7,025
開催回数	876	949	608

地域スポーツ団体との連携によるスポーツ振興・競技力向上の推進

競技スポーツの振興事業

(延べ参加者数)

事業名	平成28年度	平成29年度	平成30年度
市民体育大会	26,069	23,550	22,712
アスリートスポーツ教室	－	63	138
泉市民体育館まつり(再掲)	289	461	704
都民体育大会	354	327	288

都民生涯スポーツ大会	148	151	145
合 計	26,860	24,552	23,987

※アスリートスポーツ教室は、平成29年度からの新規事業

競技団体補助金

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
補助対象の団体数	21	21	21

ニュースポーツによるスポーツの推進

ニュースポーツ振興事業

(延べ参加者数)

事業名	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ソフトバレーボール大会	213	195	-
ニュースポーツ体験会(ゴールドタッチ体験会)	-	-	128
合 計	213	195	128

※ソフトバレーボール大会は平成29年度(第12回)で終了し、平成30年度より新たな種目の体験会を開催

立川シティハーフマラソンの推進

立川シティハーフマラソン

(参加者数)

種目	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ハーフマラソン(一般)	6,637	6,809	6,578
ハーフマラソン(学生)	1,044	1,018	919
3kmレース	1,968	1,849	1,627
親子ペアレース	518	584	532
合 計	10,167	10,260	9,656

健康づくり事業の推進

健康づくり事業の開催

(延べ参加者数)

事業名	平成28年度	平成29年度	平成30年度
体力年齢測定会(再掲)	47	52	31
筋力アップ貯筋(体力アップ)体操教室(再掲)	192	190	186
小学生姿勢教室(再掲)	61	58	139
地域参加型機能訓練「ラフ&タフ体操教室」	1,222	900	964
合 計	1,522	1,200	1,320

※筋力アップ貯筋体操教室は平成30年度より体力アップ体操教室に名称変更

オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とするスポーツの推進

近代3種の大会

(参加者数)

事業名	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ジャパン近代3種シリーズ2018第7戦立川大会	-	-	125
第6回近代3種日本選手権大会兼 第13回JOCジュニアオリンピックカップ	-	-	100
合 計	-	-	225

7 立川市スポーツ推進審議会条例

○立川市スポーツ推進審議会条例

昭和 54 年 3 月 31 日条例第 7 号

改正

平成 23 年 10 月 7 日条例第 10 号

平成 27 年 3 月 20 日条例第 8 号

立川市スポーツ推進審議会条例

(設置)

第 1 条 スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）第 31 条の規定に基づき、立川市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

(組織)

第 2 条 審議会は、市長が任命する委員 15 人以内をもって組織する。

(委員の任期)

第 3 条 委員の任期は、2 年とし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第 4 条 審議会に会長及び副会長各 1 人を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、当該職務を代理する。

(会議)

第 5 条 審議会は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の定数の過半数の者が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(部会)

第 6 条 審議会に部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員は、委員の互選によって定める。

3 部会に部会長を置き、部会の委員のうちから互選によって定める。

(委任)

第 7 条 この条例の施行について必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成 23 年 10 月 7 日条例第 10 号）

1 この条例は、公布の日から施行する。

2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の立川市スポーツ振興審議会条例に基づき任命されている立川市スポーツ振興審議会の委員は、その任期が終了するまでの間は、改正後の立川市スポーツ推進審議会条例第 2 条の規定により任命された立川市スポーツ推進審議会の委員とみなす。

附 則（平成 27 年 3 月 20 日条例第 8 号）

この条例は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

平成31年度立川市スポーツ推進審議会委員名簿

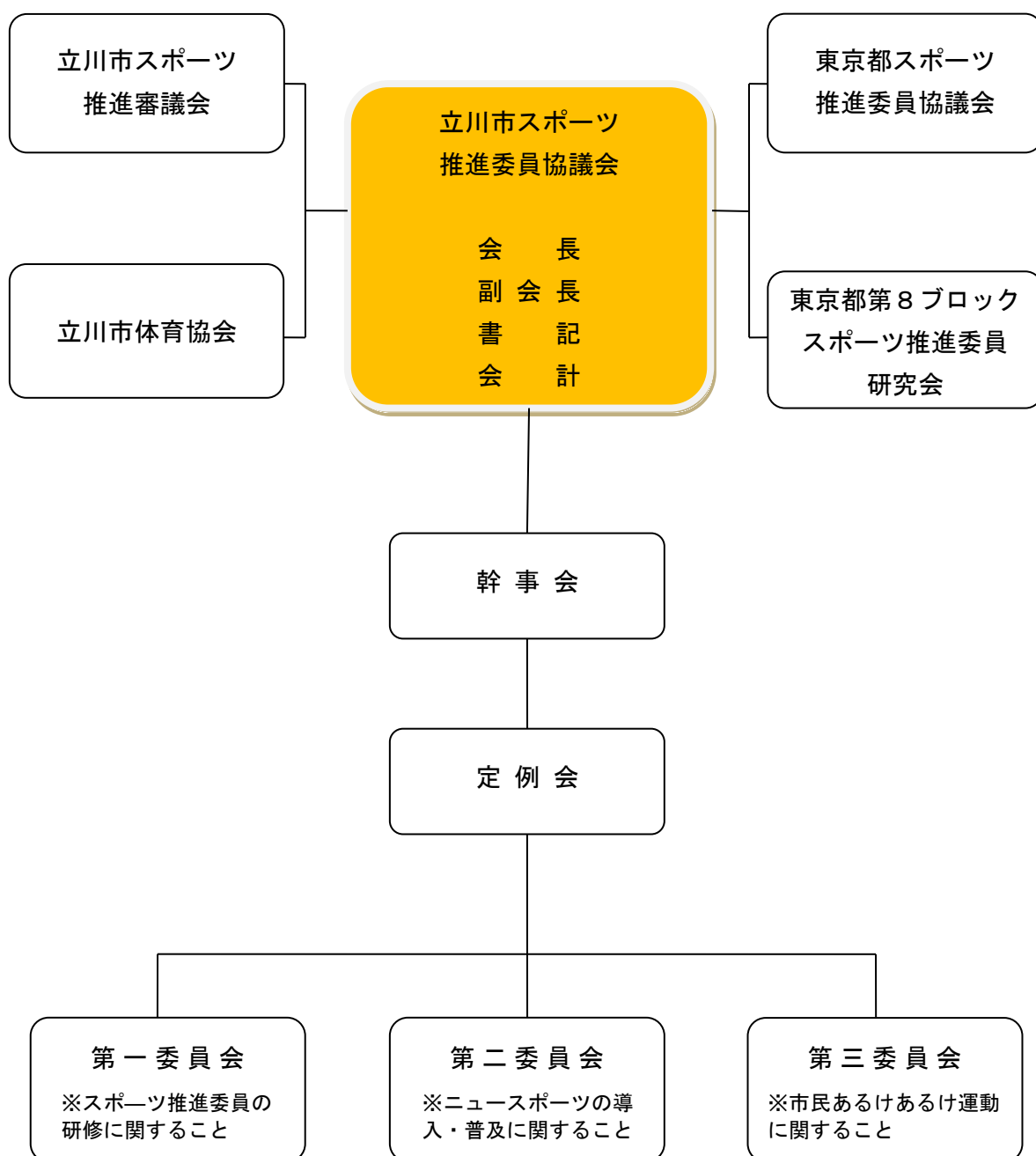
(任期:令和元年7月1日～令和3年6月30日)

	氏 名	推薦団体(役職)	委員歴
○	河内 勝正	特定非営利活動法人 立川市体育協会 (会長)	二期目
	井美 万里子	立川市スポーツ推進委員協議会 (高松町体育会)	一期目
	菊池 修	立川市立小学校長会 (第九小学校校長)	一期目
	水越 伸朗	立川市立中学校長会 (立川第八中学校校長)	一期目
◎	秋山 エリカ	体育専門学者 (東京女子体育大学 教授)	三期目
	永島 康雄	立川市自治会連合会 (理事)	一期目
	高橋 節子	立川市子ども会連合会 (庶務)	一期目
	市川 利夫	立川市老人クラブ連合会 (体育部副部長)	二期目
	森川 良行	一般社団法人立川市医師会 (小児・学校保健・公衆衛生対策委員会委員)	一期目
	西村 修二	東京都多摩立川保健所 (企画調整課長)	一期目
	砺波 正博	市民委員	一期目
	渡邊 健太	市民委員	一期目

※◎は会長
○は副会長

9 立川市スポーツ推進委員協議会組織図

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法第 32 条に基づき、市町村教育委員会（特定地方公共団体にあっては、その長）によって委嘱される非常勤の公務員です。立川市においては、現在 12 地区体育会より推薦された 24 名のスポーツ推進委員が、スポーツ団体や組織の育成、実技指導や助言、ニュースポーツの普及等を目的に活動しています。



10 立川市スポーツ推進委員規則

○立川市スポーツ推進委員規則

平成27年3月31日規則第13号

(目的)

第1条 この規則は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第32条第1項の規定に基づく立川市スポーツ推進委員（以下「委員」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(職務)

第2条 委員は、住民のスポーツの振興に関し、その分担する地域又は事項について、次の各号に掲げる職務を行うものとする。

- (1) 地域住民のスポーツ団体及び組織の育成に関すること。
- (2) 住民のスポーツの実技指導及び助言に関すること。
- (3) 学校等の教育機関その他の行政機関の行うスポーツの行事又は事業に関し協力すること。
- (4) 職場スポーツその他スポーツ団体等の相互連絡協力に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進のために必要な指導及び助言を行うこと。

(定数)

第3条 委員の定数は、36人以内とする。

(委嘱)

第4条 委員は、次の各号に掲げる条件を備えている者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 社会的信望を有し、スポーツの実技指導に熱意及び能力のある者
- (2) 学識経験のある者

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 特別の事由があるときは、その任期中においても委員を免職し、又は解職することができる。

(服務)

第6条 委員は、相互に密接に連絡し、協力しなければならない。

- 2 委員は、その職務を遂行するに当たって、法令、条例並びに規則及び規程に従わなければならない。
- 3 委員は、その職の信用を傷つけ、又はその職全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

(報酬)

第7条 委員の報酬は、立川市非常勤職員給与等支給条例（昭和36年立川市条例第2号）別表の規定により月額10,800円とする。

(研修)

第8条 委員は、常にその職務を行ううえで必要な知識及び技術の修得に努めなければならない。

(委任)

第9条 この規則の施行に関し必要な事項は、産業文化スポーツ部長が別に定める。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

1 1 立川市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

○立川市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

平成 27 年 3 月 30 日要綱第 48 号

(設置)

第 1 条 スポーツ振興に係る基本的な計画を策定するため、立川市スポーツ推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を処理する。

- (1) スポーツ推進計画の策定に関すること。
- (2) スポーツ振興に関し、特に調整を必要とする事項に関すること。
- (3) その他必要な事項に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

- 2 委員長は、産業文化スポーツ部長を充て、副委員長は、産業文化スポーツ部スポーツ振興課長（以下「スポーツ振興課長」という。）を充てる。
- 3 委員は、別表第 1 に定める者を充てる。

(職務)

第 4 条 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 3 委員は、委員会の命を受けて委員会の事務に従事する。

(会議)

第 5 条 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の定数の過半数の者が出席しなければ、会議を開くことができない。

(幹事会)

第 6 条 委員会に幹事会を置く。

- 2 幹事会は、委員会に係る事項について協議する。
- 3 幹事会は、幹事長及び幹事をもって組織する。
- 4 幹事長は、スポーツ振興課長を充て、幹事は、別表第 2 に定める課等の職員のうち委員長又は幹事長が指名した者を充てる。
- 5 幹事長に事故があるときは、委員長があらかじめ指定した者がその職務を代理する。

(関係職員の出席等)

第 7 条 委員会及び幹事会は、必要があると認めたときは、関係職員の出席を求め、説明又は意見を求めることができる。

(庶務)

第 8 条 委員会及び幹事会の庶務は、産業文化スポーツ部スポーツ振興課において処理する。

(委任)

第 9 条 この要綱の施行について必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

別表第 1（第 3 条関係）

総合政策部企画政策課長、財務部財政課長、産業文化スポーツ部産業観光課長、産業文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック準備室長、子ども家庭部子ども育成課長、福祉保健部福祉総務課長、福祉保健部障害福祉課長、福祉保健部健康づくり担当課長、教育委員会事務局教育部指導課長及び教育委員会事務局教育部生涯学習推進センター長

別表第 2（第 6 条関係）

産業文化スポーツ部産業観光課観光振興係長、産業文化スポーツ部スポーツ振興課管理係長、産業文化スポーツ部スポーツ振興課スポーツ振興係長、産業文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック準備室準備係長、子ども家庭部子ども育成課青少年係長、福祉保健部福祉総務課生きがづくり係長、福祉保健部障害福祉課障害福祉第一係長、福祉保健部健康推進課保健事業係長、教育委員会事務局教育部指導課指導係長及び教育委員会事務局教育部生涯学習推進センター管理係長

立川市第2次スポーツ推進計画

令和2（2020）年7月発行

発行 立川市
〒190-8666
東京都立川市泉町 1156 番地の9
電 話 042-523-2111（代表）
FAX 042-534-5169
ホームページ <https://www.city.tachikawa.lg.jp/>
編集 産業文化スポーツ部スポーツ振興課